

男女共同参画に関する市民意識調査
集計等結果報告書

令和4年3月

鴨川市

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 分析上の留意点	1

II 回答者の属性

① 性別	2
② 年齢	2
③ 職業形態	3
④ 未既婚	4
④-1 共働きの状況	4
⑤ 世帯構成	5
⑥ 子どもの状況	5
⑦ 居住地区	6

III 調査結果

1. 男女平等と人権について	7
(1) 男女の平等感	7
(2) 男女平等実現のために重要なこと	11
(3) 性別役割分担意識	12
(4) メディアにおける性・暴力表現について	13
(5) 女性の人権が侵害されていると感じること	14
2. 家庭・子育て・介護について	15
(1) 家庭における役割意識	15
(2) 自分が分担してもよい家庭の仕事	20
(3) 配偶者・パートナーに分担してもらいたい家庭の仕事	21
(4) 結婚観	22
(5) 出生率低下の原因	26
3. 学校教育について	28

4. 就労について	30
(1) 女性が職業を持つことについての考え方	30
(2) 女性が職業を続けていくために必要なこと	31
(3) 職場での育児休業・介護休業の取りやすさ	32
(4) 男性が育児休業・介護休業をとらない理由	33
(5) ワーク・ライフ・バランスの認知状況	34
5. 男女間の暴力について	35
(1) 配偶者等からの暴力行為の有無	35
(2) 暴力行為を受けた際の相談相手	38
(3) 相談していない人の理由	39
(4) 相談窓口の認知状況	40
(5) 暴力行為等に対する行政への希望	41
6. 政策決定の場における男女共同参画について	42
(1) 政策決定過程における女性参画について	42
(2) 政策決定過程における女性参画の社会的影響	43
7. 防災・災害対策について	44
(1) 防災・災害対策において女性に配慮した対応の必要性	44
(2) 防災・災害対策における女性の視点での配慮が必要なこと	45
8. 市の取組について	46
(1) 男女共同参画社会の実現にむけて市が取り組むべきこと	46
(2) 自由意見	48

IV 調査結果からの課題

課題1 男女平等と人権の意識づくり（男女共同参画の実現に向けて）	56
課題2 家庭・子育て・介護における固定的性別役割分業意識の是正	57
課題3 学校教育における男女平等教育	58
課題4 就労及びワーク・ライフ・バランスについて	58
課題5 男女間等あらゆる暴力の根絶について	60
課題6 政策決定の場における男女共同参画の推進	60
課題7 防災・災害対策の男女共同参画	61
課題8 市の取組	62

資料 調査票

「男女共同参画に関する市民意識調査」ご協力のお願い	64
---------------------------	----

I 調査の概要

1. 調査の目的

市では、平成 28 年 3 月に「第 2 次鴨川市男女共同参画計画」を策定し、男女が互いにその人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を發揮することができる男女共同参画社会の実現を目指している。

本年度は、この計画後半の最終年度に当たるが、来年度以降の男女共同参画施策の推進に当たり、よりの確に市内の実状や市民の皆様の意識の現状を捉えるべく、アンケート調査を実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域：鴨川市全域
- (2) 対象者：住民基本台帳より無作為に抽出した 18 歳以上の市民男女
- (3) 標本数：2,000 人
- (4) 回収数：655 人（回収率：32.8%）
- (5) 調査方法：郵送により調査票と返信用封筒を配付し、郵送により回収
- (6) 調査時期：令和 2 年 8 月 5 日～9 月 4 日

3. 分析上の留意点

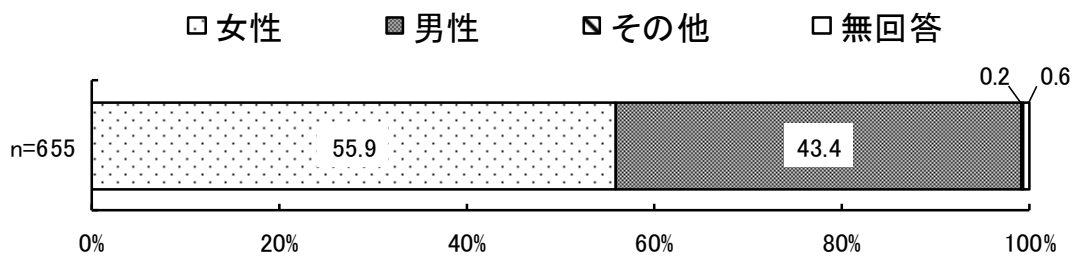
- (1) 図表中の n (number of cases) は、回答者数である。
- (2) 集計は小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しており、回答比率の合計は 100%にならない場合がある。
- (3) 2 つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。
- (4) 図表中におけるクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者を除いているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は図中では表記していない場合がある。

Ⅱ 回答者の属性

① 性別

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

回答者の性別は、女性 55.9%、男性 43.4%、その他 0.2%となっている。

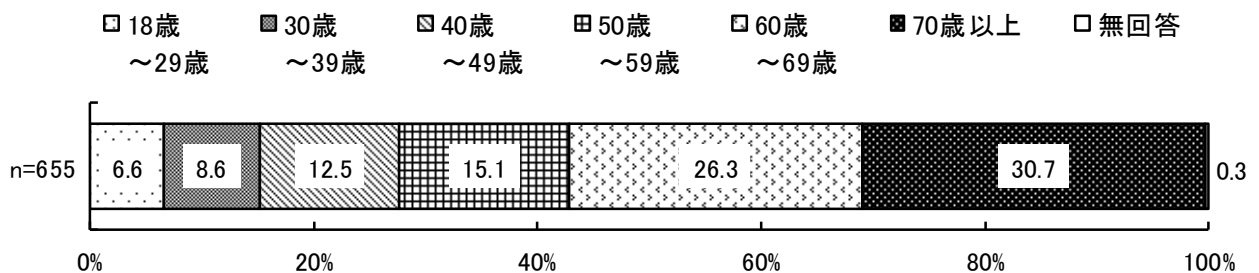


② 年齢

問2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

回答者の年齢は、70歳以上が 30.7%と最も多く、次いで 60～69歳が 26.3%、50～59歳 15.1%と続いている。

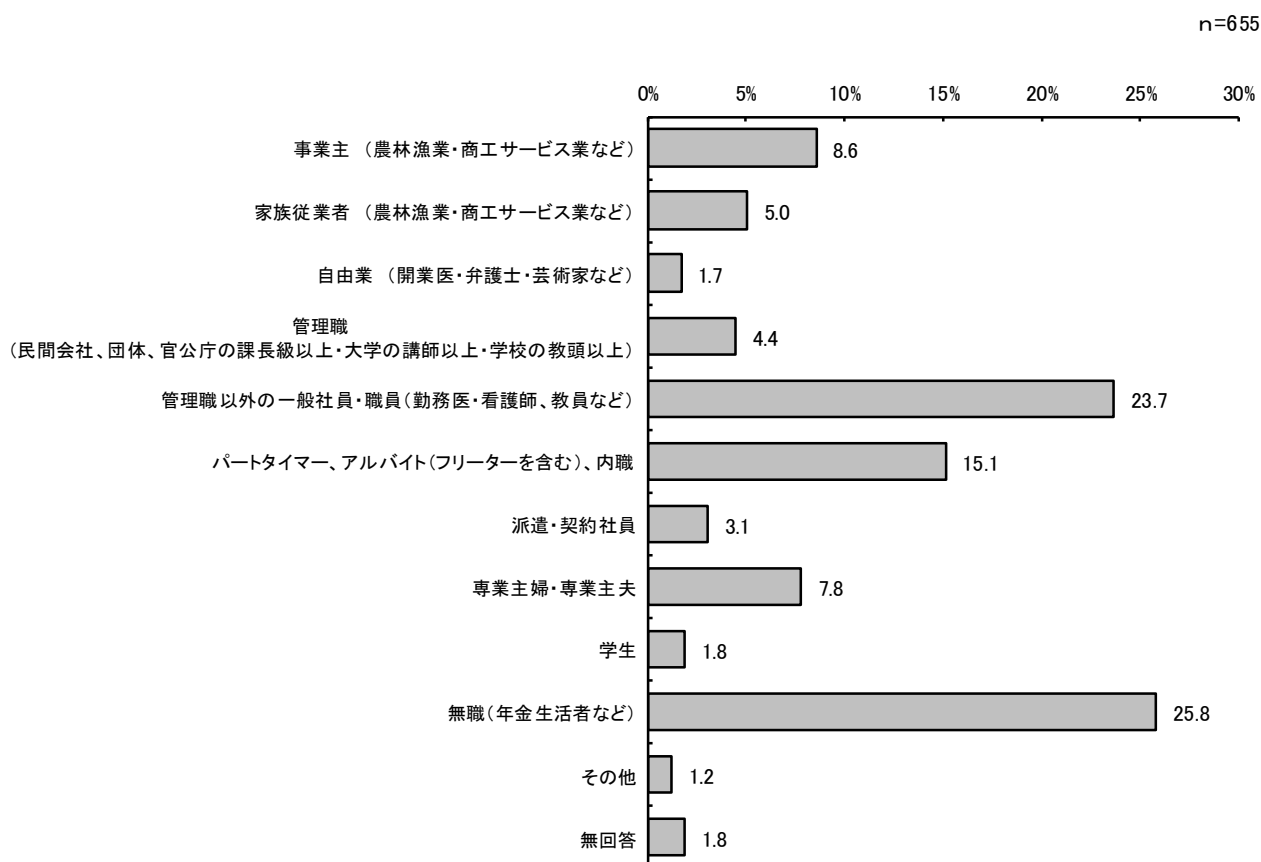
一方、18～29歳の若い世代は 6.6%と最も少ない。



③ 職業形態

問3 あなたの就業形態を教えてください。勤め先での一時休業や産前・産後の休暇、育児休業、介護休業などで仕事を一時的に休んでいる方は、休業・休暇前の就業形態をお答えください。（〇は1つ）

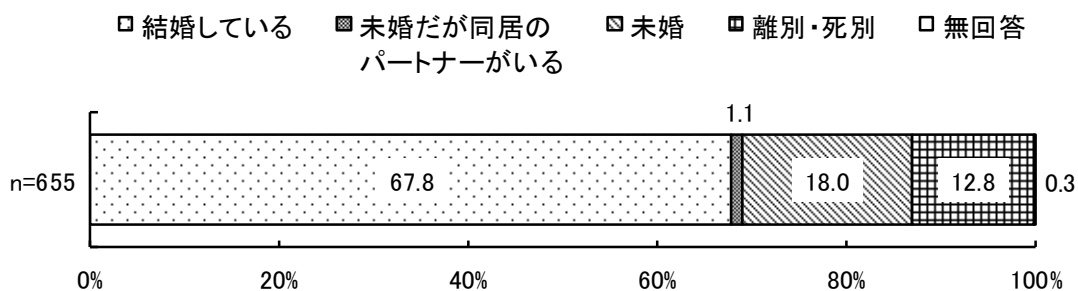
職業は、「無職」が25.8%で最も多く、次いで「管理職以外の一般社員・職員（勤務医・看護師、教員など）」が23.7%、「パートタイマー、アルバイト（フリーターを含む）、内職」15.1%となり上位を占めている。



④ 未既婚

問4 あなたは結婚されていますか。(○は1つ)

「結婚している」が67.8%と最も多く、「未婚だが同居のパートナーがいる」の1.1%と合わせ68.9%を占めており、「未婚」は18.0%となっている。

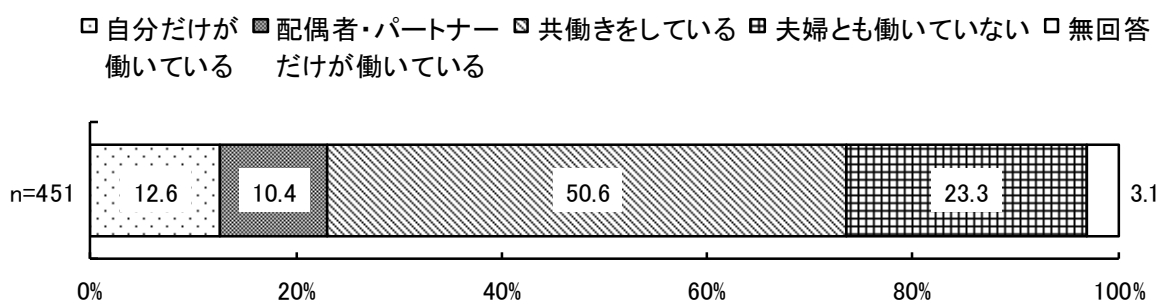


④-1 共働きの状況

問4-1 問4で「1 結婚している」「2 未婚だが同居のパートナーがいる」のいずれかに○をつけた方にお伺いします。共働きの状況を教えてください。(○は1つ)

「結婚している」及び「未婚だが同居のパートナーがいる」人のうち、「共働きをしている」が50.6%と約半数を占め、次いで「夫婦とも働いていない」が23.3%となっている。

「自分だけ」または「配偶者・パートナーだけ」を合わせ、どちらかが働いているとの回答は23.0%を占めている。

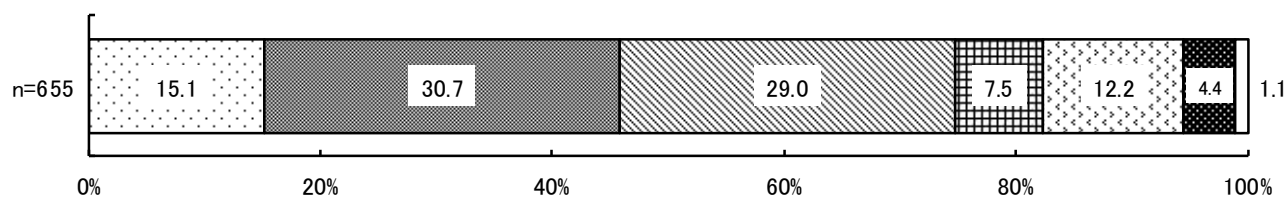


⑤ 世帯構成

問5 あなたの世帯構成は次のうちどれですか。(〇は1つ)

「夫婦のみ(一世代家族)」が30.7%と最も多く、次いで「親と未婚の子ども(核家族)」が29.0%となっている。

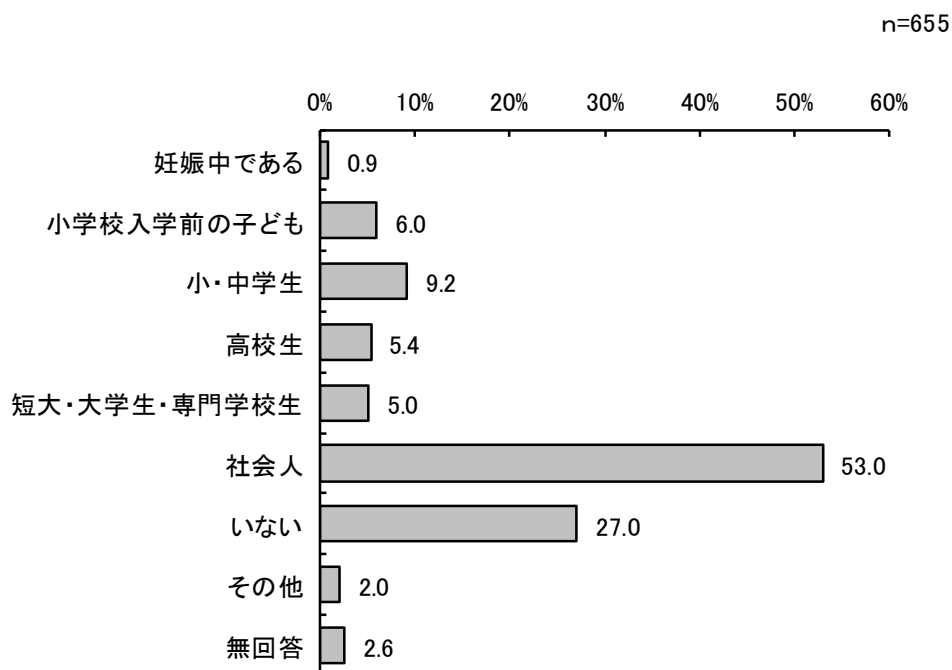
□ひとり暮らし ■夫婦のみ □親と未婚の子ども □親と子ども夫婦 □親と子どもと孫 ■その他 □無回答
 (一世代家族) (核家族) (二世世代家族) (三世世代家族)



⑥ 子どもの状況

問6 あなたには子どもがいらっしゃいますか。(〇はあてはまるものすべて)

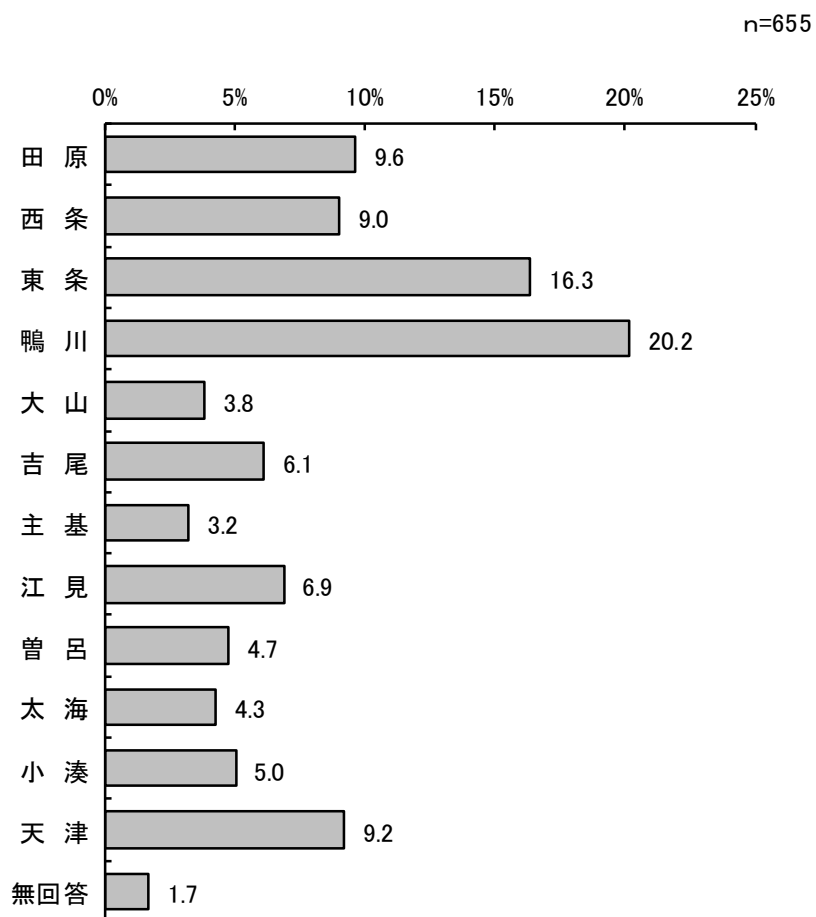
子どもの状況は、「社会人」が53.0%と最も多く、半数以上を占めている。



⑦ 居住地区

問7 あなたがお住まいの地域を教えてください。(〇は1つ)

居住地区は、「鴨川」が20.2%と最も多く、次いで「東条」16.3%、「田原」9.6%と続いている。



Ⅲ 調査結果

1. 男女平等と人権について

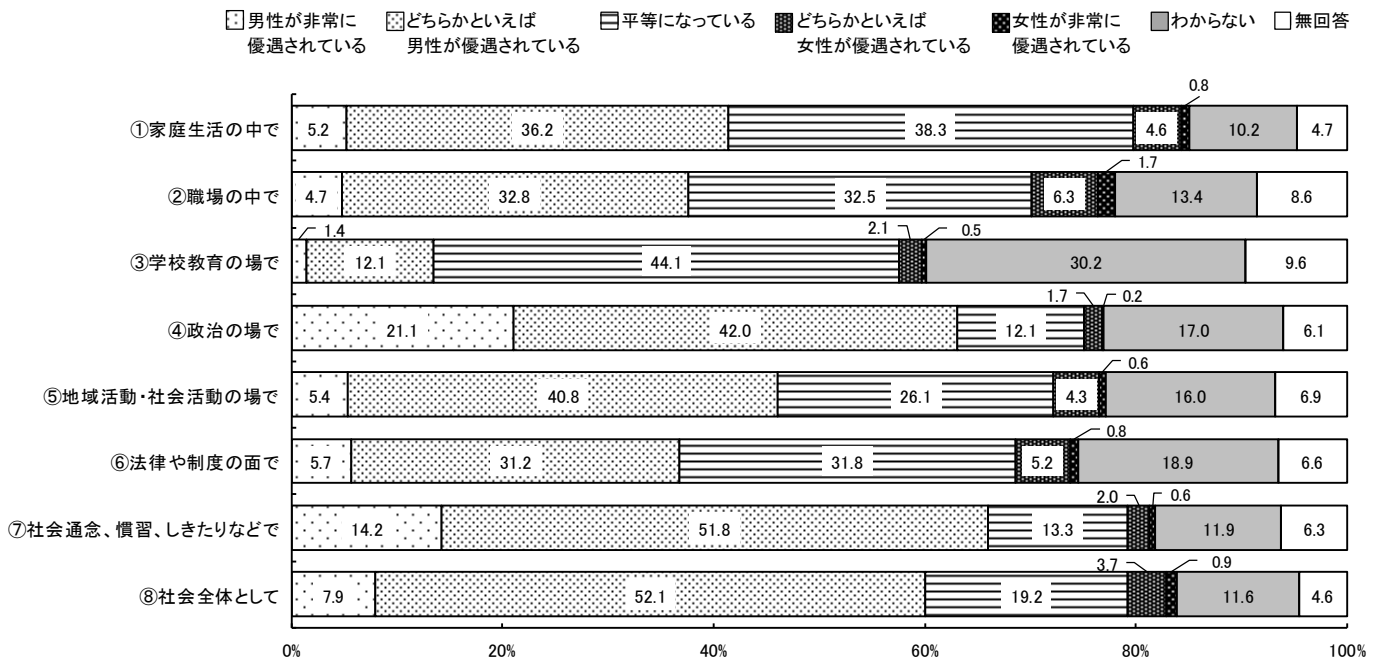
(1) 男女の平等感

問8 あなたは現在、次のような場面で男女が平等になっていると思いますか。①～⑧の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。(〇は各項目に1つずつ)

社会における様々な場面において男女の平等感を伺うと、全体的に「男性が非常に優遇されている」及び「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせ「男性が優遇されている」との回答が多く、「女性が優遇されている」との回答場面は少ない。

特に、「男性が優遇されている」場面は、「社会通念、慣習、しきたりなどで」や「政治の場で」、「社会全体として」が多い。

「平等になっている」との回答場面は、「学校教育の場で」が44.1%と最も多く、次いで「家庭生活の中で」が38.3%と続いている。



■比較データ：性・年齢別

①家庭生活の中で

		合計	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		655 100.0	34 5.2	237 36.2	251 38.3	30 4.6	5 0.8	67 10.2	31 4.7
性別	女性	366 100.0	26 7.1	131 35.8	132 36.1	16 4.4	3 0.8	39 10.7	19 5.2
	男性	284 100.0	8 2.8	104 36.6	119 41.9	14 4.9	2 0.7	27 9.5	10 3.5
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	2 3.5	13 22.4	31 53.5	2 3.5	1 1.7	9 15.5	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	9 9.1	35 35.4	31 31.3	5 5.1	2 2.0	14 14.2	3 3.0
	女性 60歳以上	208 100.0	15 7.2	83 39.9	70 33.7	9 4.3	0 0.0	15 7.2	16 7.7
	男性 39歳以下	40 100.0	1 2.5	9 22.5	22 55.0	4 10.0	0 0.0	4 10.0	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	2 2.4	33 40.3	29 35.4	5 6.1	2 2.4	10 12.2	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	5 3.1	62 38.3	68 42.0	5 3.1	0 0.0	13 8.0	9 5.6

②職場の中で

		合計	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		655 100.0	31 4.7	215 32.8	213 32.5	41 6.3	11 1.7	88 13.4	56 8.6
性別	女性	366 100.0	19 5.2	136 37.2	108 29.5	17 4.7	4 1.1	49 13.4	33 9.0
	男性	284 100.0	12 4.2	77 27.1	105 37.0	24 8.5	7 2.5	38 13.4	21 7.4
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	1 1.7	19 32.8	21 36.2	6 10.4	2 3.5	9 15.5	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	4 4.1	34 34.4	45 45.5	5 5.1	2 2.0	8 8.1	1 1.0
	女性 60歳以上	208 100.0	14 6.7	82 39.4	42 20.2	6 2.9	0 0.0	32 15.4	32 15.4
	男性 39歳以下	40 100.0	2 5.0	10 25.0	18 45.0	6 15.0	1 2.5	3 7.5	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	2 2.4	19 23.2	38 46.4	11 13.4	3 3.7	8 9.8	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	8 4.9	48 29.6	49 30.3	7 4.3	3 1.9	27 16.7	20 12.4

③学校教育の場で

		合計	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		655 100.0	9 1.4	79 12.1	289 44.1	14 2.1	3 0.5	198 30.2	63 9.6
性別	女性	366 100.0	8 2.2	41 11.2	160 43.7	2 0.6	0 0.0	116 31.7	39 10.7
	男性	284 100.0	1 0.4	36 12.7	129 45.4	12 4.2	3 1.1	81 28.5	22 7.8
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	2 3.5	2 3.5	35 60.4	0 0.0	0 0.0	19 32.8	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	1 1.0	12 12.1	47 47.5	1 1.0	0 0.0	35 35.4	3 3.0
	女性 60歳以上	208 100.0	5 2.4	27 13.0	78 37.5	1 0.5	0 0.0	61 29.3	36 17.3
	男性 39歳以下	40 100.0	0 0.0	6 15.0	23 57.5	5 12.5	0 0.0	6 15.0	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	0 0.0	9 11.0	43 52.4	5 6.1	2 2.4	22 26.8	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	1 0.6	21 13.0	63 38.9	2 1.2	1 0.6	53 32.7	21 13.0

④政治の場で

		合計	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		655 100.0	138 21.1	275 42.0	79 12.1	11 1.7	1 0.2	111 17.0	40 6.1
性別	女性	366 100.0	90 24.6	156 42.6	28 7.7	2 0.6	1 0.3	64 17.5	25 6.8
	男性	284 100.0	48 16.9	117 41.2	51 18.0	9 3.2	0 0.0	46 16.2	13 4.6
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	14 24.1	22 37.9	6 10.4	0 0.0	0 0.0	16 27.6	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	35 35.4	41 41.4	5 5.1	1 1.0	0 0.0	17 17.2	0 0.0
	女性 60歳以上	208 100.0	41 19.7	92 44.2	17 8.2	1 0.5	1 0.5	31 14.9	25 12.0
	男性 39歳以下	40 100.0	7 17.5	16 40.0	7 17.5	3 7.5	0 0.0	7 17.5	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	17 20.7	30 36.6	14 17.1	2 2.4	0 0.0	18 22.0	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	24 14.8	71 43.8	30 18.5	4 2.5	0 0.0	21 13.0	12 7.4

⑤地域活動・社会活動の場で

		合計	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		655 100.0	35 5.4	267 40.8	171 26.1	28 4.3	4 0.6	105 16.0	45 6.9
性別	女性	366 100.0	25 6.8	152 41.5	84 23.0	13 3.6	0 0.0	63 17.2	29 7.9
	男性	284 100.0	10 3.5	113 39.8	87 30.6	15 5.3	4 1.4	41 14.4	14 4.9
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	4 6.9	17 29.3	18 31.0	1 1.7	0 0.0	18 31.0	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	7 7.1	53 53.5	15 15.2	4 4.1	0 0.0	18 18.2	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	14 6.7	81 39.0	51 24.5	8 3.9	0 0.0	27 13.0	27 13.0
	男性 39歳以下	40 100.0	2 5.0	15 37.5	14 35.0	3 7.5	0 0.0	5 12.5	1 2.5
	男性 40～59歳	82 100.0	3 3.7	31 37.8	26 31.7	5 6.1	1 1.2	14 17.1	2 2.4
	男性 60歳以上	162 100.0	5 3.1	67 41.4	47 29.0	7 4.3	3 1.9	22 13.6	11 6.8

⑥法律や制度の面で

		合計	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		655 100.0	37 5.7	204 31.2	208 31.8	34 5.2	5 0.8	124 18.9	43 6.6
性別	女性	366 100.0	30 8.2	125 34.2	92 25.1	10 2.7	1 0.3	80 21.9	28 7.7
	男性	284 100.0	7 2.5	78 27.5	115 40.5	24 8.5	4 1.4	43 15.2	13 4.6
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	3 5.2	17 29.3	14 24.1	3 5.2	0 0.0	21 36.2	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	10 10.1	39 39.4	25 25.3	5 5.1	0 0.0	18 18.2	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	17 8.2	69 33.2	52 25.0	2 1.0	1 0.5	41 19.7	26 12.5
	男性 39歳以下	40 100.0	3 7.5	12 30.0	16 40.0	6 15.0	0 0.0	3 7.5	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	2 2.4	20 24.4	29 35.4	10 12.2	3 3.7	17 20.7	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	2 1.2	46 28.4	70 43.2	8 4.9	1 0.6	23 14.2	12 7.4

⑦社会通念、慣習、しきたりなどで

		合計	男性が非 常に優遇さ れている	どちらか といえば男 性が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらか といえば女 性が優遇さ れている	女性が非 常に優遇さ れている	わからない	無回答
全体		655 100.0	93 14.2	339 51.8	87 13.3	13 2.0	4 0.6	78 11.9	41 6.3
性別	女性	366 100.0	61 16.7	183 50.0	46 12.6	4 1.1	1 0.3	46 12.6	25 6.8
	男性	284 100.0	31 10.9	155 54.6	41 14.4	9 3.2	3 1.1	31 10.9	14 4.9
性 / 年 齢 別	女性 39歳以下	58 100.0	9 15.5	27 46.6	8 13.8	1 1.7	0 0.0	13 22.4	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	23 23.2	56 56.6	9 9.1	1 1.0	0 0.0	9 9.1	1 1.0
	女性 60歳以上	208 100.0	29 14.0	99 47.6	29 14.0	2 1.0	1 0.5	24 11.5	24 11.5
	男性 39歳以下	40 100.0	4 10.0	23 57.5	6 15.0	2 5.0	0 0.0	5 12.5	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	11 13.4	43 52.4	10 12.2	4 4.9	2 2.4	11 13.4	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	16 9.9	89 54.9	25 15.4	3 1.9	1 0.6	15 9.3	13 8.0

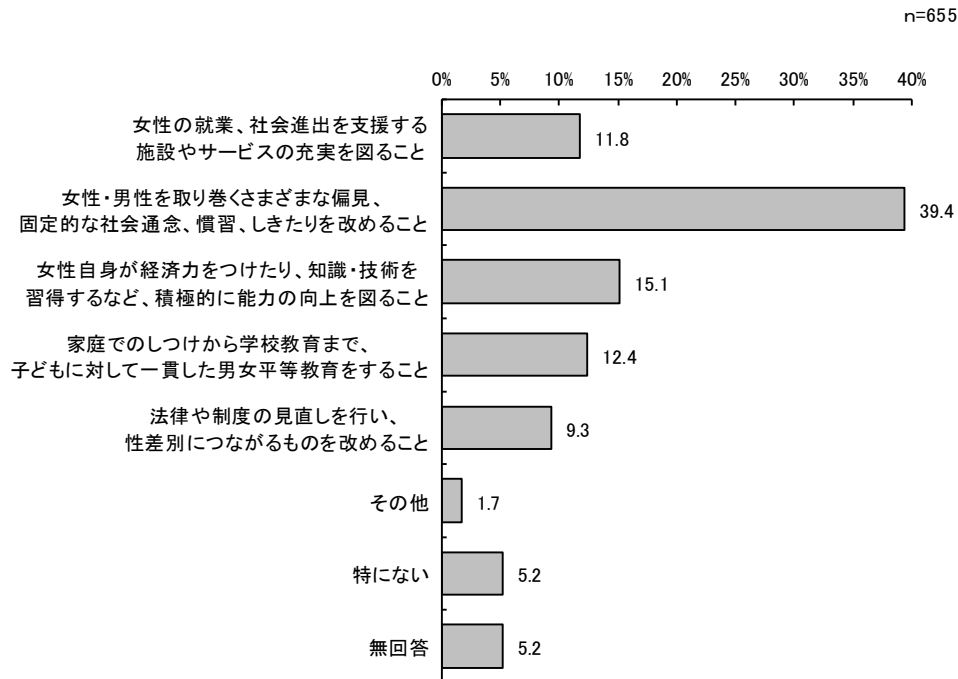
⑧社会全体として

		合計	男性が非 常に優遇さ れている	どちらか といえば男 性が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらか といえば女 性が優遇さ れている	女性が非 常に優遇さ れている	わからない	無回答
全体		655 100.0	52 7.9	341 52.1	126 19.2	24 3.7	6 0.9	76 11.6	30 4.6
性別	女性	366 100.0	36 9.8	194 53.0	61 16.7	7 1.9	1 0.3	48 13.1	19 5.2
	男性	284 100.0	16 5.6	145 51.1	65 22.9	17 6.0	5 1.8	27 9.5	9 3.2
性 / 年 齢 別	女性 39歳以下	58 100.0	6 10.4	27 46.6	11 19.0	1 1.7	0 0.0	13 22.4	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	13 13.1	56 56.6	17 17.2	2 2.0	0 0.0	10 10.1	1 1.0
	女性 60歳以上	208 100.0	17 8.2	110 52.9	33 15.9	4 1.9	1 0.5	25 12.0	18 8.7
	男性 39歳以下	40 100.0	4 10.0	16 40.0	11 27.5	3 7.5	0 0.0	6 15.0	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	5 6.1	40 48.8	17 20.7	9 11.0	4 4.9	6 7.3	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	7 4.3	89 54.9	37 22.8	5 3.1	1 0.6	15 9.3	8 4.9

(2) 男女平等実現のために重要なこと

問9 今後、男女があらゆる分野で平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。
(○は1つ)

男女平等の実現に重要なことは、「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が39.4%と最も多く占めている。



■比較データ：性・年齢別

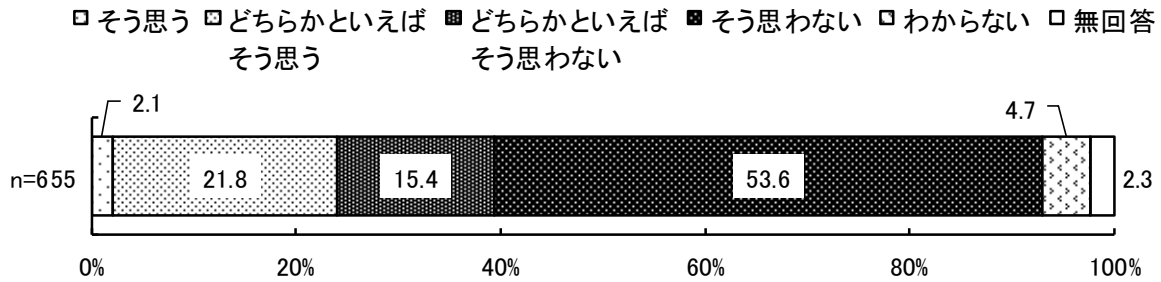
		合計	女性の就業、社会進出を支援する施設やサービスの充実を図ること	女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること	家庭でのしつけから学校教育まで、子どもに対して一貫した男女平等教育をすること	法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改めること	その他	特にない	無回答
全体		655 100.0	77 11.8	258 39.4	99 15.1	81 12.4	61 9.3	11 1.7	34 5.2	34 5.2
性別	女性	366 100.0	49 13.4	151 41.3	54 14.8	51 13.9	26 7.1	3 0.8	11 3.0	21 5.7
	男性	284 100.0	28 9.9	106 37.3	45 15.9	30 10.6	34 12.0	8 2.8	22 7.8	11 3.9
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	9 15.5	27 46.6	4 6.9	10 17.3	4 6.9	0 0.0	1 1.7	3 5.2
	女性 40～59歳	99 100.0	18 18.2	47 47.5	9 9.1	8 8.1	12 12.1	1 1.0	2 2.0	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	22 10.6	76 36.5	41 19.7	33 15.9	10 4.8	2 1.0	8 3.9	16 7.7
	男性 39歳以下	40 100.0	5 12.5	15 37.5	5 12.5	3 7.5	5 12.5	4 10.0	2 5.0	1 2.5
	男性 40～59歳	82 100.0	9 11.0	38 46.4	8 9.8	8 9.8	9 11.0	2 2.4	5 6.1	3 3.7
	男性 60歳以上	162 100.0	14 8.7	53 32.7	32 19.8	19 11.7	20 12.4	2 1.2	15 9.3	7 4.3

(3) 性別役割分担意識

問10 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。(〇は1つ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「そう思わない」が53.6%と最も多く、「どちらかといえばそう思わない」の15.4%と合わせ69.0%が否定的な回答を占めている。

「そう思う」2.1%及び「どちらかといえばそう思う」の21.8%を合わせた肯定的な回答は、23.9%となっている。



■比較データ：性・年齢別

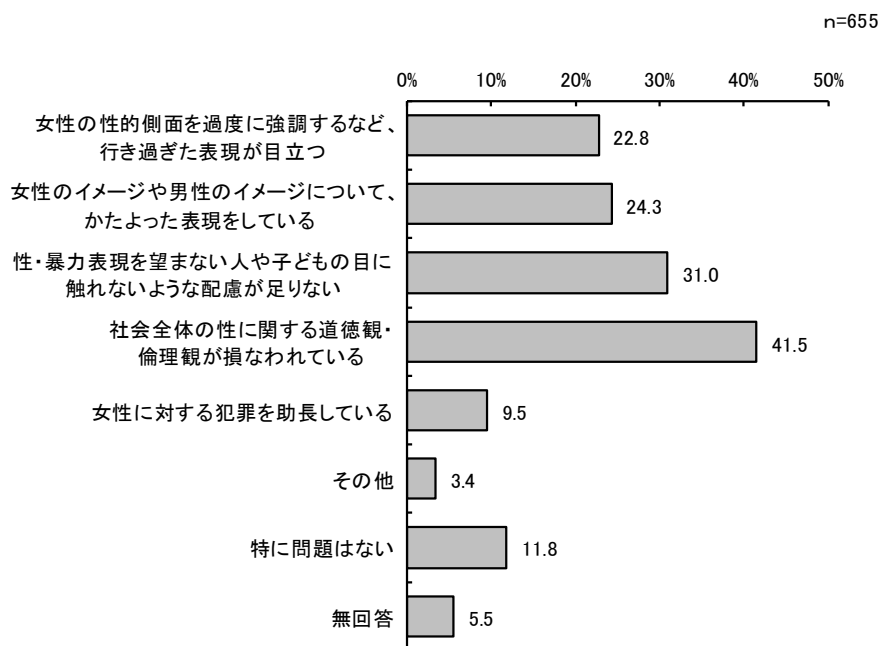
		合計	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わ ない	わからない	無回答
全体		655 100.0	14 2.1	143 21.8	101 15.4	351 53.6	31 4.7	15 2.3
性別	女性	366 100.0	8 2.2	65 17.8	59 16.1	207 56.6	17 4.7	10 2.7
	男性	284 100.0	6 2.1	78 27.5	42 14.8	141 49.7	14 4.9	3 1.1
性 / 年 齢 別	女性 39歳以下	58 100.0	0 0.0	7 12.1	6 10.4	42 72.4	3 5.2	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	2 2.0	20 20.2	12 12.1	56 56.6	9 9.1	0 0.0
	女性 60歳以上	208 100.0	6 2.9	38 18.3	41 19.7	108 51.9	5 2.4	10 4.8
	男性 39歳以下	40 100.0	2 5.0	9 22.5	5 12.5	21 52.5	3 7.5	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	2 2.4	26 31.7	12 14.6	39 47.6	3 3.7	0 0.0
	男性 60歳以上	162 100.0	2 1.2	43 26.6	25 15.4	81 50.0	8 4.9	3 1.9

(4) メディアにおける性・暴力表現について

問11 テレビや新聞、雑誌等における性・暴力表現についてどのようにお考えですか。(〇はあてはまるものすべて)

テレビや新聞、雑誌等における性・暴力表現については、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」とする人が41.5%と最も多く、半数近くを占めている。

次いで、「性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」とする人も31.0%と多くを占めている。



■比較データ：性・年齢別

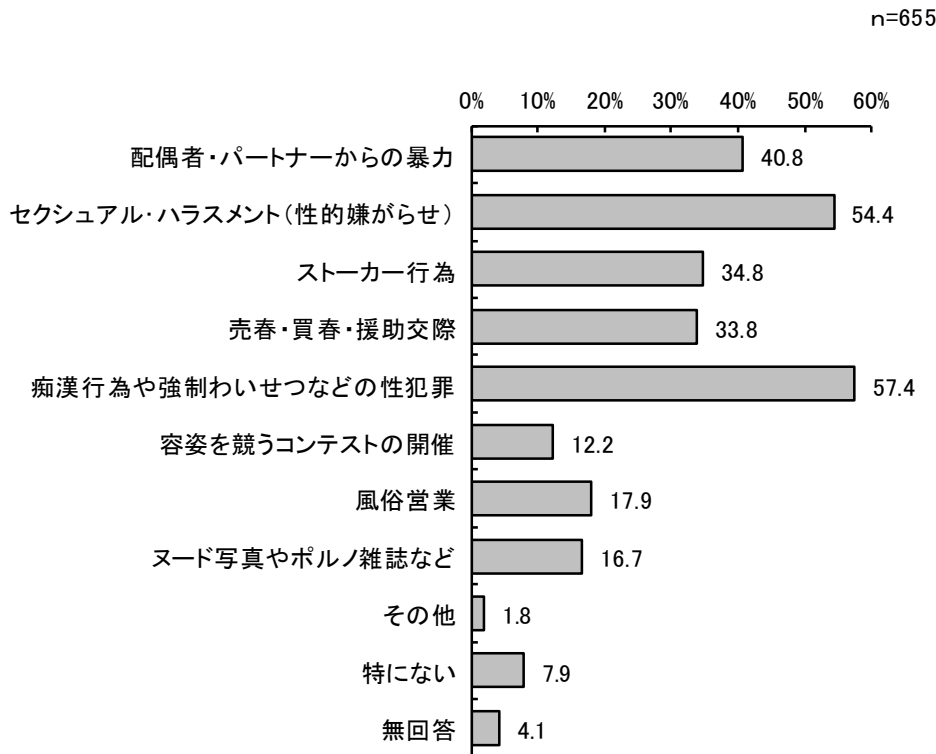
		合計	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	女性のイメージや男性のイメージについて、かたよった表現をしている	性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	女性に対する犯罪を助長している	その他	特に問題はない	無回答
全体		655	149	159	203	272	62	22	77	36
		100.0	22.8	24.3	31.0	41.5	9.5	3.4	11.8	5.5
性別	女性	366	88	80	126	158	34	8	37	22
		100.0	24.1	21.9	34.4	43.2	9.3	2.2	10.1	6.0
	男性	284	60	78	76	111	28	14	39	13
		100.0	21.1	27.5	26.8	39.1	9.9	4.9	13.7	4.6
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58	13	22	17	14	8	4	7	0
		100.0	22.4	37.9	29.3	24.1	13.8	6.9	12.1	0.0
	女性 40～59歳	99	26	25	33	36	11	1	15	3
		100.0	26.3	25.3	33.3	36.4	11.1	1.0	15.2	3.0
	女性 60歳以上	208	49	33	76	107	15	3	15	19
		100.0	23.6	15.9	36.5	51.5	7.2	1.5	7.2	9.1
	男性 39歳以下	40	6	13	12	9	4	3	7	1
		100.0	15.0	32.5	30.0	22.5	10.0	7.5	17.5	2.5
男性 40～59歳	82	17	26	13	29	15	8	15	2	
	100.0	20.7	31.7	15.9	35.4	18.3	9.8	18.3	2.4	
男性 60歳以上	162	37	39	51	73	9	3	17	10	
	100.0	22.8	24.1	31.5	45.1	5.6	1.9	10.5	6.2	

(5) 女性の人権が侵害されていると感じること

問12 あなたが女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてですか
(〇はあてはまるものすべて)

女性の人権が侵害されていると感じることとしては、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」が57.4%と最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」が54.4%となっている。

続いて、「配偶者・パートナーからの暴力」が40.8%、「ストーカー行為」34.8%、「売春・買春・援助交際」33.8%となっている。



■比較データ：性・年齢別

		合計	配偶者・パートナーからの暴力	セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	ストーカー行為	売春・買春・援助交際	痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪	容姿を競うコンテストの開催	風俗営業	ヌード写真やポルノ雑誌など	その他	特になし	無回答
全体		655 100.0	267 40.8	356 54.4	228 34.8	221 33.8	376 57.4	80 12.2	117 17.9	109 16.7	12 1.8	52 7.9	27 4.1
性別	女性	366 100.0	154 42.1	197 53.8	120 32.8	138 37.7	229 62.6	45 12.3	75 20.5	72 19.7	5 1.4	24 6.6	16 4.4
	男性	284 100.0	111 39.1	157 55.3	106 37.3	82 28.9	146 51.4	35 12.3	42 14.8	36 12.7	7 2.5	27 9.5	9 3.2
性/年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	27 46.6	35 60.4	26 44.8	24 41.4	38 65.5	14 24.1	14 24.1	14 24.1	3 5.2	4 6.9	1 1.7
	女性 40~59歳	99 100.0	42 42.4	59 59.6	38 38.4	42 42.4	67 67.7	8 8.1	12 12.1	13 13.1	1 1.0	7 7.1	1 1.0
	女性 60歳以上	208 100.0	85 40.9	102 49.0	55 26.5	71 34.1	123 59.1	23 11.1	49 23.6	45 21.6	1 0.5	13 6.3	14 6.7
	男性 39歳以下	40 100.0	15 37.5	21 52.5	14 35.0	11 27.5	20 50.0	6 15.0	6 15.0	4 10.0	1 2.5	4 10.0	1 2.5
	男性 40~59歳	82 100.0	38 46.4	50 61.0	35 42.7	27 32.9	48 58.5	12 14.6	12 14.6	11 13.4	3 3.7	6 7.3	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	58 35.8	86 53.1	57 35.2	44 27.2	78 48.2	17 10.5	24 14.8	21 13.0	3 1.9	17 10.5	7 4.3

2 家庭・子育て・介護について

(1) 家庭における役割意識

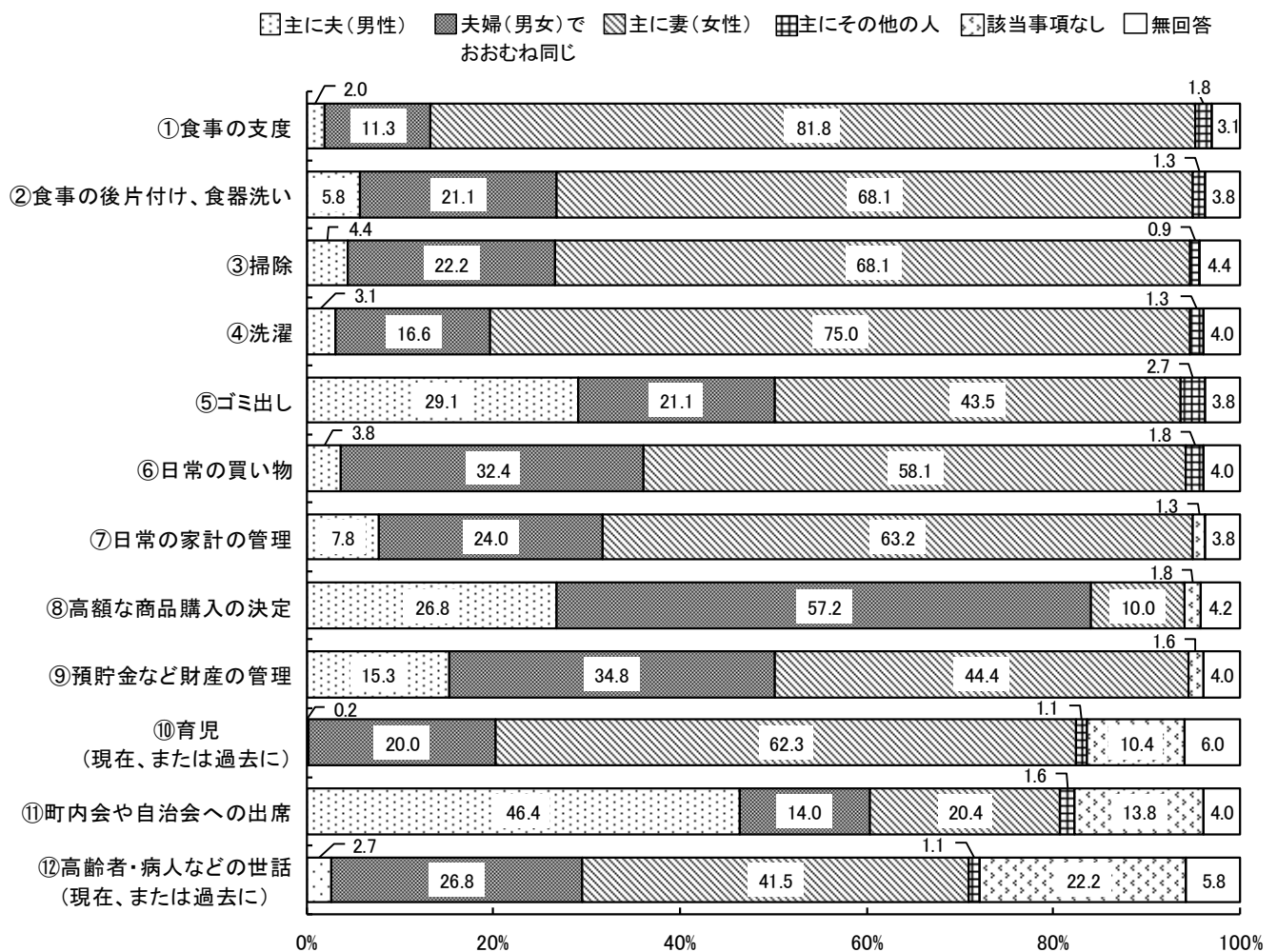
〔※問13は結婚している方、もしくは未婚だが同居のパートナーがいる方のみお答えください。〕

問13 実際にあなたの家庭では家事や育児、介護などは、夫婦（男女）のどちらが分担していますか。①～⑫の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。（〇は各項目に1つずつ）

家庭での役割意識をみると、「主に夫（男性）」との回答が多いのは、「町内会や自治会への出席」で46.4%を占めている。

その他の項目については、基本的に「主に妻（女性）」との回答が多くなっている。

また、「夫婦（男女）でおおむね同じ」との回答が多いのは、「高額な商品購入の決定」となり57.2%を占めている。



■比較データ：性・年齢別

①食事の支度

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	9 2.0	51 11.3	369 81.8	8 1.8	0 0.0	14 3.1
性別	女性	237 100.0	6 2.5	16 6.8	210 88.6	2 0.9	0 0.0	3 1.3
	男性	212 100.0	3 1.4	34 16.0	158 74.5	6 2.8	0 0.0	11 5.2
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	2 8.3	3 12.5	19 79.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	2 3.3	6 9.8	52 85.3	1 1.6	0 0.0	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	2 1.3	7 4.6	138 91.4	1 0.7	0 0.0	3 2.0
	男性 39歳以下	19 100.0	0 0.0	5 26.3	13 68.4	1 5.3	0 0.0	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	1 1.7	10 17.0	42 71.2	5 8.5	0 0.0	1 1.7
	男性 60歳以上	134 100.0	2 1.5	19 14.2	103 76.9	0 0.0	0 0.0	10 7.5

②食事の後片付け、食器洗い

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	26 5.8	95 21.1	307 68.1	6 1.3	0 0.0	17 3.8
性別	女性	237 100.0	11 4.7	37 15.6	184 77.6	2 0.9	0 0.0	3 1.3
	男性	212 100.0	15 7.1	57 26.9	122 57.6	4 1.9	0 0.0	14 6.6
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	2 8.3	5 20.8	17 70.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	3 4.9	11 18.0	46 75.4	1 1.6	0 0.0	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	5 3.3	21 13.9	121 80.1	1 0.7	0 0.0	3 2.0
	男性 39歳以下	19 100.0	5 26.3	8 42.1	6 31.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	4 6.8	13 22.0	37 62.7	3 5.1	0 0.0	2 3.4
	男性 60歳以上	134 100.0	6 4.5	36 26.9	79 59.0	1 0.8	0 0.0	12 9.0

③掃除

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	20 4.4	100 22.2	307 68.1	4 0.9	0 0.0	20 4.4
性別	女性	237 100.0	9 3.8	39 16.5	183 77.2	1 0.4	0 0.0	5 2.1
	男性	212 100.0	11 5.2	60 28.3	123 58.0	3 1.4	0 0.0	15 7.1
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	2 8.3	8 33.3	14 58.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	0 0.0	8 13.1	52 85.3	1 1.6	0 0.0	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	7 4.6	22 14.6	117 77.5	0 0.0	0 0.0	5 3.3
	男性 39歳以下	19 100.0	1 5.3	9 47.4	9 47.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	4 6.8	16 27.1	34 57.6	3 5.1	0 0.0	2 3.4
	男性 60歳以上	134 100.0	6 4.5	35 26.1	80 59.7	0 0.0	0 0.0	13 9.7

④洗濯

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	14 3.1	75 16.6	338 75.0	6 1.3	0 0.0	18 4.0
性別	女性	237 100.0	4 1.7	28 11.8	200 84.4	2 0.9	0 0.0	3 1.3
	男性	212 100.0	10 4.7	46 21.7	137 64.6	4 1.9	0 0.0	15 7.1
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	1 4.2	6 25.0	17 70.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	1 1.6	11 18.0	47 77.1	2 3.3	0 0.0	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	2 1.3	11 7.3	135 89.4	0 0.0	0 0.0	3 2.0
	男性 39歳以下	19 100.0	2 10.5	9 47.4	8 42.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	3 5.1	12 20.3	39 66.1	3 5.1	0 0.0	2 3.4
	男性 60歳以上	134 100.0	5 3.7	25 18.7	90 67.2	1 0.8	0 0.0	13 9.7

⑤ゴミ出し

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	131 29.1	95 21.1	196 43.5	12 2.7	0 0.0	17 3.8
性別	女性	237 100.0	65 27.4	36 15.2	126 53.2	7 3.0	0 0.0	3 1.3
	男性	212 100.0	65 30.7	58 27.4	70 33.0	5 2.4	0 0.0	14 6.6
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	10 41.7	3 12.5	10 41.7	1 4.2	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	15 24.6	10 16.4	34 55.7	2 3.3	0 0.0	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	39 25.8	23 15.2	82 54.3	4 2.7	0 0.0	3 2.0
	男性 39歳以下	19 100.0	8 42.1	7 36.9	4 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	20 33.9	8 13.6	25 42.4	4 6.8	0 0.0	2 3.4
	男性 60歳以上	134 100.0	37 27.6	43 32.1	41 30.6	1 0.8	0 0.0	12 9.0

⑥日常の買い物

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	17 3.8	146 32.4	262 58.1	8 1.8	0 0.0	18 4.0
性別	女性	237 100.0	10 4.2	63 26.6	156 65.8	3 1.3	0 0.0	5 2.1
	男性	212 100.0	7 3.3	81 38.2	106 50.0	5 2.4	0 0.0	13 6.1
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	0 0.0	10 41.7	14 58.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	3 4.9	15 24.6	42 68.9	1 1.6	0 0.0	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	7 4.6	38 25.2	99 65.6	2 1.3	0 0.0	5 3.3
	男性 39歳以下	19 100.0	1 5.3	9 47.4	9 47.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	1 1.7	20 33.9	36 61.0	0 0.0	0 0.0	2 3.4
	男性 60歳以上	134 100.0	5 3.7	52 38.8	61 45.5	5 3.7	0 0.0	11 8.2

⑦ 日常の家計の管理

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	35 7.8	108 24.0	285 63.2	0 0.0	6 1.3	17 3.8
性別	女性	237 100.0	18 7.6	49 20.7	163 68.8	0 0.0	4 1.7	3 1.3
	男性	212 100.0	17 8.0	59 27.8	120 56.6	0 0.0	2 1.0	14 6.6
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	6 25.0	7 29.2	11 45.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	6 9.8	14 23.0	40 65.6	0 0.0	1 1.6	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	6 4.0	28 18.6	111 73.5	0 0.0	3 2.0	3 2.0
	男性 39歳以下	19 100.0	1 5.3	10 52.6	8 42.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	5 8.5	17 28.8	35 59.3	0 0.0	0 0.0	2 3.4
	男性 60歳以上	134 100.0	11 8.2	32 23.9	77 57.5	0 0.0	2 1.5	12 9.0

⑧ 高額な商品購入の決定

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	121 26.8	258 57.2	45 10.0	0 0.0	8 1.8	19 4.2
性別	女性	237 100.0	77 32.5	125 52.8	28 11.8	0 0.0	4 1.7	3 1.3
	男性	212 100.0	42 19.8	133 62.7	17 8.0	0 0.0	4 1.9	16 7.6
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	11 45.8	11 45.8	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	14 23.0	35 57.4	12 19.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	52 34.4	79 52.3	13 8.6	0 0.0	4 2.7	3 2.0
	男性 39歳以下	19 100.0	7 36.9	10 52.6	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	11 18.7	39 66.1	7 11.9	0 0.0	1 1.7	1 1.7
	男性 60歳以上	134 100.0	24 17.9	84 62.7	8 6.0	0 0.0	3 2.2	15 11.2

⑨ 預貯金など財産の管理

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	69 15.3	157 34.8	200 44.4	0 0.0	7 1.6	18 4.0
性別	女性	237 100.0	40 16.9	79 33.3	109 46.0	0 0.0	6 2.5	3 1.3
	男性	212 100.0	28 13.2	78 36.8	90 42.5	0 0.0	1 0.5	15 7.1
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	8 33.3	7 29.2	9 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	8 13.1	23 37.7	28 45.9	0 0.0	2 3.3	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	24 15.9	49 32.5	71 47.0	0 0.0	4 2.7	3 2.0
	男性 39歳以下	19 100.0	5 26.3	8 42.1	5 26.3	0 0.0	1 5.3	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	5 8.5	19 32.2	32 54.2	0 0.0	0 0.0	3 5.1
	男性 60歳以上	134 100.0	18 13.4	51 38.1	53 39.6	0 0.0	0 0.0	12 9.0

⑩ 育児（現在、または過去に）

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	1 0.2	90 20.0	281 62.3	5 1.1	47 10.4	27 6.0
性別	女性	237 100.0	0 0.0	40 16.9	153 64.6	3 1.3	32 13.5	9 3.8
	男性	212 100.0	1 0.5	50 23.6	126 59.4	2 1.0	15 7.1	18 8.5
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	0 0.0	6 25.0	12 50.0	0 0.0	6 25.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	0 0.0	14 23.0	38 62.3	0 0.0	8 13.1	1 1.6
	女性 60歳以上	151 100.0	0 0.0	20 13.3	102 67.6	3 2.0	18 11.9	8 5.3
	男性 39歳以下	19 100.0	1 5.3	8 42.1	6 31.6	0 0.0	4 21.1	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	0 0.0	20 33.9	32 54.2	1 1.7	3 5.1	3 5.1
	男性 60歳以上	134 100.0	0 0.0	22 16.4	88 65.7	1 0.8	8 6.0	15 11.2

⑪ 町内会や自治会への出席

		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	209 46.4	63 14.0	92 20.4	7 1.6	62 13.8	18 4.0
性別	女性	237 100.0	96 40.5	31 13.1	63 26.6	5 2.1	35 14.8	7 3.0
	男性	212 100.0	111 52.4	32 15.1	29 13.7	2 1.0	27 12.7	11 5.2
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	6 25.0	4 16.7	0 0.0	2 8.3	12 50.0	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	17 27.9	9 14.8	21 34.4	3 4.9	11 18.0	0 0.0
	女性 60歳以上	151 100.0	73 48.4	18 11.9	41 27.2	0 0.0	12 8.0	7 4.6
	男性 39歳以下	19 100.0	4 21.1	1 5.3	4 21.1	0 0.0	10 52.6	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	31 52.6	8 13.6	8 13.6	2 3.4	9 15.3	1 1.7
	男性 60歳以上	134 100.0	76 56.7	23 17.2	17 12.7	0 0.0	8 6.0	10 7.5

⑫ 高齢者・病人などの世話（現在、または過去に）

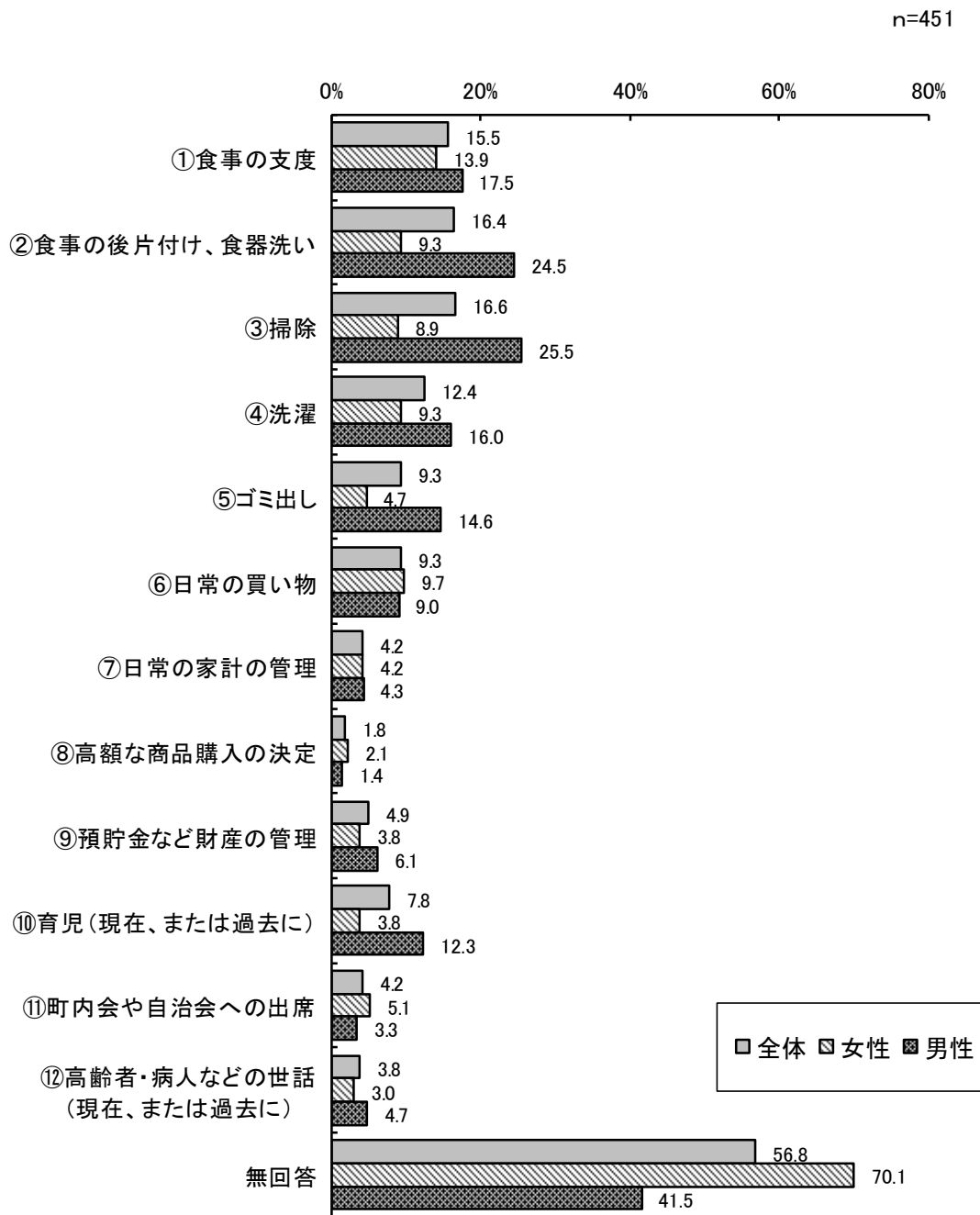
		合計	主に夫(男性)	夫婦(男女)でおおむね同じ	主に妻(女性)	主にその他の人	該当事項なし	無回答
全体		451 100.0	12 2.7	121 26.8	187 41.5	5 1.1	100 22.2	26 5.8
性別	女性	237 100.0	6 2.5	52 22.0	122 51.5	3 1.3	46 19.4	8 3.4
	男性	212 100.0	6 2.8	67 31.6	65 30.7	2 1.0	54 25.5	18 8.5
性 / 年齢別	女性 39歳以下	24 100.0	0 0.0	4 16.7	4 16.7	0 0.0	16 66.7	0 0.0
	女性 40～59歳	61 100.0	2 3.3	20 32.8	25 41.0	1 1.6	12 19.7	1 1.6
	女性 60歳以上	151 100.0	4 2.7	28 18.6	93 61.6	2 1.3	17 11.3	7 4.6
	男性 39歳以下	19 100.0	0 0.0	4 21.1	2 10.5	0 0.0	13 68.4	0 0.0
	男性 40～59歳	59 100.0	0 0.0	21 35.6	12 20.3	1 1.7	23 39.0	2 3.4
	男性 60歳以上	134 100.0	6 4.5	42 31.4	51 38.1	1 0.8	18 13.4	16 12.0

(2) 自分が分担してもよい家庭の仕事

問13-1 問13の①から⑫までの仕事のうち、もっと自分が分担してもよいと思うものがあれば、3つまで選んで、次の記入欄に数字をご記入ください。

自分が分担してもよいと思う家庭の仕事としては、全体でみると「掃除」16.6%、「食事の後片付け、食器洗い」16.4%、「食事の支度」15.5%、「洗濯」12.4%、「ゴミ出し」及び「日常の買い物」9.3%の6つが上位にあげられている。

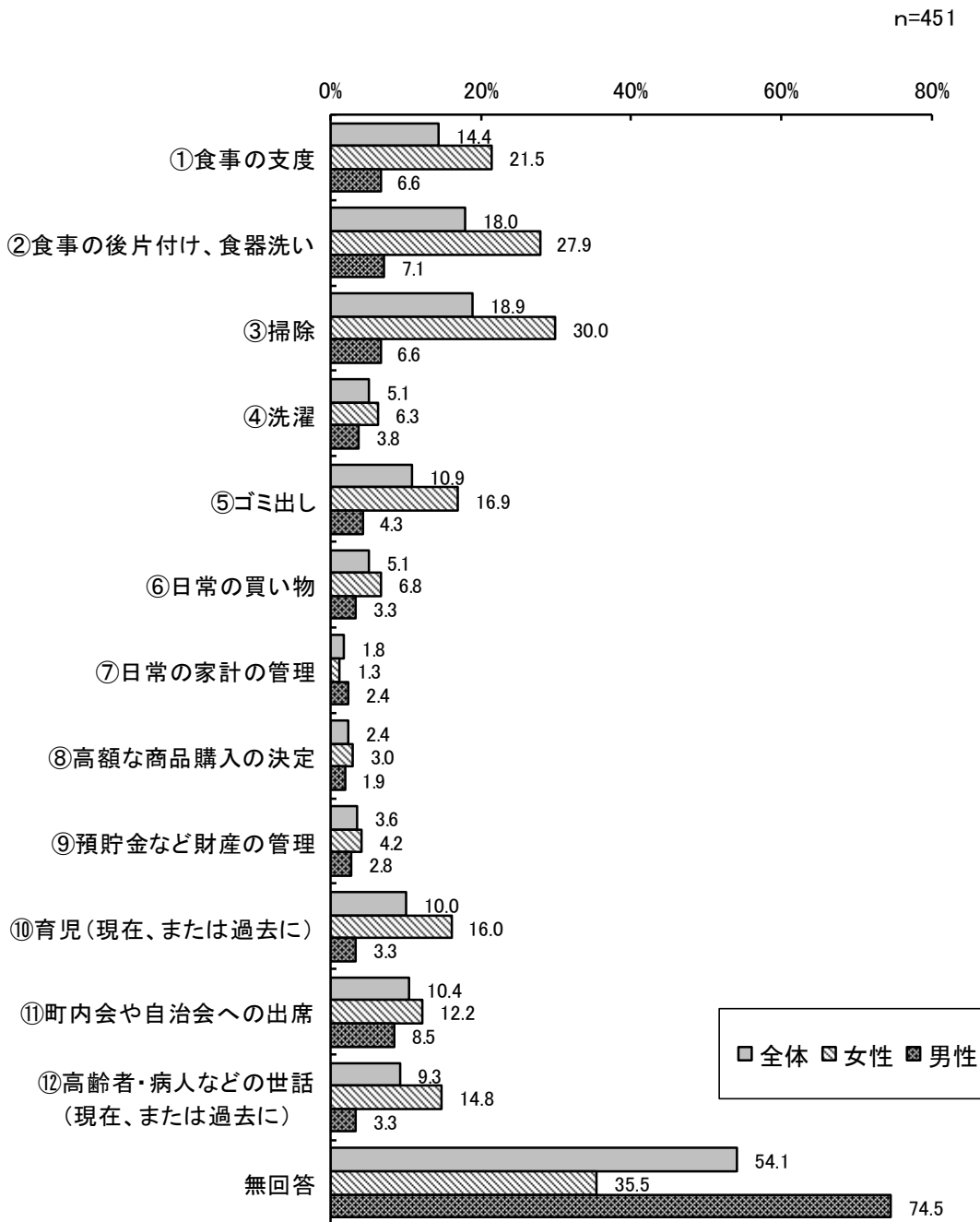
男性でみると、特に「掃除」が25.5%ともっとも多く、次いで「食事の後片付け、食器洗い」が24.5%、「食事の支度」17.5%と続いている。



(3) 配偶者・パートナーに分担してもらいたい家庭の仕事

問13-2 問13の①から⑫までの仕事のうち、もっと配偶者又はパートナーに分担して欲しいと思うものがあれば、3つまで選んで、次の記入欄に数字をご記入ください。

配偶者又はパートナーに分担して欲しい家庭の仕事として、全体では、「掃除」18.9%、「食事の後片付け、食器洗い」18.0%、「食事の支度」14.4%、「ゴミ出し」10.9%、「町内会や自治会への出席」10.4%の5つが上位にあげられている。

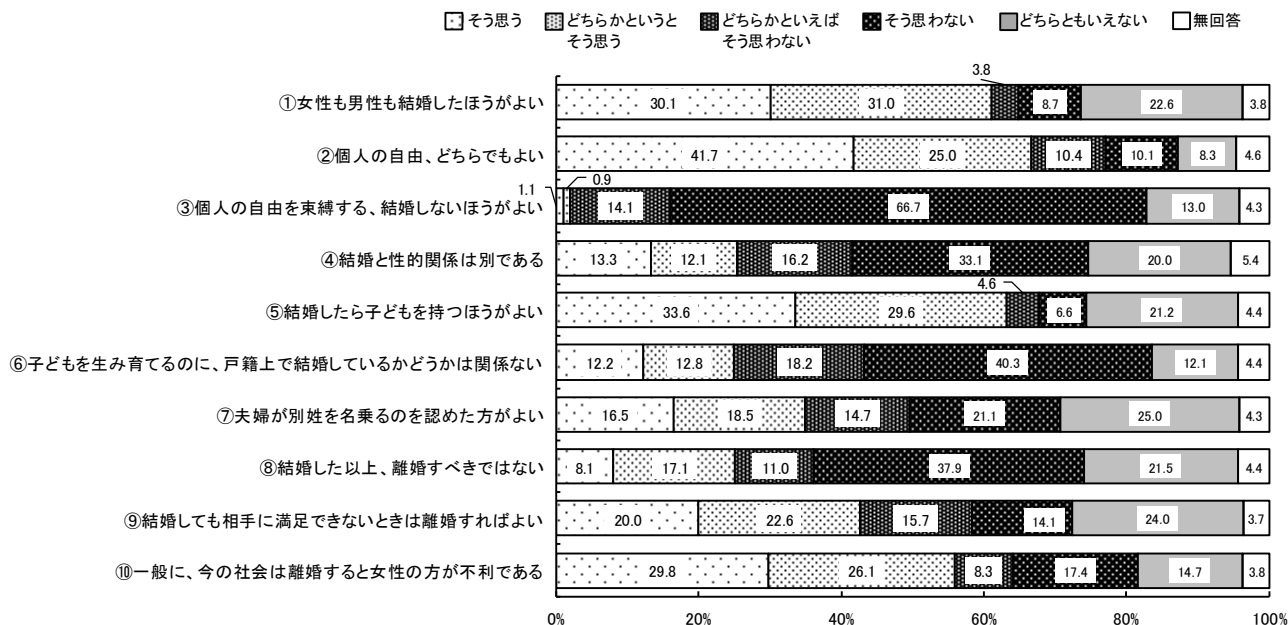


(4) 結婚観

問14 あなたは、結婚・離婚についてどのようにお考えですか。①～⑩の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。(〇は各項目に1つずつ)

結婚観について“そう思う”(「そう思う」と「どちらかというそう思う」の合計比率)、あるいは“そう思わない”(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計比率)との回答比率が高い順からの5項目は以下のとおり。

- ③個人の自由を束縛するものだから、結婚しないほうがよい
(そう思わない：80.8%)
- ②個人の自由、どちらでもよい
(そう思う：66.7%)
- ⑤結婚したら子どもを持つほうがよい
(そう思う：63.2%)
- ①女性も男性も結婚したほうがよい
(そう思う：61.1%)
- ⑥子どもを生み育てるのに、戸籍上で結婚しているかどうかは関係ない
(そう思わない：58.5%)



市民の結婚観は、結婚はしたほうがよく、結婚したら子どもを持ったほうがよいし、育てるのに戸籍上で結婚した環境が望ましいとしている。

また、結婚することは個人の自由なので、どちらでもよいとの回答も半数以上を占めている。

■比較データ：性・年齢別

①女性も男性も結婚したほうがよい

		合計	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	どちらとも いえない	無回答
全体		655 100.0	197 30.1	203 31.0	25 3.8	57 8.7	148 22.6	25 3.8
性別	女性	366 100.0	89 24.3	116 31.7	18 4.9	33 9.0	101 27.6	9 2.5
	男性	284 100.0	108 38.0	86 30.3	7 2.5	23 8.1	46 16.2	14 4.9
性 / 年 齢 別	女性 39歳以下	58 100.0	4 6.9	17 29.3	4 6.9	10 17.3	22 37.9	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	16 16.2	31 31.3	8 8.1	10 10.1	32 32.3	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	69 33.2	68 32.7	6 2.9	12 5.8	47 22.6	6 2.9
	男性 39歳以下	40 100.0	13 32.5	11 27.5	1 2.5	6 15.0	6 15.0	3 7.5
	男性 40～59歳	82 100.0	23 28.1	29 35.4	3 3.7	5 6.1	20 24.4	2 2.4
	男性 60歳以上	162 100.0	72 44.5	46 28.4	3 1.9	12 7.4	20 12.4	9 5.6

②個人の自由、どちらでもよい

		合計	そう思う	どちらかとい うとそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	どちらとも いえない	無回答
全体		655 100.0	273 41.7	164 25.0	68 10.4	66 10.1	54 8.3	30 4.6
性別	女性	366 100.0	168 45.9	93 25.4	36 9.8	23 6.3	34 9.3	12 3.3
	男性	284 100.0	103 36.3	71 25.0	32 11.3	42 14.8	19 6.7	17 6.0
性 / 年 齢 別	女性 39歳以下	58 100.0	40 69.0	12 20.7	2 3.5	0 0.0	3 5.2	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	58 58.6	23 23.2	7 7.1	5 5.1	4 4.1	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	69 33.2	58 27.9	27 13.0	18 8.7	27 13.0	9 4.3
	男性 39歳以下	40 100.0	20 50.0	10 25.0	4 10.0	3 7.5	1 2.5	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	33 40.3	22 26.8	8 9.8	12 14.6	5 6.1	2 2.4
	男性 60歳以上	162 100.0	50 30.9	39 24.1	20 12.4	27 16.7	13 8.0	13 8.0

③個人の自由を束縛する、結婚しないほうがよい

		合計	そう思う	どちらかとい うとそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	どちらとも いえない	無回答
全体		655 100.0	7 1.1	6 0.9	92 14.1	437 66.7	85 13.0	28 4.3
性別	女性	366 100.0	4 1.1	2 0.6	54 14.8	238 65.0	57 15.6	11 3.0
	男性	284 100.0	3 1.1	4 1.4	38 13.4	197 69.4	27 9.5	15 5.3
性 / 年 齢 別	女性 39歳以下	58 100.0	1 1.7	2 3.5	7 12.1	38 65.5	9 15.5	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	0 0.0	0 0.0	20 20.2	60 60.6	17 17.2	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	3 1.5	0 0.0	27 13.0	140 67.3	30 14.4	8 3.9
	男性 39歳以下	40 100.0	0 0.0	3 7.5	5 12.5	26 65.0	4 10.0	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	2 2.4	1 1.2	18 22.0	49 59.8	10 12.2	2 2.4
	男性 60歳以上	162 100.0	1 0.6	0 0.0	15 9.3	122 75.3	13 8.0	11 6.8

④結婚と性的関係は別である

		合計	そう思う	どちらかというと思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全体		655 100.0	87 13.3	79 12.1	106 16.2	217 33.1	131 20.0	35 5.4
性別	女性	366 100.0	43 11.8	43 11.8	55 15.0	123 33.6	87 23.8	15 4.1
	男性	284 100.0	43 15.2	36 12.7	50 17.6	93 32.8	44 15.5	18 6.3
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	11 19.0	7 12.1	10 17.3	14 24.1	15 25.9	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	10 10.1	13 13.1	16 16.2	25 25.3	33 33.3	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	22 10.6	23 11.1	29 14.0	84 40.4	38 18.3	12 5.8
	男性 39歳以下	40 100.0	18 45.0	4 10.0	4 10.0	10 25.0	2 5.0	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	7 8.5	12 14.6	19 23.2	27 32.9	15 18.3	2 2.4
	男性 60歳以上	162 100.0	18 11.1	20 12.4	27 16.7	56 34.6	27 16.7	14 8.7

⑤結婚したら子どもを持つほうがよい

		合計	そう思う	どちらかというと思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全体		655 100.0	220 33.6	194 29.6	30 4.6	43 6.6	139 21.2	29 4.4
性別	女性	366 100.0	100 27.3	116 31.7	18 4.9	26 7.1	93 25.4	13 3.6
	男性	284 100.0	120 42.3	78 27.5	11 3.9	17 6.0	44 15.5	14 4.9
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	7 12.1	15 25.9	6 10.4	9 15.5	20 34.5	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	17 17.2	37 37.4	6 6.1	10 10.1	27 27.3	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	76 36.5	64 30.8	6 2.9	7 3.4	45 21.6	10 4.8
	男性 39歳以下	40 100.0	15 37.5	10 25.0	1 2.5	6 15.0	6 15.0	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	25 30.5	31 37.8	5 6.1	5 6.1	15 18.3	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	80 49.4	37 22.8	3 3.1	5 3.7	6 14.2	23 6.8

⑥子どもを生み育てるのに、戸籍上で結婚しているかどうかは関係ない

		合計	そう思う	どちらかというと思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全体		655 100.0	80 12.2	84 12.8	119 18.2	264 40.3	79 12.1	29 4.4
性別	女性	366 100.0	32 8.8	44 12.0	70 19.1	155 42.4	52 14.2	13 3.6
	男性	284 100.0	47 16.6	40 14.1	49 17.3	107 37.7	27 9.5	14 4.9
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	6 10.4	13 22.4	10 17.3	17 29.3	11 19.0	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	9 9.1	14 14.2	26 26.3	32 32.3	16 16.2	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	17 8.2	17 8.2	34 16.4	105 50.5	25 12.0	10 4.8
	男性 39歳以下	40 100.0	6 15.0	5 12.5	8 20.0	12 30.0	7 17.5	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	18 22.0	14 17.1	17 20.7	22 26.8	9 11.0	2 2.4
	男性 60歳以上	162 100.0	23 14.2	21 13.0	24 14.8	73 45.1	11 6.8	10 6.2

⑦夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい

		合計	そう思う	どちらかというと思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全体		655 100.0	108 16.5	121 18.5	96 14.7	138 21.1	164 25.0	28 4.3
性別	女性	366 100.0	62 16.9	77 21.0	48 13.1	70 19.1	98 26.8	11 3.0
	男性	284 100.0	45 15.9	44 15.5	48 16.9	68 24.0	64 22.5	15 5.3
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	12 20.7	14 24.1	7 12.1	3 5.2	21 36.2	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	23 23.2	32 32.3	13 13.1	7 7.1	22 22.2	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	27 13.0	31 14.9	28 13.5	60 28.9	54 26.0	8 3.9
	男性 39歳以下	40 100.0	12 30.0	6 15.0	4 10.0	5 12.5	11 27.5	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	10 12.2	17 20.7	21 25.6	12 14.6	20 24.4	2 2.4
	男性 60歳以上	162 100.0	23 14.2	21 13.0	23 14.2	51 31.5	33 20.4	11 6.8

⑧結婚した以上、離婚すべきではない

		合計	そう思う	どちらかというと思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全体		655 100.0	53 8.1	112 17.1	72 11.0	248 37.9	141 21.5	29 4.4
性別	女性	366 100.0	20 5.5	60 16.4	38 10.4	148 40.4	88 24.1	12 3.3
	男性	284 100.0	33 11.6	50 17.6	34 12.0	99 34.9	53 18.7	15 5.3
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	0 0.0	10 17.3	6 10.4	25 43.1	16 27.6	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	3 3.0	16 16.2	14 14.2	46 46.5	18 18.2	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	17 8.2	33 15.9	18 8.7	77 37.0	54 26.0	9 4.3
	男性 39歳以下	40 100.0	2 5.0	11 27.5	2 5.0	18 45.0	5 12.5	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	4 4.9	23 28.1	10 12.2	25 30.5	19 23.2	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	27 16.7	16 9.9	22 13.6	56 34.6	29 17.9	12 7.4

⑨結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

		合計	そう思う	どちらかというと思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全体		655 100.0	131 20.0	148 22.6	103 15.7	92 14.1	157 24.0	24 3.7
性別	女性	366 100.0	74 20.2	89 24.3	51 13.9	44 12.0	100 27.3	8 2.2
	男性	284 100.0	56 19.7	57 20.1	52 18.3	48 16.9	57 20.1	14 4.9
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	15 25.9	10 17.3	7 12.1	7 12.1	18 31.0	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	23 23.2	33 33.3	14 14.2	6 6.1	21 21.2	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	36 17.3	46 22.1	29 14.0	31 14.9	61 29.3	5 2.4
	男性 39歳以下	40 100.0	11 27.5	8 20.0	10 25.0	3 7.5	6 15.0	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	21 25.6	14 17.1	21 25.6	7 8.5	18 22.0	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	24 14.8	35 21.6	21 13.0	38 23.5	33 20.4	11 6.8

⑩一般に、今の社会は離婚すると女性の方が不利である

		合計	そう思う	どちらかという と思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わ ない	どちらとも いえない	無回答
全体		655 100.0	195 29.8	171 26.1	54 8.3	114 17.4	96 14.7	25 3.8
性別	女性	366 100.0	131 35.8	90 24.6	27 7.4	54 14.8	55 15.0	9 2.5
	男性	284 100.0	62 21.8	81 28.5	27 9.5	59 20.8	41 14.4	14 4.9
性 / 年 齢 別	女性 39歳以下	58 100.0	20 34.5	19 32.8	3 5.2	6 10.4	9 15.5	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	35 35.4	28 28.3	8 8.1	9 9.1	17 17.2	2 2.0
	女性 60歳以上	208 100.0	75 36.1	43 20.7	16 7.7	39 18.8	29 14.0	6 2.9
	男性 39歳以下	40 100.0	9 22.5	12 30.0	4 10.0	9 22.5	4 10.0	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	17 20.7	22 26.8	7 8.5	21 25.6	12 14.6	3 3.7
	男性 60歳以上	162 100.0	36 22.2	47 29.0	16 9.9	29 17.9	25 15.4	9 5.6

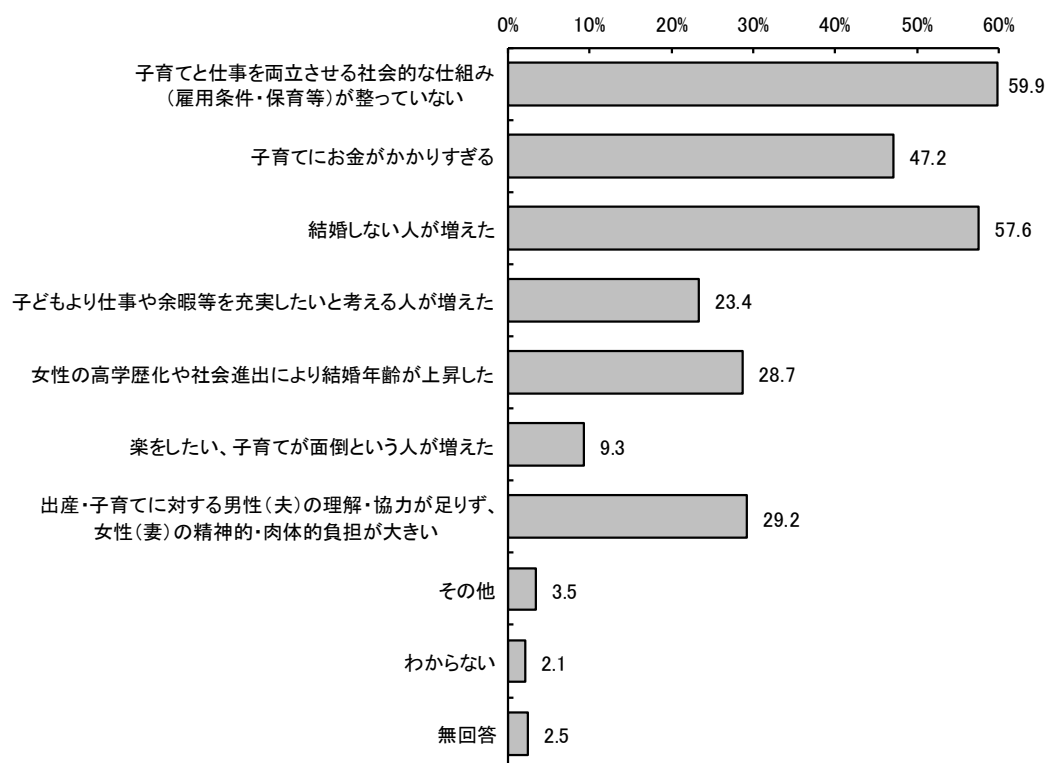
(5) 出生率低下の原因

問15 あなたは、出生率が低下している原因は何だと思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものをお選びください。(〇は3つまで)

出生率が低下している原因として考えられているのが、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない」が59.9%と最も多く、次いで「結婚しない人が増えた」が57.6%、「子育てにお金がかかりすぎる」47.2%と続き、それぞれ約半数の回答を占めている。

また、「出産・子育てに対する男性(夫)の理解・協力が足りず、女性(妻)の精神的・肉体的負担が大きい」29.2%との回答が続いている。

n=655



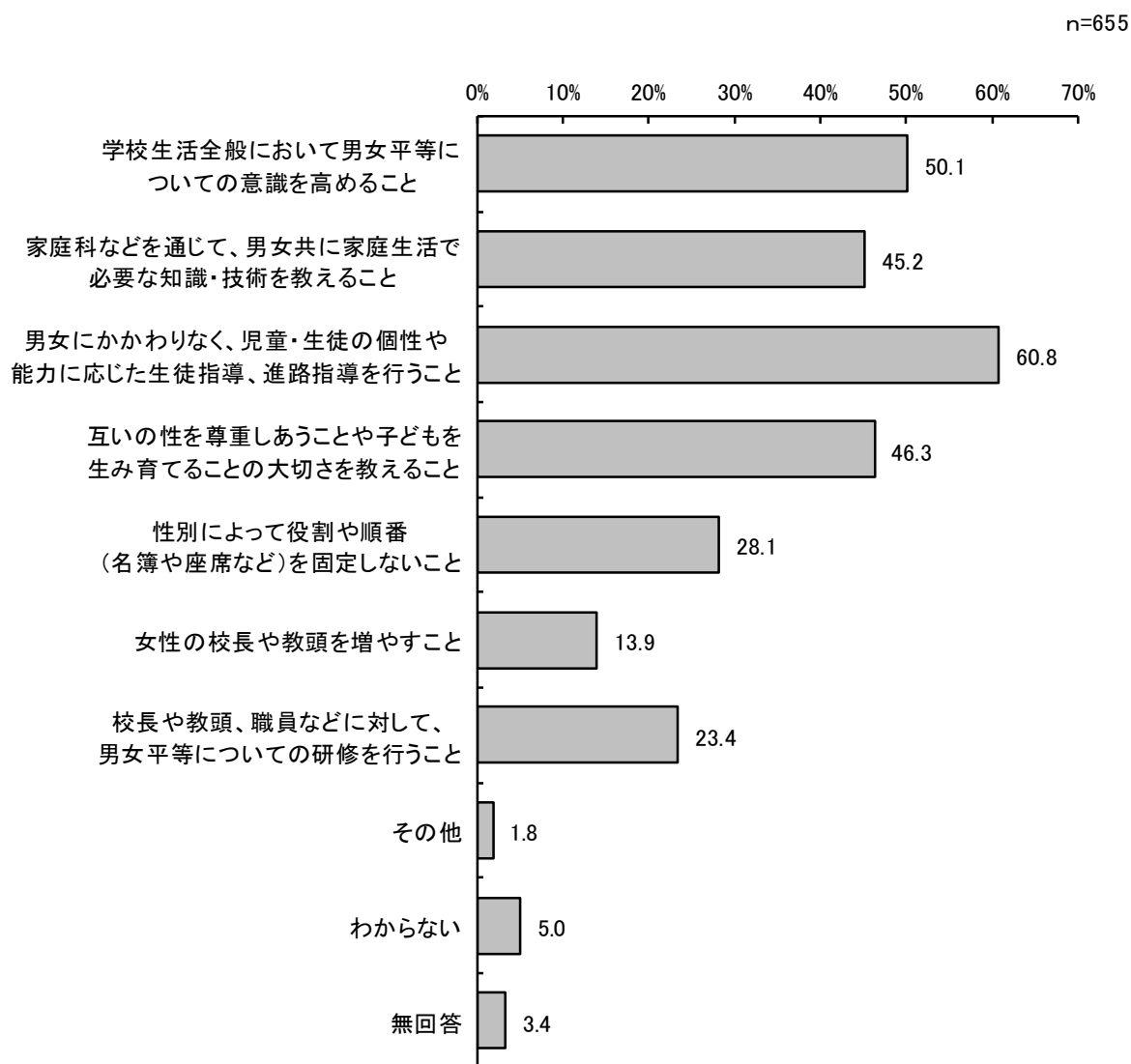
■比較データ：性・年齢別

		合計	子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない	子育てにお金がかかりすぎる	結婚しない人が増えた	子どもより仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた	女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した	楽をしたい、子育てが面倒という人が増えた	出産・子育てに対する男性(夫)の理解・協力が足りず、女性(妻)の精神的・肉体的負担が大きい	その他	わからない	無回答
全体		655 100.0	392 59.9	309 47.2	377 57.6	153 23.4	188 28.7	61 9.3	191 29.2	23 3.5	14 2.1	16 2.5
性別	女性	366 100.0	223 60.9	171 46.7	208 56.8	93 25.4	113 30.9	27 7.4	129 35.3	11 3.0	2 0.6	5 1.4
	男性	284 100.0	167 58.8	137 48.2	167 58.8	58 20.4	75 26.4	34 12.0	61 21.5	12 4.2	11 3.9	10 3.5
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	36 62.1	25 43.1	26 44.8	18 31.0	16 27.6	2 3.5	28 48.3	3 5.2	0 0.0	1 1.7
	女性 40～59歳	99 100.0	63 63.6	61 61.6	49 49.5	22 22.2	26 26.3	7 7.1	32 32.3	3 3.0	1 1.0	1 1.0
	女性 60歳以上	208 100.0	123 59.1	84 40.4	133 64.0	53 25.5	71 34.1	18 8.7	68 32.7	5 2.4	1 0.5	3 1.5
	男性 39歳以下	40 100.0	25 62.5	25 62.5	20 50.0	8 20.0	8 20.0	4 10.0	9 22.5	1 2.5	1 2.5	1 2.5
	男性 40～59歳	82 100.0	48 58.5	46 56.1	48 58.5	19 23.2	18 22.0	11 13.4	11 13.4	5 6.1	3 3.7	2 2.4
	男性 60歳以上	162 100.0	94 58.0	66 40.8	99 61.1	31 19.1	49 30.3	19 11.7	41 25.3	6 3.7	7 4.3	7 4.3

3. 学校教育について

問16 あなたは、学校教育の場で男女平等の意識を深めるために、どのようなことが大切だと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

学校教育の場において、男女平等の意識を深めるための回答から「男女にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた生徒指導、進路指導を行うこと」が60.8%と最も多く、次いで「学校生活全般において男女平等についての意識を高めること」が50.1%、「互いの性を尊重しあうことや子どもを生み育てることの大切さを教えること」46.3%、「家庭科などを通じて、男女共に家庭生活で必要な知識・技術を教えること」45.2%と続き、それぞれ半数近くを占めている。



■比較データ：性・年齢別

		合計	学校生活全般において男女平等についての意識を高めること	家庭科などを通じて、男女共に家庭生活に必要な知識・技術を教えること	男女にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた生徒指導、進路指導を行うこと	互いの性を尊重しあうことや子どもを産み育てることの大切さを教えること	性別によって役割や順番(名簿や座席など)を固定しないこと	女性の校長や教頭を増やすこと	校長や教頭、職員などに対して、男女平等についての研修を行うこと	その他	わからない	無回答
全体		655 100.0	328 50.1	296 45.2	398 60.8	303 46.3	184 28.1	91 13.9	153 23.4	12 1.8	33 5.0	22 3.4
性別	女性	366 100.0	191 52.2	183 50.0	236 64.5	189 51.6	100 27.3	45 12.3	81 22.1	3 0.8	17 4.7	11 3.0
	男性	284 100.0	135 47.5	111 39.1	159 56.0	111 39.1	82 28.9	45 15.9	71 25.0	9 3.2	16 5.6	9 3.2
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	24 41.4	37 63.8	38 65.5	36 62.1	17 29.3	11 19.0	28 48.3	2 3.5	0 0.0	0 0.0
	女性 40～59歳	99 100.0	55 55.6	45 45.5	64 64.7	48 48.5	21 21.2	13 13.1	15 15.2	0 0.0	7 7.1	0 0.0
	女性 60歳以上	208 100.0	112 53.9	100 48.1	133 64.0	104 50.0	61 29.3	21 10.1	38 18.3	1 0.5	10 4.8	11 5.3
	男性 39歳以下	40 100.0	16 40.0	19 47.5	24 60.0	12 30.0	18 45.0	6 15.0	15 37.5	4 10.0	2 5.0	0 0.0
	男性 40～59歳	82 100.0	39 47.6	34 41.5	45 54.9	32 39.0	25 30.5	16 19.5	20 24.4	3 3.7	5 6.1	1 1.2
	男性 60歳以上	162 100.0	80 49.4	58 35.8	90 55.6	67 41.4	39 24.1	23 14.2	36 22.2	2 1.2	9 5.6	8 4.9

4. 就労について

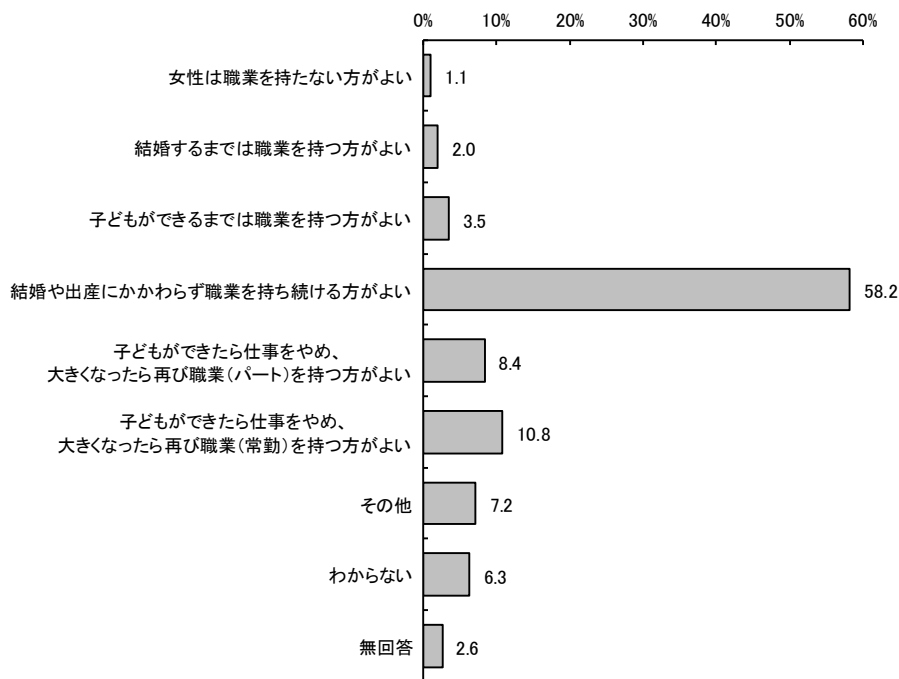
(1) 女性が職業を持つことについての考え方

問17 あなたは女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。次の中からあなたの考えに最も近いものをお選びください。(〇は1つ)

女性が職業を持つことについて、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」が58.2%と最も多く半数以上を占めている。

次いで、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業(常勤)を持つ方がよい」が10.8%、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業(パート)を持つ方がよい」8.4%との回答から、妊娠・出産を機に仕事をやめても、いずれは再び就労を希望していることがうかがえる。

n=655



■比較データ：性・年齢別

		合計	女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは職業を持つ方がよい	結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業(パート)を持つ方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業(常勤)を持つ方がよい	その他	わからない	無回答
全体		655	7	13	23	381	55	71	47	41	17
		100.0	1.1	2.0	3.5	58.2	8.4	10.8	7.2	6.3	2.6
性別	女性	366	2	5	8	223	35	39	28	19	7
	男性	284	5	8	15	157	19	32	18	22	8
		100.0	1.8	2.8	5.3	55.3	6.7	11.3	6.3	7.8	2.8
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58	0	2	0	35	5	3	9	4	0
	女性 40～59歳	99	1	1	2	63	8	8	10	6	0
	女性 60歳以上	208	1	2	6	124	22	28	9	9	7
	男性 39歳以下	40	0	0	2	23	2	5	5	3	0
	男性 40～59歳	82	2	2	5	42	5	9	6	10	1
	男性 60歳以上	162	3	6	8	92	12	18	7	9	7
	男性 39歳以上	244	3	6	8	139	17	27	13	19	8
		100.0	1.9	3.7	4.9	56.8	7.4	11.1	4.3	5.6	4.3

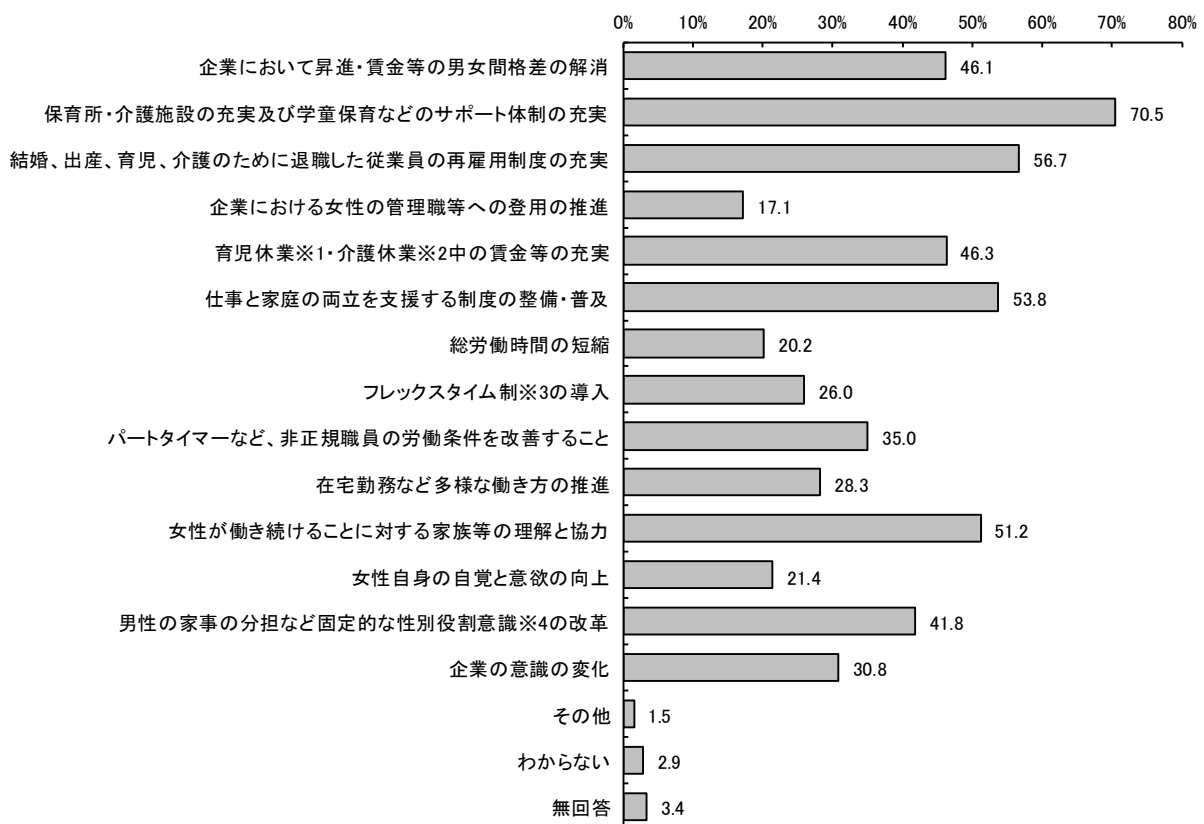
(2) 女性が職業を続けていくために必要なこと

問18 女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。現在、働いていない方は、過去の経験やイメージでも結構ですのでお答えください。(〇はあてはまるものすべて)

女性が働き続けるために必要なこととしては、「保育所・介護施設の充実及び学童保育などのサポート体制の充実」が70.5%と最も多く、次いで「結婚、出産、育児、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実」が56.7%、「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及」53.8%、「女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力」51.2%と続き、各半数以上を占めている。

その他、「育児休業・介護休業中の賃金等の充実」が46.3%、「企業において昇進・賃金等の男女間格差の解消」46.1%などが続き、多岐にわたる要望がみられる。

n=655



■比較データ：性・年齢別

	合計	企業において昇進・賃金等の男女間格差の解消	保育所・介護施設の充実及び学童保育などのサポート体制の充実	結婚、出産、育児、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実	企業における女性の管理職等への登用の推進	育児休業※1・介護休業※2中の賃金等の充実	仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及	総労働時間の短縮	フレックスタイム制※3の導入	パートタイマーなど、非正規職員の労働条件を改善すること	在宅勤務など多様な働き方の推進	女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力	女性自身の自覚と意欲の向上	男性の家事の分担など固定的な性別役割意識※4の改革	企業の意識の変化	その他	わからない	無回答
全体	655	302	482	371	112	303	352	132	170	229	185	335	140	274	202	10	19	22
性別	100.0	46.1	70.5	56.7	17.1	46.3	53.8	20.2	26.0	35.0	28.3	51.2	21.4	41.8	30.8	1.5	2.9	3.4
女性	366	163	270	194	62	181	193	79	99	135	104	204	80	186	118	4	9	11
男性	284	139	190	175	50	119	157	51	70	93	80	128	58	86	83	6	10	9
性/年齢別	100.0	48.0	66.9	61.6	17.6	41.9	55.3	18.0	24.7	32.8	28.2	45.1	20.4	30.3	29.2	2.1	3.5	3.2
女性 39歳以下	58	33	49	42	10	45	38	20	25	20	24	37	14	36	17	3	0	0
女性 40～59歳	99	47	80	55	19	48	54	18	32	36	28	62	20	57	33	1	2	0
女性 60歳以上	208	82	140	96	33	87	100	41	42	79	52	105	46	92	67	0	7	11
男性 39歳以下	40	23	29	28	12	22	27	10	20	11	19	16	9	19	14	2	2	0
男性 40～59歳	82	38	58	49	15	36	42	16	15	30	24	33	18	23	29	3	3	1
男性 60歳以上	162	78	103	98	23	61	88	25	35	52	37	79	31	44	40	1	5	8
	100.0	48.2	63.6	60.5	14.2	37.7	54.3	15.4	21.6	32.1	22.8	48.8	19.1	27.2	24.7	0.6	3.1	4.9

- ※1 育児休業：労働者が原則として1歳に満たない子どもを養育するために取得する休業をいう。また、一定の事情がある場合は、子どもが1歳6か月に達する日（再延長で2歳に達する日）までの間、育児休業することができる。
- ※2 介護休業：負傷、疾病又は身体上もしくは精神上の障害により、2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態にある対象家族を、労働者本人が介護するための休業をいう。
- ※3 フレックスタイム制：1日の所定労働時間の長さを固定的に決めずに、1か月以内の一定期間の総労働時間をあらかじめ決めておき、その範囲内で労働者が各自の始業・終業時刻を自主的に決定して働く制度のことをいう。
- ※4 固定的な性別役割意識：例えば「男は仕事、女は家庭」「男性は主要業務、女性は補助的な業務」というように、性別を理由として役割を固定化してしまう考え方や意識をいう。

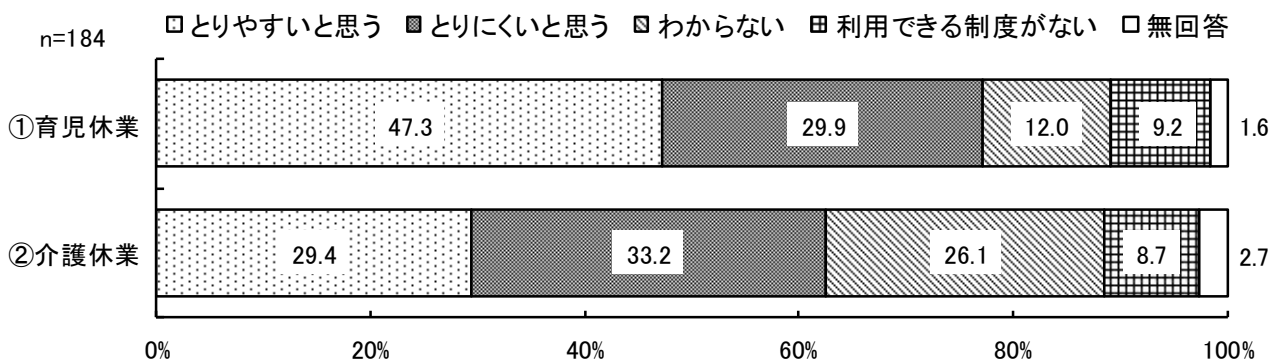
(3) 職場での育児休業・介護休業の取りやすさ

〔※ 問19は、会社などにお勤めの方にかがいます。自営業、パート、アルバイト等は除きます。〕

問19 あなたの職場では、あなたが育児休業や介護休業をとる必要が生じた場合、休業をとりにやすい環境にあると思いますか。（○は各項目に1つずつ）

介護休業は、「とりにくいと思う」が33.2%と「とりにやすいと思う」の29.4%を上回っているが、育児休業は「とりにやすいと思う」の47.3%が「とりにくいと思う」の29.9%を上回っている。

また、「利用できる制度がない」との回答が、育児休業で9.2%、介護休業8.7%を示している。

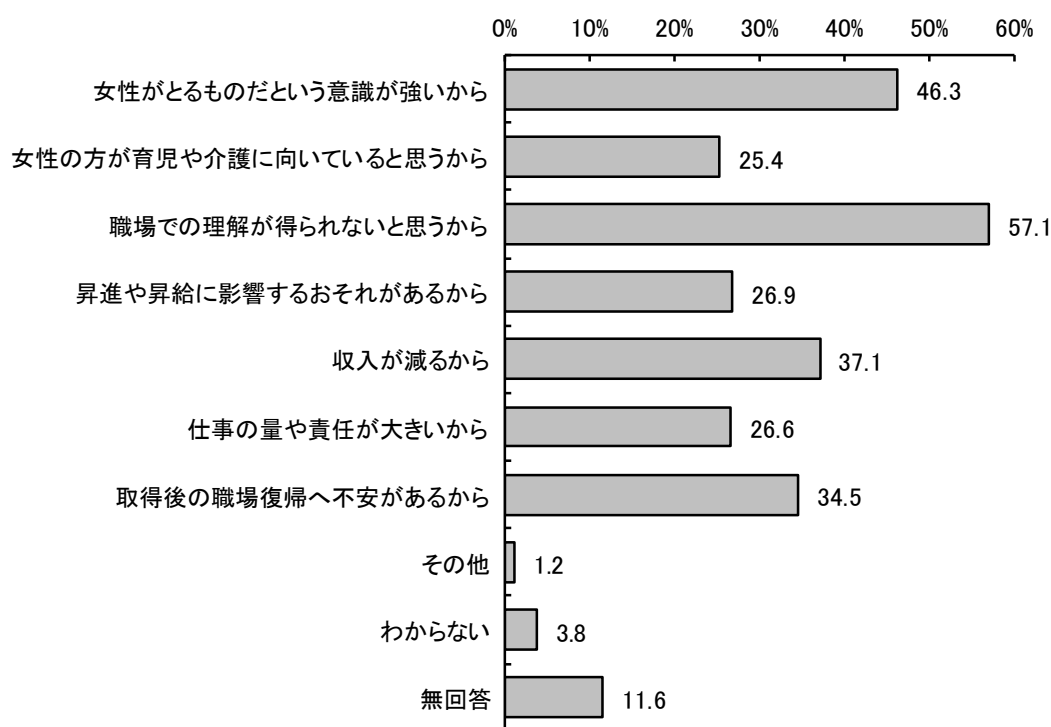


(4) 男性が育児休業・介護休業をとらない理由

問20 育児休業や介護休業をとる男性が少ない状況にあります。その理由は何だと思えますか。(〇はあてはまるものすべて)

男性が育児休業・介護休業をとらない理由は、「職場での理解が得られないと思うから」が57.1%と最も多く、次いで「女性がとるものだという意識が強いから」が46.3%、「収入が減るから」37.1%、「取得後の職場復帰へ不安があるから」34.5%と続いている。

n=655



■比較データ：性・年齢別

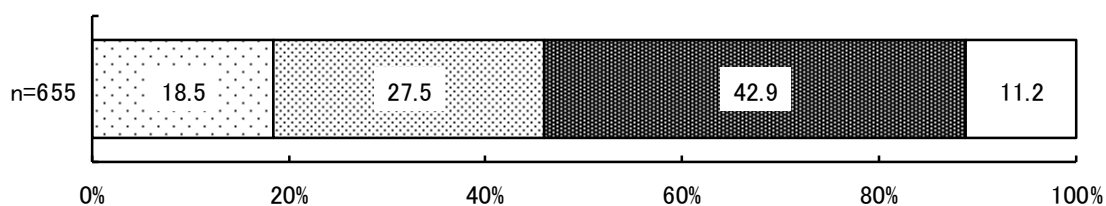
		合計	女性がとるものだという意識が強いから	女性の方が育児や介護に向いていると思うから	職場での理解が得られないと思うから	昇進や昇給に影響するおそれがあるから	収入が減るから	仕事の量や責任が大きいから	取得後の職場復帰へ不安があるから	その他	わからない	無回答
全体		655	303	166	374	176	243	174	226	8	25	76
		100.0	46.3	25.4	57.1	26.9	37.1	26.6	34.5	1.2	3.8	11.6
性別	女性	366	200	88	214	113	138	89	129	3	11	45
		100.0	54.7	24.1	58.5	30.9	37.7	24.3	35.3	0.8	3.0	12.3
性別	男性	284	100	76	158	62	104	85	95	5	14	29
		100.0	35.2	26.8	55.6	21.8	36.6	29.9	33.5	1.8	4.9	10.2
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58	39	13	39	24	29	15	22	0	1	7
		100.0	67.3	22.4	67.3	41.4	50.0	25.9	37.9	0.0	1.7	12.1
	女性 40~59歳	99	61	23	65	29	44	25	33	3	4	0
		100.0	61.6	23.2	65.7	29.3	44.5	25.3	33.3	3.0	4.1	0.0
	女性 60歳以上	208	99	52	109	59	64	49	73	0	6	38
		100.0	47.6	25.0	52.4	28.4	30.8	23.6	35.1	0.0	2.9	18.3
	男性 39歳以下	40	19	10	27	17	27	13	17	1	1	1
		100.0	47.5	25.0	67.5	42.5	67.5	32.5	42.5	2.5	2.5	2.5
男性 40~59歳	82	32	18	49	18	37	34	29	2	3	4	
	100.0	39.0	22.0	59.8	22.0	45.1	41.5	35.4	2.4	3.7	4.9	
男性 60歳以上	162	49	48	82	27	40	38	49	2	10	24	
	100.0	30.3	29.6	50.6	16.7	24.7	23.5	30.3	1.2	6.2	14.8	

(5) ワーク・ライフ・バランスの認知状況

問21 あなたはワーク・ライフ・バランス（WLB）※5について知っていますか。（○は1つ）

ワーク・ライフ・バランスについて、「聞いたこともなかった」が42.9%と最も多く、「聞いたことはあったが、内容は知らなかった」27.5%及び「聞いたことがあり、内容も知っている」の18.5%と合わせ、「聞いたことがある」人は46.0%となり、前回調査（平成27年）より約5%認知度が上がっている。

□聞いたことがあり、内容も知っている ▨聞いたことはあったが、内容は知らなかった ■聞いたこともなかった □無回答



■比較データ：性・年齢別

		合計	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあったが、内容は知らなかった	聞いたこともなかった	無回答
全体		655 100.0	121 18.5	180 27.5	281 42.9	73 11.2
性別	女性	366 100.0	61 16.7	98 26.8	163 44.5	44 12.0
	男性	284 100.0	59 20.8	80 28.2	118 41.6	27 9.5
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58 100.0	23 39.7	8 13.8	20 34.5	7 12.1
	女性 40～59歳	99 100.0	24 24.3	23 23.2	51 51.5	1 1.0
	女性 60歳以上	208 100.0	14 6.7	67 32.2	91 43.8	36 17.3
	男性 39歳以下	40 100.0	17 42.5	9 22.5	12 30.0	2 5.0
	男性 40～59歳	82 100.0	22 26.8	21 25.6	35 42.7	4 4.9
	男性 60歳以上	162 100.0	20 12.4	50 30.9	71 43.8	21 13.0

※5 ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活の調和。老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発・趣味など様々な活動について、自ら希望するバランスで展開でき、多様な働き方が選択・実現できるようになることです。

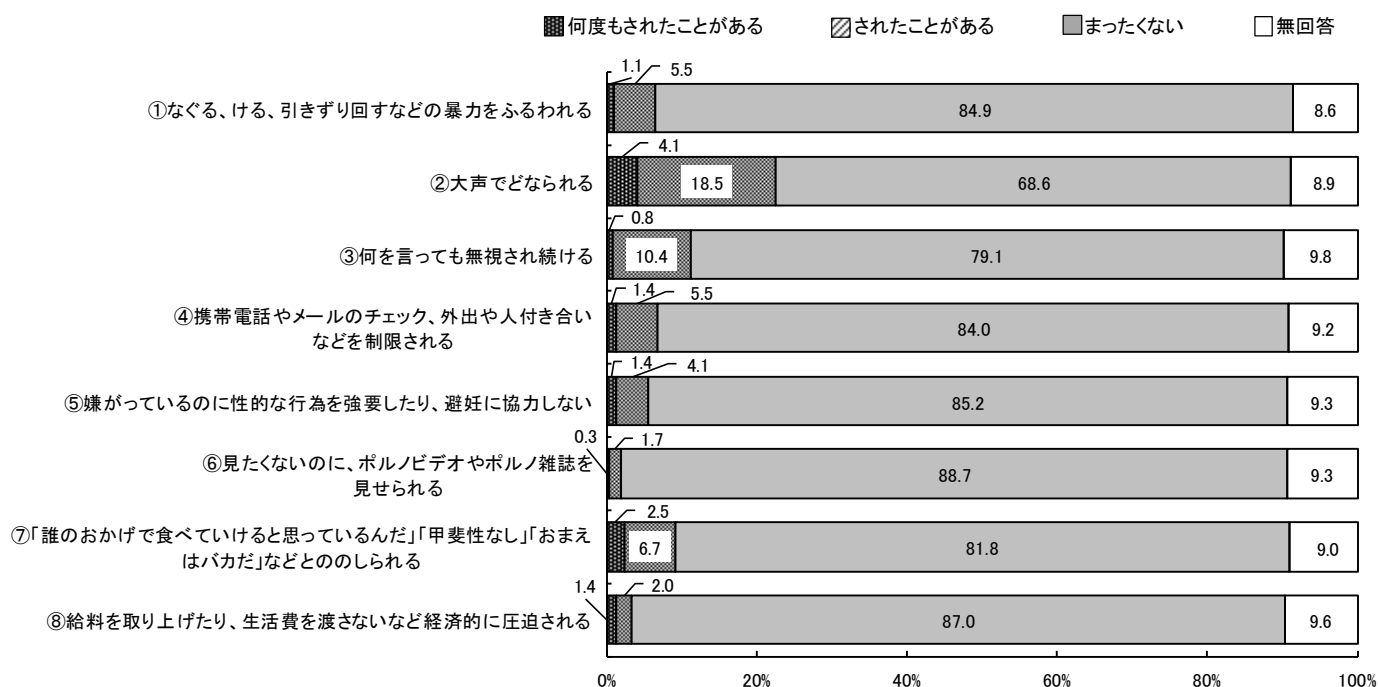
5. 男女間の暴力について

(1) 配偶者等からの暴力行為の有無

問22 配偶者や恋人などパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV）※6、デートDV※7）が社会問題になっていますが、次の①～⑧の項目について、それぞれ当てはまる番号をお選びください。（○は各項目1つずつ）

配偶者や恋人などパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV）、デートDV）は、全ての項目において「まったくない」との回答が過半数を超えているが、「何度もされたことがある」と「されたことがある」との回答から経験のある人が顕在し、その内容で最も多い項目は「②大声でどなられる」の22.6%で、次に「③何を言っても無視され続ける」11.2%となっている。

他に「⑦「誰のおかげで食べていけると思っているんだ」「甲斐性なし」「おまえはバカだ」などとののしられる」が9.2%、「④携帯電話やメールのチェック、外出や人付き合いなどを制限される」の6.9%などが続いている。



※6 ドメスティック・バイオレンス（DV）：主に配偶者など親密な関係にあるパートナー、又はあった者からの暴力のこと。その暴力とは、身体的、精神的、性的、経済的など、多面的な要素を含んでいる。

※7 デートDV：婚姻関係にない恋人、交際相手からの暴力のこと。婚姻関係にない若い世代の恋人同士や交際相手からの暴力行為が低年齢化し、深刻な問題となっているため、夫婦間、家庭内暴力と区別する言葉として「デートDV」（日本における造語）が使用されている。

■比較データ：性別

①なぐる、ける、引きずり回すなどの暴力をふるわれる

		合計	何度もされたことがある	されたことがある	まったくない	無回答
全体		655 100.0	7 1.1	36 5.5	556 84.9	56 8.6
性別	女性	366 100.0	6 1.6	31 8.5	308 84.2	21 5.7
	男性	284 100.0	1 0.4	5 1.8	246 86.6	32 11.3

②大声でどなられる

		合計	何度もされたことがある	されたことがある	まったくない	無回答
全体		655 100.0	27 4.1	121 18.5	449 68.6	58 8.9
性別	女性	366 100.0	21 5.7	92 25.1	232 63.4	21 5.7
	男性	284 100.0	6 2.1	29 10.2	215 75.7	34 12.0

③何を言っても無視され続ける

		合計	何度もされたことがある	されたことがある	まったくない	無回答
全体		655 100.0	5 0.8	68 10.4	518 79.1	64 9.8
性別	女性	366 100.0	4 1.1	38 10.4	299 81.7	25 6.8
	男性	284 100.0	1 0.4	30 10.6	217 76.4	36 12.7

④携帯電話やメールのチェック、外出や人付き合いなどを制限される

		合計	何度もされたことがある	されたことがある	まったくない	無回答
全体		655 100.0	9 1.4	36 5.5	550 84.0	60 9.2
性別	女性	366 100.0	8 2.2	24 6.6	311 85.0	23 6.3
	男性	284 100.0	1 0.4	12 4.2	237 83.5	34 12.0

⑤嫌がっているのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しない

		合計	何度もされたことがある	されたことがある	まったくない	無回答
全体		655 100.0	9 1.4	27 4.1	558 85.2	61 9.3
性別	女性	366 100.0	9 2.5	24 6.6	311 85.0	22 6.0
	男性	284 100.0	0 0.0	3 1.1	245 86.3	36 12.7

⑥見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる

		合計	何度もされたことがある	されたことがある	まったくない	無回答
全体		655 100.0	2 0.3	11 1.7	581 88.7	61 9.3
性別	女性	366 100.0	2 0.6	9 2.5	332 90.7	23 6.3
	男性	284 100.0	0 0.0	2 0.7	247 87.0	35 12.3

⑦「誰のおかげで食べていけると思っているんだ」「甲斐性なし」「おまえはバカだ」などとののしられる

		合計	何度もされたことがある	されたことがある	まったくない	無回答
全体		655 100.0	16 2.5	44 6.7	536 81.8	59 9.0
性別	女性	366 100.0	13 3.6	32 8.8	300 82.0	21 5.7
	男性	284 100.0	3 1.1	12 4.2	234 82.4	35 12.3

⑧給料を取り上げたり、生活費を渡さないなど経済的に圧迫される

		合計	何度もされたことがある	されたことがある	まったくない	無回答
全体		655 100.0	9 1.4	13 2.0	570 87.0	63 9.6
性別	女性	366 100.0	8 2.2	11 3.0	324 88.5	23 6.3
	男性	284 100.0	1 0.4	2 0.7	244 85.9	37 13.0

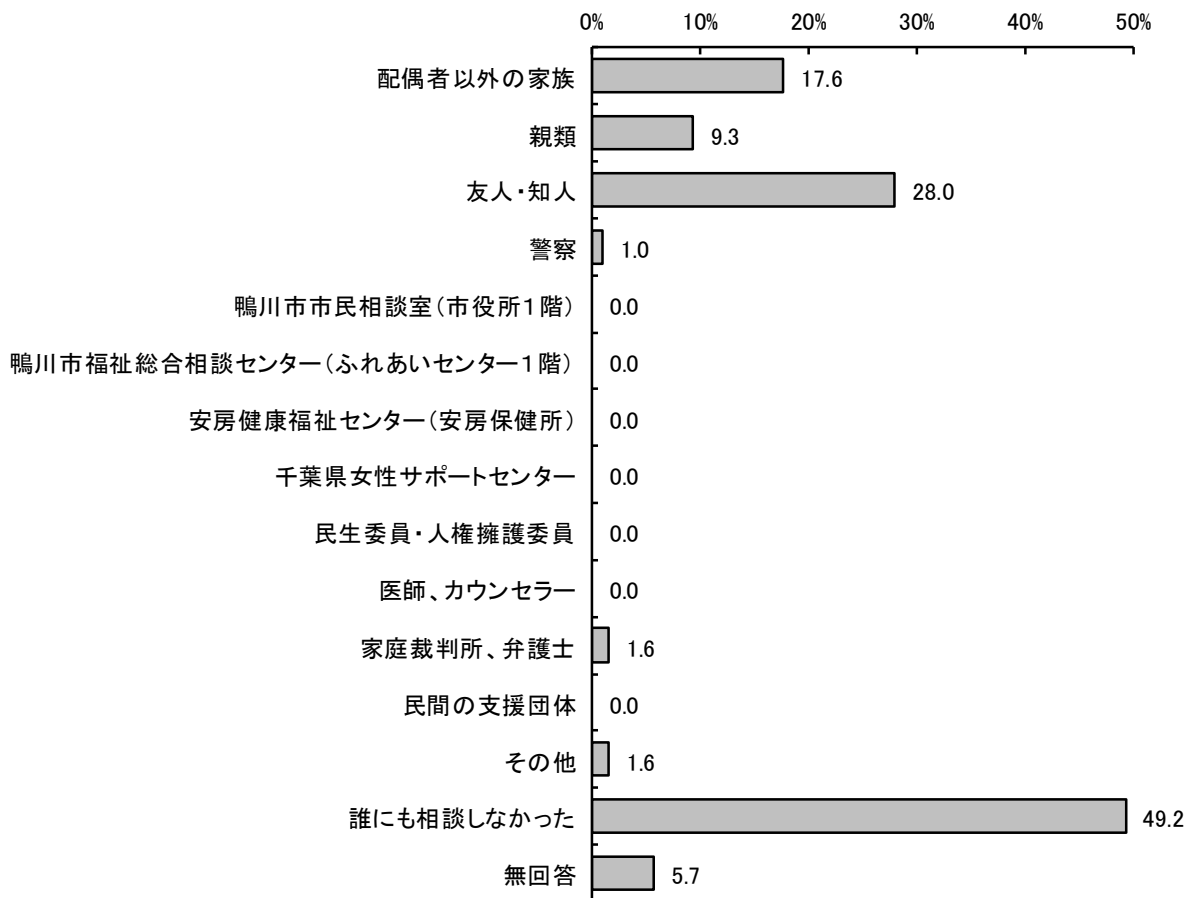
(2) 暴力行為を受けた際の相談相手

問22-1 問22の①から⑧のいずれかで「1 何度もされたことがある」もしくは「2されたことがある」に○をつけた方にお伺いします。
そのとき、あなたは誰に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

配偶者や恋人などパートナーからの暴力を受けたことがある人のうち、「誰にも相談しなかった」が49.2%を占めており最も多い。

相談した人の相談相手を見ると、「友人・知人」が28.0%、「配偶者以外の家族」17.6%、「親類」9.3%がほぼ上位を占めており、「家庭裁判所、弁護士」の1.6%や「警察」1.0%など専門機関等への相談は少ない状況となっている。

n=193



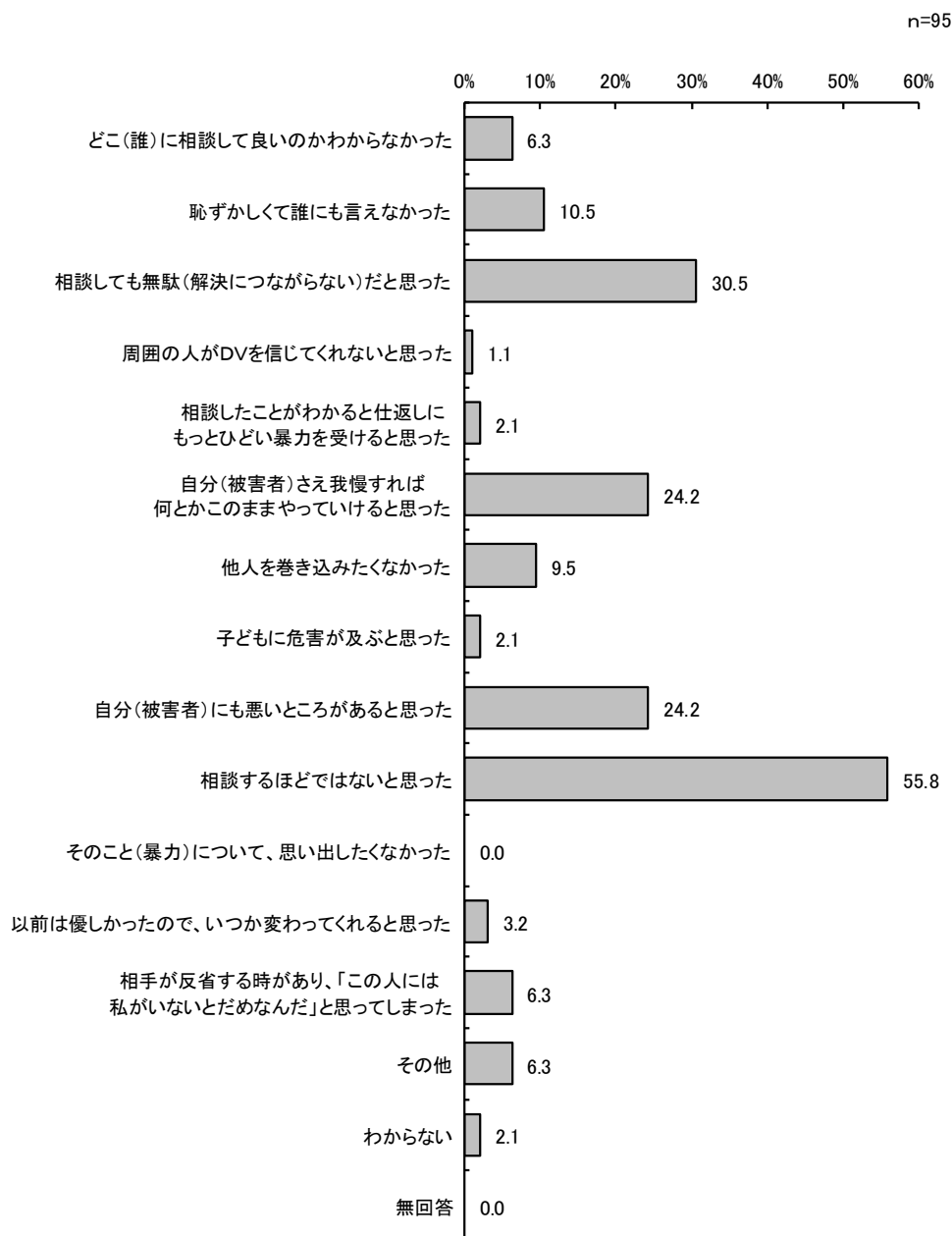
■比較データ：性別

	合計	配偶者以外の家族	親類	友人・知人	警察	鴨川市市民相談室(市役所1階)	鴨川市福祉総合相談センター(ふれあいセンター1階)	安房健康福祉センター(安房保健所)	千葉県女性サポートセンター	民生委員・人権擁護委員	医師、カウンセラー	家庭裁判所、弁護士	民間の支援団体	その他	誰にも相談しなかった	無回答
全体	193	34	18	54	2	0	0	0	0	0	0	3	0	3	95	11
	100.0	17.6	9.3	28.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	1.6	49.2	5.7
性別	女性	134	20	14	41	2	0	0	0	0	0	2	0	2	63	9
		100.0	14.9	10.5	30.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	47.0	6.7
男性	59	14	4	13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	32	2
	100.0	23.7	6.8	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7	54.2	3.4

(3) 相談していない人の理由

問22-2 問22-1で「14 誰にも相談しなかった」とお答えの方にお伺いします。
相談しなかったのはなぜですか。(〇はあてはまるものすべて)

「誰にも相談しなかった」人の理由として、「相談するほどではないと思った」が55.8%と突出して最も多く、次いで「相談しても無駄(解決につながらない)だと思った」が30.5%、「自分(被害者)さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思った」及び「自分(被害者)にも悪いところがあると思った」の24.2%と続いている。

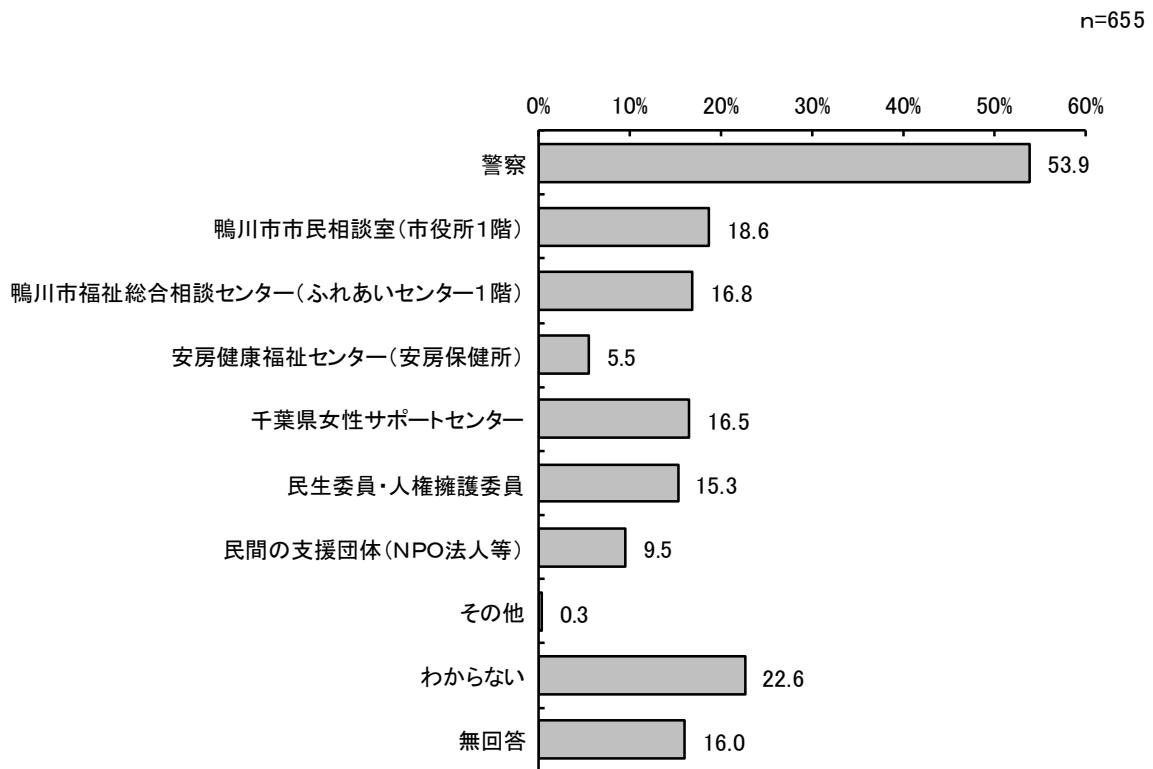


(4) 相談窓口の認知状況

問23 配偶者や恋人などパートナーからの暴力に関する相談窓口を知っていますか。(〇はあてはまるものすべて)

配偶者や恋人などパートナーからの暴力に関する相談窓口について、「警察」が53.9%と最も多く半数以上を占め、次いで「わからない」が22.6%となっている。

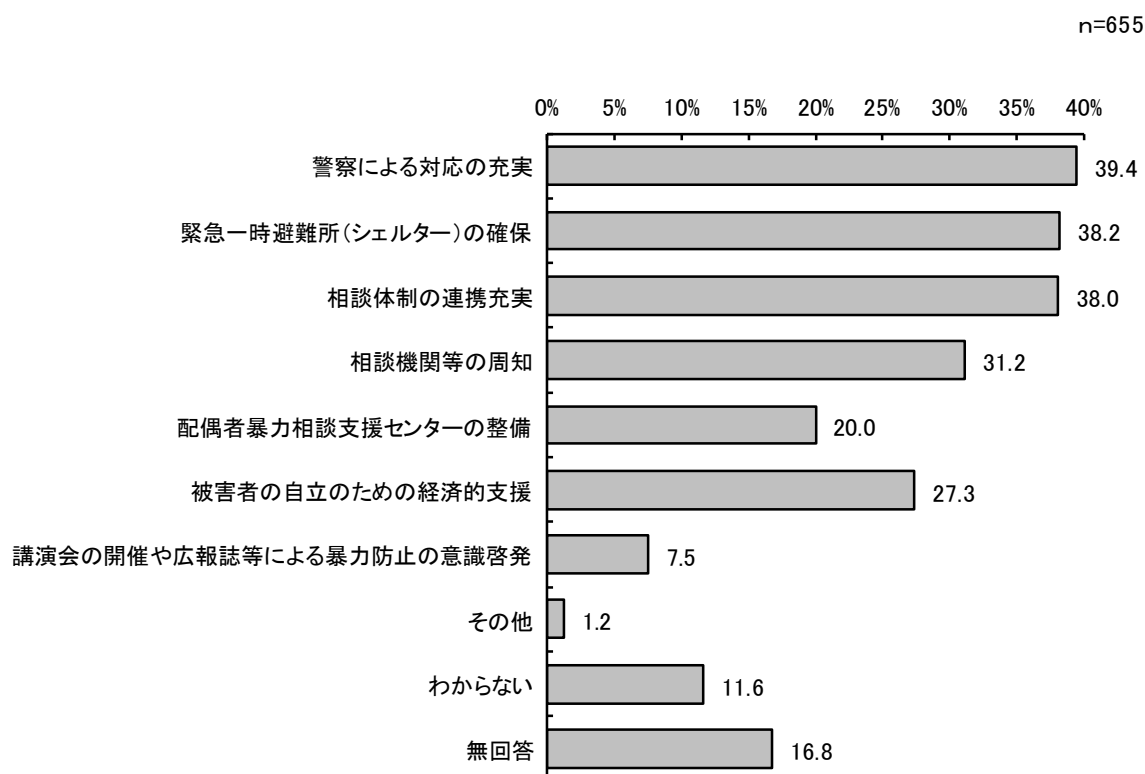
以下、「鴨川市市民相談室(市役所1階)」が18.6%、「鴨川市福祉総合相談センター」16.8%、「千葉県女性サポートセンター」16.5%、「民生委員・人権擁護委員」の15.3%と続いている。



(5) 暴力行為等に対する行政への希望

問24 配偶者や恋人などパートナーからの暴力について、今後行政に対してどのような対応を望みますか。(〇はあてはまるものすべて)

配偶者や恋人などパートナーからの暴力に対し、行政に望むこととして、「警察による対応の充実」が39.4%と最も多く、相談先の最も多い認知と一致している。次いで、「緊急一時避難所(シェルター)の確保」が38.2%、「相談体制の連携充実」38.0%、「相談機関等の周知」31.2%、「被害者の自立のための経済的支援」の27.3%が希望する主な行政対応として上位を占めている。



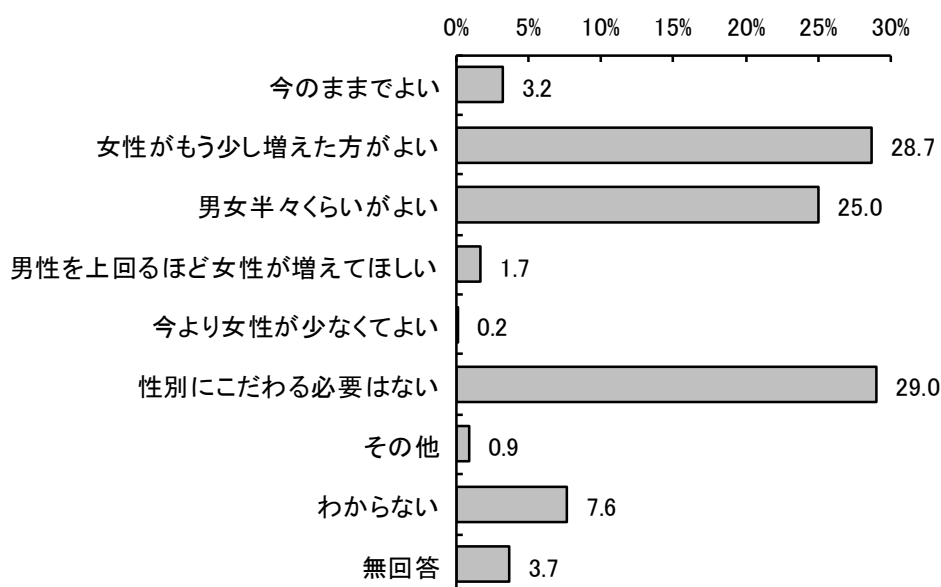
6. 政策決定の場における男女共同参画について

(1) 政策決定過程における女性参画について

問25 鴨川市では、平成31年4月1日現在、審議会等における女性委員の比率は20.4%です。今後の鴨川市における政策方針を決定する過程への女性の参画について、あなたはどのようになっていくことがよいと思いますか。(〇は1つ)

市における政策方針を決定する過程への女性の参画について、「性別にこだわる必要はない」が29.0%と最も多く、次いで「女性がもう少し増えた方がよい」が28.7%、「男女半々くらいがよい」の25.0%と続いている。

n=655



■比較データ：性・年齢別

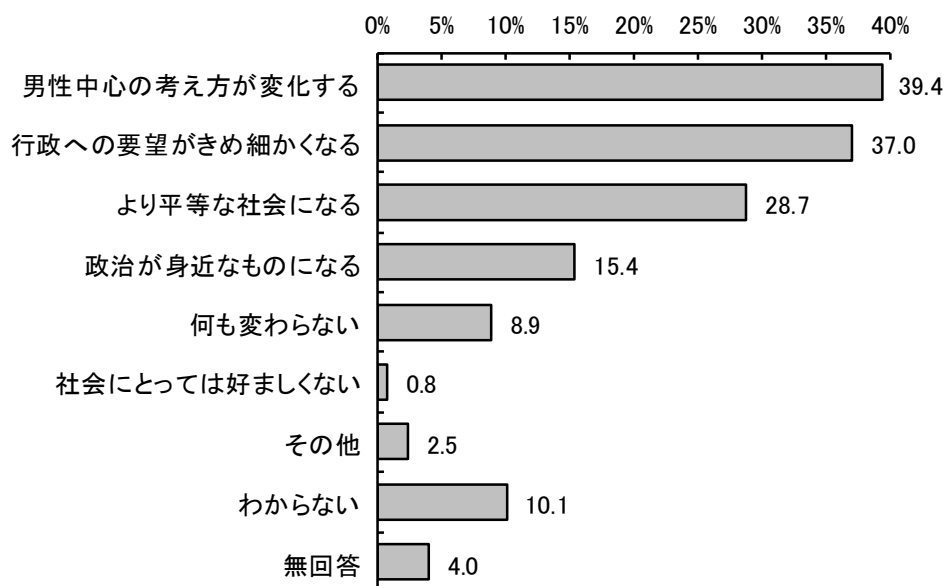
		合計	今のままでよい	女性がもう少し増えた方がよい	男女半々くらいがよい	男性を上回るほど女性がが増えてほしい	今より女性が少なくてよい	性別にこだわる必要はない	その他	わからない	無回答
全体		655	21	188	164	11	1	190	6	50	24
		100.0	3.2	28.7	25.0	1.7	0.2	29.0	0.9	7.6	3.7
性別	女性	366	11	104	91	7	0	110	2	28	13
	100.0	3.0	28.4	24.9	1.9	0.0	30.1	0.6	7.7	3.6	
男性		284	8	83	72	4	1	80	4	22	10
		100.0	2.8	29.2	25.4	1.4	0.4	28.2	1.4	7.8	3.5
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58	1	6	24	0	0	15	1	10	1
	100.0	1.7	10.4	41.4	0.0	0.0	25.9	1.7	17.3	1.7	
	女性 40～59歳	99	2	22	28	4	0	35	1	6	1
	100.0	2.0	22.2	28.3	4.1	0.0	35.4	1.0	6.1	1.0	
	女性 60歳以上	208	8	75	39	3	0	60	0	12	11
	100.0	3.9	36.1	18.8	1.5	0.0	28.9	0.0	5.8	5.3	
	男性 39歳以下	40	1	10	10	0	1	13	1	4	0
100.0	2.5	25.0	25.0	0.0	2.5	32.5	2.5	10.0	0.0		
男性 40～59歳	82	2	25	18	1	0	27	1	5	3	
100.0	2.4	30.5	22.0	1.2	0.0	32.9	1.2	6.1	3.7		
男性 60歳以上	162	5	48	44	3	0	40	2	13	7	
100.0	3.1	29.6	27.2	1.9	0.0	24.7	1.2	8.0	4.3		

(2) 政策決定過程における女性参画の社会的影響

問26 女性の議員や審議会委員が増加し、政策方針等を決定する過程への女性の参画が増えると、社会はどのように変わるとお考えですか。(〇は2つまで)

女性が政策方針を決定する過程への参画が増えた場合、社会への影響は「男性中心の考え方が変化する」が39.4%と最も多く、次いで「行政への要望がきめ細かくなる」の37.0%となり、この2つの回答が特に多くなっている。

n=655



■比較データ：性・年齢別

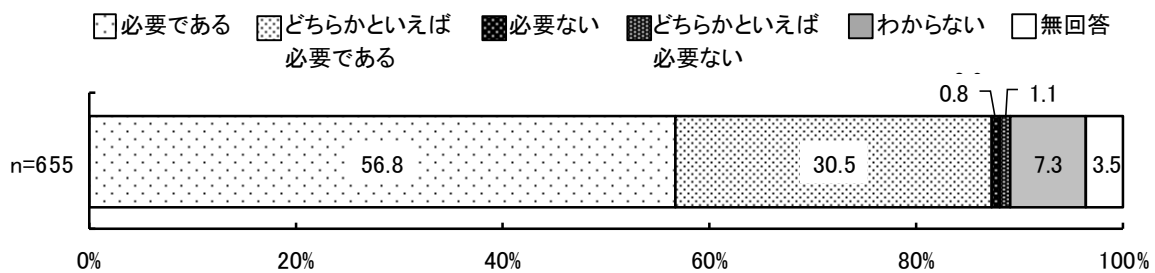
		合計	男性中心の考え方が変化する	行政への要望がきめ細かくなる	より平等な社会になる	政治が身近なものになる	何も変わらない	社会にとっては好ましくない	その他	わからない	無回答
全体		655	258	242	188	101	58	5	16	66	26
		100.0	39.4	37.0	28.7	15.4	8.9	0.8	2.5	10.1	4.0
性別	女性	366	142	145	104	64	28	0	10	37	17
		100.0	38.8	39.6	28.4	17.5	7.7	0.0	2.7	10.1	4.7
	男性	284	115	95	82	36	29	5	6	29	8
		100.0	40.5	33.5	28.9	12.7	10.2	1.8	2.1	10.2	2.8
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58	31	11	26	3	5	0	3	9	1
		100.0	53.5	19.0	44.8	5.2	8.6	0.0	5.2	15.5	1.7
	女性 40~59歳	99	32	35	27	13	15	0	7	13	1
		100.0	32.3	35.4	27.3	13.1	15.2	0.0	7.1	13.1	1.0
	女性 60歳以上	208	78	98	51	48	8	0	0	15	15
		100.0	37.5	47.1	24.5	23.1	3.9	0.0	0.0	7.2	7.2
	男性 39歳以下	40	19	11	15	1	5	1	3	2	0
	100.0	47.5	27.5	37.5	2.5	12.5	2.5	7.5	5.0	0.0	
男性 40~59歳	82	34	21	25	7	7	4	3	13	2	
	100.0	41.5	25.6	30.5	8.5	8.5	4.9	3.7	15.9	2.4	
男性 60歳以上	162	62	63	42	28	17	0	0	14	6	
	100.0	38.3	38.9	25.9	17.3	10.5	0.0	0.0	8.7	3.7	

7. 防災・災害対策について

(1) 防災・災害対策において女性に配慮した対応の必要性

問27 あなたは、防災・災害復興対策に、女性の視点に配慮した対応が必要だと思いますか。
(○は1つ)

防災・災害対策において、女性の視点に配慮した対応の必要性について「必要である」が56.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば必要である」の30.5%と合わせて87.3%を占め、多くの人が“必要である”としている。



■比較データ：性・年齢別

		合計	必要である	どちらかとい えば必要 である	必要ない	どちらかとい えば必要 ない	わからない	無回答
全体		655	372	200	5	7	48	23
		100.0	56.8	30.5	0.8	1.1	7.3	3.5
性別	女性	366	214	110	1	4	24	13
		100.0	58.5	30.1	0.3	1.1	6.6	3.6
男性		284	156	89	4	2	24	9
		100.0	54.9	31.3	1.4	0.7	8.5	3.2
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58	40	12	0	0	5	1
		100.0	69.0	20.7	0.0	0.0	8.6	1.7
	女性 40～59歳	99	59	32	0	1	6	1
		100.0	59.6	32.3	0.0	1.0	6.1	1.0
	女性 60歳以上	208	114	66	1	3	13	11
		100.0	54.8	31.7	0.5	1.5	6.3	5.3
	男性 39歳以下	40	24	11	2	0	3	0
	100.0	60.0	27.5	5.0	0.0	7.5	0.0	
男性 40～59歳	82	46	28	1	0	5	2	
	100.0	56.1	34.2	1.2	0.0	6.1	2.4	
男性 60歳以上	162	86	50	1	2	16	7	
	100.0	53.1	30.9	0.6	1.2	9.9	4.3	

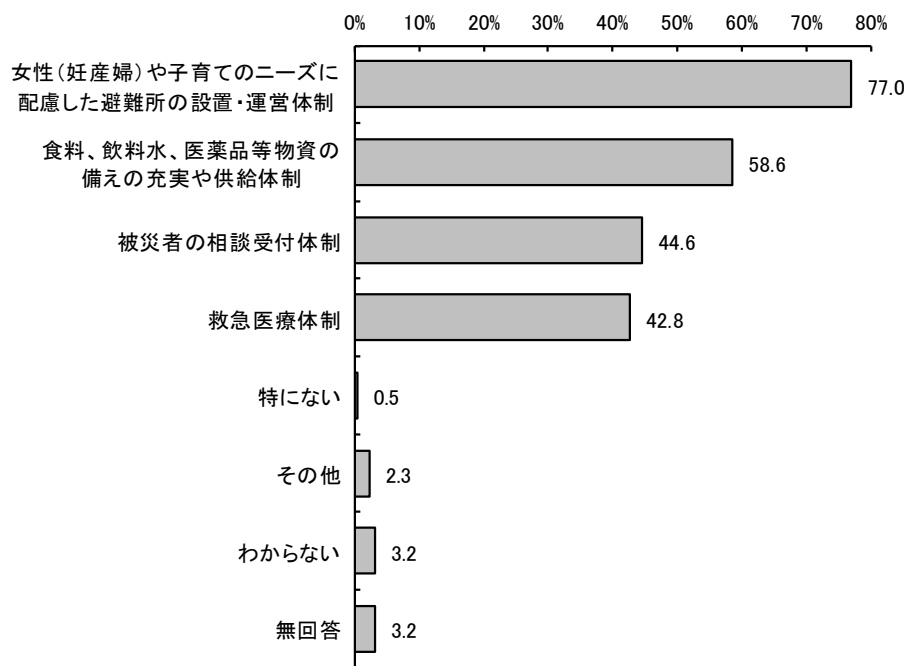
(2) 防災・災害対策における女性の視点での配慮が必要なこと

問28 防災・災害復興対策（災害発生時における避難場所での生活を想定）で女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。（〇はあてはまるものすべて）

防災・災害復興対策で、女性の視点に配慮して取り組む必要のあることは、「女性（妊産婦）や子育てのニーズに配慮した避難所の設置・運営体制」が77.0%と最も多く、次いで「食料、飲料水、医薬品等物資の備えの充実や供給体制」の58.6%となり、この2つの回答が特に多く、必要な取り組みとしてみられる。

一方、「特にない」が0.5%と少ないことから、女性の視点に配慮した取り組みの必要性があるものと認識されていることがわかる。

n=655



■比較データ：性・年齢別

		合計	女性(妊産婦)や子育てのニーズに配慮した避難所の設置・運営体制	食料、飲料水、医薬品等物資の備えの充実や供給体制	被災者の相談受付体制	救急医療体制	特にない	その他	わからない	無回答
全体		655	504	384	292	280	3	15	21	21
		100.0	77.0	58.6	44.6	42.8	0.5	2.3	3.2	3.2
性別	女性	366	283	228	174	167	1	10	7	12
		100.0	77.3	62.3	47.6	45.6	0.3	2.7	1.9	3.3
性別	男性	284	218	154	116	111	2	5	13	8
		100.0	76.8	54.2	40.9	39.1	0.7	1.8	4.6	2.8
性 / 年齢別	女性 39歳以下	58	56	33	22	27	0	2	1	0
		100.0	96.6	56.9	37.9	46.6	0.0	3.5	1.7	0.0
	女性 40～59歳	99	79	56	41	40	1	7	3	1
		100.0	79.8	56.6	41.4	40.4	1.0	7.1	3.0	1.0
	女性 60歳以上	208	147	138	110	100	0	1	3	11
		100.0	70.7	66.4	52.9	48.1	0.0	0.5	1.5	5.3
	男性 39歳以下	40	34	18	10	14	0	2	2	0
		100.0	85.0	45.0	25.0	35.0	0.0	5.0	5.0	0.0
男性 40～59歳	82	71	41	31	29	0	2	3	2	
	100.0	86.6	50.0	37.8	35.4	0.0	2.4	3.7	2.4	
男性 60歳以上	162	113	95	75	68	2	1	8	6	
	100.0	69.8	58.7	46.3	42.0	1.2	0.6	4.9	3.7	

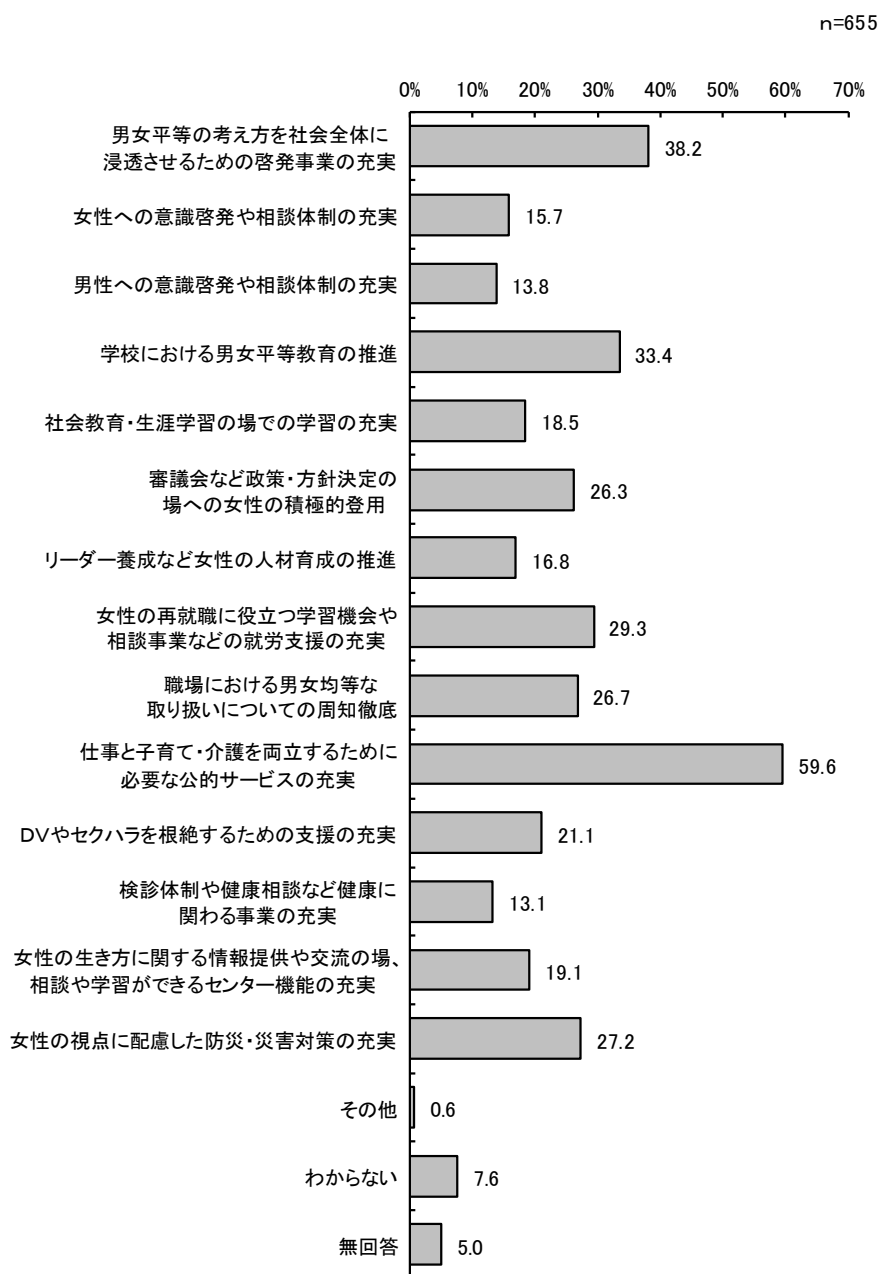
8. 市の取組について

(1) 男女共同参画社会の実現にむけて市が取り組むべきこと

問29 男女共同参画社会を実現していくために、今後鴨川市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

男女共同参画社会を実現していくために、今後、市が力を入れていくべきことは、「仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」が59.6%と他の項目より突出して多く、取り組みへの要望が顕著となっている。

次いで「男女平等の考え方を社会全体に浸透させるための啓発事業の充実」が38.2%、「学校における男女平等教育の推進」33.4%、「女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実」の29.3%が比較的高い割合で続いている。



■比較データ：性・年齢別

	合計	男女平等の考え方を社 会全体に浸透させるた めの啓発事業の充実	女性への意識啓発や相談体制の充実	男性への意識啓発や相談体制の充実	学校における男女平等教育の推進	社会教育・生涯学習の場での学習の充実	審議会など政策・方針決定の場への女性の積極的登用	リーダー養成など女性の人材育成の推進	女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就業支援の充実	職場における男女均等に 関する取組についての周知徹底	仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	DVやセクハラを根絶するための支援の充実	検診体制や健康相談など健康に関わる事業の充実	女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談や学習ができるセンター機能の充実	女性の視点に配慮した防災・災害対策の充実	その他	わからない	無回答
全体	655	250	103	90	219	121	172	110	192	175	390	138	86	125	178	4	50	33
性別	100.0	38.2	15.7	13.8	33.4	18.5	26.3	16.8	29.3	26.7	59.6	21.1	13.1	19.1	27.2	0.6	7.6	5.0
女性	366	132	55	41	117	71	92	59	111	90	237	64	52	78	107	0	22	16
男性	284	115	47	48	101	50	80	51	80	84	151	73	34	46	71	4	28	15
性/年齢別	100.0	40.5	16.6	16.9	35.6	17.6	28.2	18.0	28.2	29.6	53.2	25.7	12.0	16.2	25.0	1.4	9.9	5.3
女性 39歳以下	58	20	10	9	23	14	12	7	25	17	45	14	10	16	28	0	2	0
女性 40～59歳	99	28	8	10	27	20	19	15	28	25	62	16	8	20	22	0	10	3
女性 60歳以上	208	84	37	21	66	36	61	37	57	48	129	34	34	41	57	0	10	13
男性 39歳以下	40	16	9	9	16	9	11	9	12	17	25	13	4	12	11	2	3	0
男性 40～59歳	82	30	13	12	27	13	17	10	22	27	42	22	6	8	20	2	5	5
男性 60歳以上	162	69	25	27	58	28	52	32	46	40	84	38	24	26	40	0	20	10
	100.0	42.6	15.4	16.7	35.8	17.3	32.1	19.8	28.4	24.7	51.9	23.5	14.8	16.1	24.7	0.0	12.4	6.2

(2) 自由意見

問30 男女共同参画社会を実現していくまちづくりについて、ご意見・ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、何でも結構ですので自由に記入してください。

自由意見として110件の回答が寄せられ、このうち、男女共同参画に関わる109件の意見等がありました。

前回調査までは7分野に区分していましたが、近年における防災・災害対策への意識の高まりから、「防災・災害対策に関すること」を加えた8分野に区分しました。

1件の意見が複数の分野にわたる場合は、全体の傾向を勘案して区分してあります。

回答の中には、男女平等へ反対意見等がありますが、概ね誤解などに基づく考えや意見等であることから、男女共同参画の趣旨や内容がまだ浸透していない状況が伺えます。

この結果を踏まえ、今後とも男女共同参画計画の実施及び周知に努める必要があります。

■ 8分野に区分

分 野	意見 (件)
A 人権の尊重と社会意識の醸成に関すること	24
B 政策・方針決定過程への女性の参画に関すること	8
C 家庭や地域社会に関すること	5
D 就業環境に関すること	8
E 子育て及び介護・看護に関すること	8
F 防災・災害対策に関すること	6
G 男女共同参画全般に関すること	28
H その他市政全般に関すること	22
合 計	109

■ 主な意見等 (109件の意見等から抜粋し、以下に掲載)

A 人権の尊重と社会意識の醸成に関すること

性別	年齢	回 答
女	20代	特に中学校や高校での性教育や、相談室を充実させてほしいと思います。その年頃の子供は、自分のセクシュアリティや自立心を形成している過程にあるので、適正で十分な教育、相談できる環境がなければなりません。また、差別をなくし平等を目指すために、学校での活動や授業にも改善が必要だと思います。少なくとも、「男だから」「女だから」というような性差別的な発言をなくすよう教員に指導したり、性の多様性にオープンな環境をつくる努力をしたりしてほしいです。
女	30代	画一的・均等であること、平等であることはよく似ているが、実は異なると思います。性別にかかわらず、皆が他者を尊重することが大切であり、ことさらに「女性の管理職や委員を増やそう」という方針を継続するのは、かえって歪みというか、まず男女平等あつての共同参画なのではないでしょうか。息の長い啓発、意識改革が必要と考えます。
女	30代	戦前から戦後を生きてきた祖母達に話を聞くと、やや男性が優遇されていると感じます。地方において、閉鎖的な人間関係が起因しているものもあると思いますが、比較的高齢の方々には、男女平等は難しいことだと思っています。若年層の方もそうですが、高齢の方々の根付いている意識の改革も必要だと思います。
女	40代	近年女性の方が強くなってきている事が多い。でも、まだ女性を下に見ている男性の方はいる。考え方を少し変えるだけで変わっていく気がする。それぞれの役割を決め、やっていく事が大事。

女	40代	男女の体力の差等、根本的な差は否めないで、完全な男女平等は無いと思っている。年配の方、特に男性は、昔ながらの考えを持っている人が多いと感じている。家事は女の仕事！だと思って何も手伝ってくれない。
女	40代	男女の壁は生活や文化の中に巧妙に組み込まれてしまっていて、なかなか気付けないこともあると思う。テレビ番組でもマンガや本でもいいし、大学の授業とか一般向けシンポジウムとかで啓発されて問題意識を持てると精神面から壁を取り払っていけると思う。男女共同参画を推進して自由を感じられる市になるといいと思う。
女	50代	地方都市では実現するのに難しい問題だと思います。学校教育の場から少しずつ積み上げることが一番だと思います。教育は国家百年の計、一歩ずつだと思います。教育を通して男女が活躍できる市第1号を目指していただきたいです。
女	50代	以前のことですが、子どもの小学校で女性がPTA会長にたってくださった時、地域のおじさん達の偏見が続いた。現代の社会で恥ずかしいことであるが、田舎の地域ほど偏った考え方が強く、仕事をしづらいことが多い。昔から地域に続く慣習や風習、それに伴う近所のお年寄り達の考え方が古く、今の時代に合ったものではなく、働く女性の妨げになっている。改革も必要。
女	50代	おもしろいアンケートです。鴨川はまだまだ田舎で、男性中心で・・・と思っていましたが、同僚たちのもとで田舎の地区の話の聞くと、鴨川は前進しているのかも・・・と思うこともあります。25年前に働きながら子供を保育園に預けていた時に「子供がかわいそうに」と言われ続けたことがずっと心に残っています。でも子供たちはかわいそうではないし、立派に成人し子供を産み、保育園に預け人生を楽しんでいます。
女	60代	性差を認めたくて人間として平等と考えている。女性もプライドを持って自分の人生を考えていく事が大事。女性が女性の足を引っ張らない様に、子供の頃からの教育が必要だと思う。
女	70歳以上	第一には教育が大切かと考えます。社会に出てからも必然的に役に立つと思います。私の経験としては、勤務先の社長が男・女というよりも仕事を優先に考える方で、女である私も差別なく平等に見て下さり、管理職として定年迄充実した勤務でした。定年後、東京から鴨川市へ移住してきて最初に感じたのは、男は・女は・あっちの人・こっちの人と区別すること、されることでした。発言権がないというか、発言すると又区別されてしまうのです。やはり教育にあります。
女	70歳以上	私の周りの地域では、未だに「女だてらに」「おなごのくせに」「女・子どもは口を出すな」等の言葉が特に年輩の方からです。これから若い方には、男女共同の社会づくりをしてくれるよう意識改革をする。いろいろな支援場を作って欲しいと思います。
男	30代	鴨川市は、過疎化が進行しつつある千葉県の地方都市ということもあり、良くも悪くも昔ながらの古い慣習やしきたりが多いように感じる。その中でも、男女の一方的な役割の固定化が都市部よりも進んでいるように思う。もっと女性が活躍できるように多くの施策を推進するべきだと思う。男性は女性よりも先に死んでしまうのだから。
男	40代	男女に関係なく、強い人間は強く、弱い人間は弱い。権利を主張するのも結構だが、個人がたくましくあるべき。フェミニズムには疑問もあるが、不当な制度や慣習で女性の権利が侵害される社会は絶対に不健全である。弱者を救済するセーフティネットは不可欠で、もっと改善されるべき。
男	40代	男性には男性の良いところ、女性には女性の良いところ、尊重しあえばよいと思う。性の事等、無理に塞げば犯罪が増える等、後々問題が出ると思う。女性、男性と分けるからこのような問題になる。個人個人としてみた結果、男性が優遇された世の中になったかもしれない。制度の充実等、行政は受け口を広くして、結果にこだわらず進めてもらいたい。

男	60代	「男のバカ・女の利口で対等」といったことが昔から現在も尚続いている。これを変えるのは男への意識の改革が前提。地道に何回も繰り返して洗脳させても分からない者は多数。社会全体で女性のリーダーを育成させ引っぱって行く事が大事。
男	70歳以上	この問題は、一人ひとりの人達が自覚を持つことが基本であると思うが、一番難しいこと。共同参画を充実させることで、子供への虐待問題も少なくなると思うし、児童相談所の職務怠慢を反省して欲しい。※もう少し権限をもって欲しい。
男	70歳以上	小中学校時代にホームルーム、自由発表の形で男女平等について発言、発表をさせる。そうすれば、社会人に成長した時、この問題に直面しても対応出来るであろう。学校任せではなく、教育や勉強を早く教えることじゃないでしょうか！
男	70歳以上	本アンケートでは、「鴨川市は男女共同参画社会ではない」との前提と思われる。もし男女平等でない事実があるとなれば、1件ごとに具体的に対策をすべきである。プライバシーの問題もあるが、可能な限りオープンにして対応すべきである。差別の問題は男女は序の口、年齢差、国籍、人種、宗教と広範囲、鴨川市の問題ではないと思います。
その他	20代	法律上では男女平等に近づいていると思いますが、昔からの考え方は根強く残っている気がします。性別に関わらず、“個”として一人ひとりの存在が認められる社会になると良いなと思っています。

B 政策・方針決定過程への女性の参画に関すること

性別	年齢	回答
女	60代	女性議員の増加は急務。子どもの数が少ないのに、乳幼児の保育が不十分と聞きます。早急に改善して欲しい。
女	60代	コロナ禍のため、心は沈みがちですが、こんな時こそ女性の意見をとり入れられる環境が必要だと思います。
女	70歳以上	男女平等を議論することも大事だと思うが、それぞれの場、あるいは組織の中で、個々の持つ能力を見いだして活用、登用出来るかの視点があるかどうかとを感じる。
男	40代	審議会等に参加する委員は、男でも女でも高齢者では考えがなく意味がない。参画させ、意見交換等を充実させるには、若く学識ある男女を選定しないと女性の割合を高めても何の意味もない。幹部は、若い部下の意見をよく聴き、良いものは取り入れることが大切と思われまます。
男	50代	今よりももっと広く女性の意見を発信することのできるシステムが必要だと思う。
男	60代	政治家に女性が増えるとよい。半数以上。
男	60代	市のリーダー、役員、議員等、50%半々で男女を登用すべき、例えば市長が男性であれば、副市長の1名は女性を登用。校長が男性であれば教頭は女性。常に長と副に男女又は女男の意識を持つこと。男は一生仕事の意識は捨て、半生は自分らしく生きる道を見つめるべきだと思います。
男	70歳以上	近年の女性の進出は一昔前と比べると、かなり大きくなっていると思う。良い事だと思うので、つみ取ったり、邪魔をしたりせず、女性が更に腕をふるえる鴨川市にしてほしい。

C 家庭や地域社会に関すること

性別	年齢	回答
女	50代	母子家庭の頃は身近な地域活動に参加したり会費を納めたりするのができないでいました。会費のいらぬ公民館活動や地域行事に参加できると良いです。他町で参加して楽しく子供と過ごせました。鴨川での祭の祝儀は高いです。無しにして、誰がいくら寄付したかわからないようにした方が差別がなくなります。温かい心をもらって温かい人になると思います。

男	30代	男女共同参画社会って、働けという事ですか。専業主婦（夫）の仕事は、家庭の安定から地域貢献まで多岐にわたります。専業主婦（夫）の減少が地域社会の希薄につながっている。地域、家庭を守る事が社会に参画していないと言われるのはあきらかにおかしいです。
男	40代	現在、病院での勤務ですが、職場での男女不平等を感じることはありません。女性であることが仕事の障害になっているとは思いません。むしろ、男性である立場で、家庭への時間について言いにくい環境にあります。ネットやテレビを見ていると、あまりに育児や家事で男性の協力が得られない話があふれています。何をすれば足りるのかわからなくなることがあります。父親の立場が弱くなっています。
男	60代	男女とも家庭生活の上で、積極的に行動していくことが必要。男だからできない、女には無理などほとんどありません。互いに補いつつ生活をする事、家庭を盛り立てていくことが大切。足りないことはカバーすること、相手を大切にすることとは・・・根本だと思います。難しいことはわかりませんが、大事な事、単純なことではないでしょうか。
男	70歳以上	鴨川市の公民館活動を見ていると、女性の活躍が目立っているように思う。もっと男性が活躍すべきだと思う。

D 職場環境に関すること

性別	年齢	回答
女	70歳以上	女性ばかりの職場では、産休・育休を次々取られると残っている職員が大変です。せめて育休は男性に取ってもらいたいな一と思った時がありました。(育休が取れる様なだんなさんの場合は・・・)
男	30代	職場における男女均等な取扱いについての周知徹底は、各種会社の代表責任者への研修？講習を開催した上で、半強制的に要請しないと何も変わらないと思います。
男	40代	育児休暇を取った直近の会社で、男性スタッフが休みを取ったら、他の女性スタッフが悪く言っていた。男女共同参画社会の目指す先の未来が知りたいです。その先に何がありますか？そこを明確にしなければ、誤解が問題を呼ぶだけです。
男	50代	男女共同参画は大いに推進すべきであるが、女性管理職の数を無理に増やそうとする風潮には反対です。能力主義で判断すべき。女性社員が退職したくてもやめさせてもらえず大変。このような逆差別が起きないような仕組み作りが大切。労働人口を増やすための共同参画だが、結婚したら働きたくない女性も一定数いますので、一律に論じるのはいかなものかと思います。
男	50代	社会でも男女平等とはされているが、業務上は女性に対し過度のサポートをし、成立させている部分は多いかと思います。つまりは、それ（サポート）にあぐらをかいている女性の方が多いのではないのでしょうか？会社の研修でも「男性が女性目線を持ちサポートせよ」と女性コンサルタントがよく言いますが、男性のみならず女性の意識改革も大いに必要かと思います。
男	60代	女性特有のきめ細かな部分を業務に役立て、能力主義においてどんどん役所の管理職に登用していくべきです。
男	70歳以上	前から比べれば、大企業や公務員等ではだいぶ改善されたと思いますが、地方都市や小さい市町村での小さい企業体では、今一つと思われまます。また、高齢者の介護施設等もだいぶ充実してきたと思いますが、今一つ進歩させていただければと思います。
不明	70歳以上	女性も金銭面で男性と同じ位働いたならみてあげてくれる世でありたい。この先、女性も手に職を持つことを。

E 子育て及び介護・看護に関すること

性別	年齢	回 答
女	30代	亀田病院の職員ですが、oursbabyはとても良い保育園だと思います。子育てしながら仕事も安心してできています。
女	40代	長い年月を経て、いくら男女共同参画社会をめざしても、結局子供にとって母親ってとても重要で、女性がキャリアを積もうとすればするほど、子供にそのしわ寄せがいつてしまうと感ずます。働きやすいとか、預かってくれるところの整備をするとかも大事ですが、子供育てるときにできるだけ子供といられるための経済的支援制度がさらに充実することを希望します。
女	50代	多様な働き方や価値観を認め、家族以外のサポートがいつでも受けられる環境であれば、女性も安心して子供を生み、育てながら仕事にも意欲的に取りくめるのではないかと思います。
女	60代	仕事と子育て、介護を両立するための公的サービスは必要ですが、そのサービスにたずさわる保育士、介護士などの支援員不足が気になります。
女	70歳以上	女性が社会へ進出するために育児出産子育てに多くの介助が必要だと思います。
女	70歳以上	今の若い人達は幸せだと思います。子供を育てるのも2人で分担してやれるし。昔の人は、子育ては女が一人で育てていたように思います。テレビで子供の虐待のニュースを見ると悲しくなります。
男	50代	安心して子育てできる社会の構築。
男	70歳以上	子育ての真っ只中の家庭への援助をもっと充実させる事(特に一人親の家庭)、保育園や学童保育の充実、保育料等経済的な面も負担が軽くなるように社会全体で子供を育てる事が一番大事だと思う。

F 防災・災害対策に関すること

性別	年齢	回 答
女	30代	男女では体のつくりが違っているので、全てを平等にすることは難しいと思う。近年災害が増加しており、避難所に行くことも今後増えると考え、女性に配慮した対策が必要であると思う。
女	60代	防災、避難所などは、絶対に女性の目・考えが必要。男女関係なくそれぞれ個人の特技、得意分野をいかせるように、分野を細かくして人材を募集(ボランティア・相談・話し合い)していただきたい。
女	70歳以上	問29の14番(女性の視点に配慮した防災・災害対策の充実)について いろいろ有難うございました。
男	40代	被災された若い女性がセクハラ、パワハラ受けるのを報道で見て悲しい。鴨川市では、あつてはならないことです。
男	40代	問28(防災・災害復興対策)について 昨年の災害時に2才の子の飲食に苦労しました。友人の奥様は母乳で子育て中に災害に遭い、乳は出ないし、ミルクが手に入らないとかなり苦労したと聞きました。災害物資の内容を見直してほしい。
男	60代	災害時に食事等をだすと思うが、女性がした方が良いのではないかと。

G 男女共同参画全般に関すること

性別	年齢	回答
女	40代	私は独身です。たぶんこの先結婚もしないと思います。今は仕事が楽しいし、やりがいがあります。数年前までの自分では考えられない感じですが、でも仕事して思うのが、男の人には勝てないのかなと思っています。経済面はもちろんだし、都会と違って田舎は難しいです。
女	40代	男性・女性 脳や体力などさまざまな違いがあります。環境によって、求められている仕事の内容等によっては、ありえる社会作りだと思います。全てにおいて、実現するのは難しいかと思っています。少子高齢化の対策にも力を入れていかなければならないと思います。全体的なバランスを保てる社会作りをお願いいたします。
女	40代	そもそも、男女という言葉自体にイライラする。同じ人間なんだから、わかる必要がない。みんなで何かを決める時に、男だ女だ言わずに一緒にワンチームになってやる必要がある。
女	50代	まちづくりに女性が参画していくことも意味はあると思いますが、女性だから女性の意見、男性だから男性の意見ということではなく、女性も男女どちら側での立場で、男性も男女どちら側での立場で、お互いを思いやるといふか、自分の性がどちらだとしても、どちらの事も配慮できるようなまちづくりになっていくのが理想だなと感じました。女性がいないと、女性の居心地の良いまちができないということになるのは、さみしい事かなと、個人的にはそう思います。
女	50代	定期健康診断時にこれらの取組に関するセミナーに参加したら、健康診断を割り引く、鴨川プレミアム商品券を買える、その条件として啓蒙活動をしないと、聞いてほしい人々に伝えることはできないと思います。男女共同を一番知ってほしい人々にどうしたら伝えられるか、考えたほうがよい。
女	60代	高齢者においては女性の方がまわりと交流がある。男性は仕事を中心として生活している方が多く、退職後は孤立してしまう人が多い。男女という意識をなくし、仕事、家庭、地域にバランス良く参加できる社会になると良いと思う。
女	60代	男女共同参画社会のイメージがわかりません。市として何を求めるかで方針が決まると思う。ただ女性の教育レベルをあげて、社会的にも性差をなくして対等で働けるようになるのが良いと思う。家庭でも社会、会社などでも同等になる必要があるので、考え方を変えていく必要がある。
女	60代	私自身は、鴨川市が男女不平等社会として大きな問題を抱えているとはとらえていません。だから、今のままでいいという訳ではありませんが。男女不平等ではなく、別の何かの不平等と思えることが気になります。権力や立場で物事が動いたり、就職や人事も左右されたり、多くの場で見聞きします。そうした意味での平等社会こそ、人はやる気をもって前向きな考え方、生き方ができるのではないかと。
女	60代	「男女共同参画社会」のネーミング自体変えた方がよいのでは？もっとわかりやすく、性差が出ない名前にした方がよいと思う。男性でなくてはできないこと、女性しかできないこと、性別で悩んでいる人のこと、人間は一人ひとりだから一人ひとりで考えて行動していける社会、その個人の人生の充実を目指して行けるようになればよいと思う。自分のことも大事だが、周りの人も見られる（認める）社会になってほしいと思います。
女	60代	社会は人間がつくるものです。企業の求める生産性や効率性を重視するあまり人間の生活が安心できるものになってきています。性別に関係なく、生きていくことが楽しく安心できる世の中になるようにしたいと考えています。雇用の安定・健康への安心・高齢生活の明るい見通しのもてる世の中を望みます。

女	60代	これからの人口の動向をみていくと、15才～65才の生涯年齢は少なくなる。男女を問わず生産活動をしていかないといけないと思う。鴨川市でいえば、働く場を考えていかないといけない。また、広報活動として女性の意識を変えていくこと。周りの性別役割意識の変容も必要だと思う。今、男女とはっきり区別するのではなく、個性特性にあった生き方が大切になってきていると思う。どんな立場の人でも活躍、働くことのできる社会をめざしてほしい。その中でまず、女性の社会進出を考えていくことは大切だと思います。よろしくお願いします。
女	70歳以上	個人が自分の力で責任を持って行動する。形にだけとられない。自らが興味を持って事に当たる。無理なボランティア活動をさせられるより、自分らしく行動のできる活動をしたい。
男	30代	男女平等は大切なことだが、女性を全面的に男性と同じような活躍をさせるには、女性自身が本当に望んでいる事かをもっと考える必要があると思う。公私ともに男性にリードされたり、指示や考え方を求める女性が多く、現代の男性主義の社会を望んでいる女性も一定数いると感じるため。
男	40代	質問内容全体に男女差別している表現になっていることが気になる。また、男女平等ということ、どのようなことが否定されているのかわからない。社会は女性専用というものが増えている。それが平等とはなっていないのが疑問がある。男女平等にしたいと思っている方々に、そのように実行してほしいと思う。
男	40代	男性女性いずれかを優遇しすぎると、それは逆差別になる。(女性専用車両など) しかし、肉体労働は男に向いているはずで、助産師や産婦人科医は女性の方が良いであろう。男性女性としてではなく、個々で判断すべきことも多い。(管理職など)
男	50代	正直、男性しかできない事、女性にしかできない事は別として、多方面に男女問わず進出していけば良いと思う。それぞれのおかれている立場での協力と理解があった上での事。
男	60代	女性の社会進出は男女平等、機会均等の視点から推進していくべき課題であるとともに、少子高齢化に伴う労働力確保という視点からも極めて重要であると考えている。ただそのためには、働き過ぎだったり残業が当たり前だったりする今の社会構造を抜本的に変えないと無理なような気がする。また、性差の特徴を生かした共同参画が大切であり、すべて男女が等しく分担するという考え方は現実的ではないのではないか。
男	60代	私には、男女が平等である必要はないと思っている。平等であれば、女性の責任、負担が増えるだけである。無理に平等にしようとする意図が理解できない。
男	70歳以上	民主主義というのは、寛容性のある、相手の立場に立ってものを考えられる自立した個人の集まりの中でしか成り立たないのではないかと。男女共同参画も確かにこれだが、働き方のアンバランス、貧富格差、お金が高度教育を受けさせるなど民主主義の根本に不安を覚える。
男	70歳以上	方針の実現に対して、過度になるとバランスが崩れると思う。過度にならないように。
男	70歳以上	殊に女性の地位向上の為に、精神的自立教育と経済的自立が相互にバランス良く携わる必要が有りますので、女性は手に職を持つ必要が有ると思います。その為、社会での女性の受入を調える制度の浸透が不可欠ですので、法制度の精神に基づく世の中の仕組み作りに少しでも協力したいと思います。
男	70歳以上	男女平等と言うが仕事をこなして行くには、女性は仕事上でも未来を向いて仕事をしている人は少ないと思います。多くの女性は結婚迄というのが一般的ではないでしょうか。

H その他市政全般に関すること

性別	年齢	回 答
女	20代	鴨川で生まれ育ち、一度は離れましたが、また生活しています。この町が大好きです。大きく変わることは望みませんが、より良い町になっていけばいいなあとは思っております。良い案は特にありません。
女	50代	今の社会は、65歳まで働き、それ以降は年金をもらう関係で半日しか働く事が出来ない、若しくは社会保険に加入できない、男性などは60歳で定年になる。事故やけがなく普通に働ける人は、そのまま継続してほしい。働きたくても働けない事実がある。年金受給年齢も上がってきているので、社会の方も変えていってほしい。
女	60代	市民の意見を、聞き実行するまでのプロセスなども、細かく市民に知らせて欲しい。上に立つ人の意見だけで却下されるのは、今の時代に合わない。皆が自由にものを言える環境作り、プライバシーの問題もあるが、何でも隠すのではなく、市民に知らせる義務もあると思う。例えば、市議会議員は日々どんな仕事をしているのか、市民の声を聞いて、市のため、市民のため、どういう活動をしているか知りたい。選挙の時だけ頭を下げている人も中にはいるのではないのでしょうか。
女	60代	男女共同参画社会実現の為の町作りについて・・・ですが、どうして鴨川市はいまだに人口が増えないのでしょうか？若い人が働いて食べていける職場がない、大きな企業がない、若い人達が地元にもどってきても生活できない。なんとか若い人達が鴨川で生活していけるよう努力をお願いします。
女	70歳以上	鴨川市に住んでいる職員、議員様達へ もう少し街々のすみっこまで目を向けていただきたいなー。
女	70歳以上	男女共同参画社会の実現を目指すには、働く場所があってこそだと思う。そうすることで、鴨川市の発展にもつながる事でしょう。
男	30代	女性の働く場所の確保は絶対なので、鴨川市における今の企業の呼び込みは良い事だと思う。
男	40代	性的相違があることを前提としつつ、配慮をもったまちづくりを望む。
男	40代	途中でやめました。何の意味があるのですか？このアンケート！お役人の暇つぶしですか！他にやる事があるでしょう！お役人様！税金の無駄遣いするな。
男	40代	鴨川はアパート代が高く、生活基準が負担になっている為、町づくりの際に、地域的にも▲1万円はダウンが良いと思う。まわりの館山・勝浦と比べても高い。
男	40代	参政権は障害レベルに合わせた知能とテストをパスした者にのみ与えるべき。
男	40代	市政が市の現状に追いついていない感じがする。市政がポピュリズムになることなく、市民に市政の覚悟と理解をしてもらう必要が大切である。そのための啓蒙、教育を通じて市民に選択させるべきである。縮小が市民の意思なら、そのように市政の舵を切るべきで、より市民を鴨川市の未来へ参加させ、当事者意識、若い者のために何を残すのか考えて決めさせることだと考える。
男	50代	基本的には個人個人の考え方が尊重されるべきと思いますが、社会的な弱者への考え方や行政サービスは、きめ細かく安心できる町である事が「望ましい」と考えます。
男	50代	人口が減るだけの鴨川になっている。
男	60代	本件に限らず、さまざまな分野で、他の自治体に比べ、本市は行動力に乏しく、取り組んだことの達成度も低いと感じています。
男	60代	鴨川市は、男女共同参画社会の考えを持っている人々が、他県、他市に流出してしまう。その所を根本的に直さなければ、いつまでたっても現状のままだと思います。それには、確かな収入の安定や教養を養う事と思います。

Ⅳ 調査結果からの課題

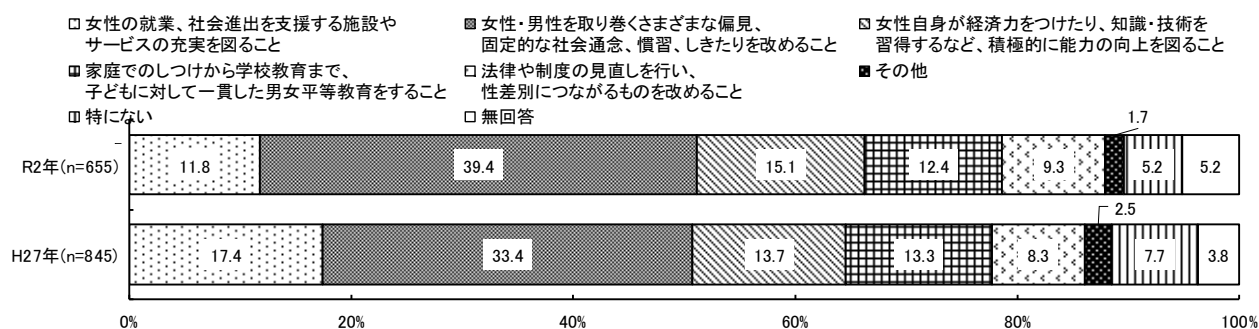
課題1 男女平等と人権の意識づくり（男女共同参画社会の実現に向けて）

男女の平等感の調査について、社会における様々な場面では、男性が優遇されている場面が多く、「社会通念、慣習、しきたりなどで」や「政治の場で」、「社会全体として」が多い。

このような状況に対し、男女平等の実現に必要なこととして「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も多く、打破を求める結果となっている。

【前回調査結果から】

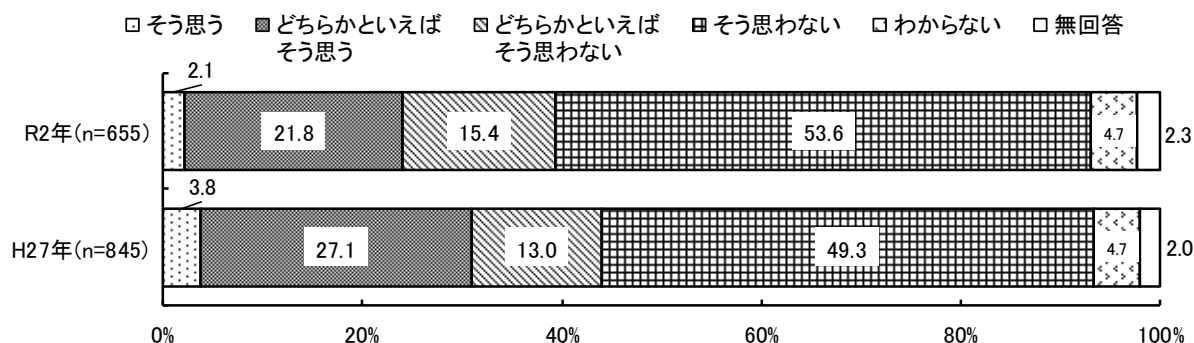
前回調査（平成 27 年）と比べ、男女平等の実現に必要なことの順位はほとんど変わらないが、最も多い「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が今回の調査で特に大きくなっている。



性別による役割分担の意識から「男は仕事、女は家庭」との考えについて、「そう思わない」が約半数を超えているが、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の肯定的意見が約2割と根強く顕在している。引き続き、社会制度、慣行意識・知識等の啓発を図ることで、男女平等の意識を深める必要がある。

【前回調査結果から】

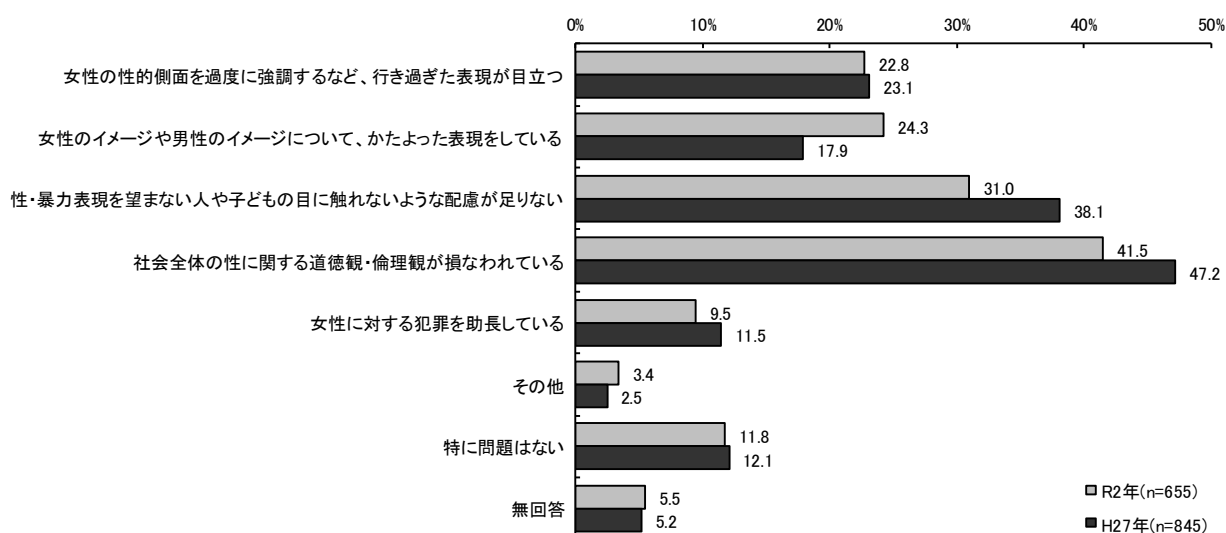
前回までの調査と比べると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」が減少傾向となり、「そう思わない」とする回答が増加を示しており、「男は仕事、女は家庭」との役割分担の意識が低下していることが伺える。



また、メディアにおける女性の人権尊重に配慮することも重要であり、調査から「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」とする人がほぼ半数を占めており、「女性の性の商品化」や「女性に対する暴力を助長する表現」等の防止の取組が意識づくりに必要となっている。

【前回調査結果から】

前回調査のメディアに対する配慮は、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が最も多く、今回の調査の回答とほぼ一致していることが伺える。



課題2 家庭・子育て・介護における固定的性別役割分業意識の是正

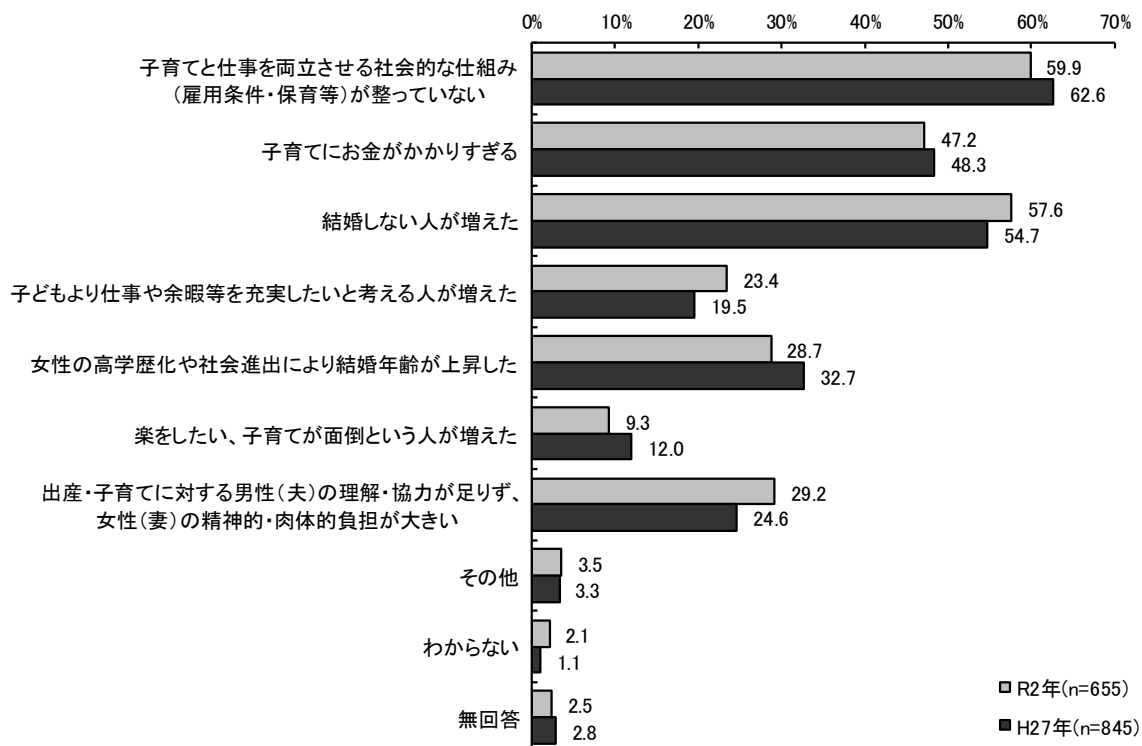
家庭での役割意識をみると、基本的に「主に妻（女性）」との回答が多くなっており、配偶者又はパートナーに分担して欲しい家庭の仕事として、全体では「掃除」、「食事の後片付け、食器洗い」、「食事の支度」、「洗濯」等が上位にあげられ、家庭生活において男女共同参画が求められている。女性が仕事を持つことが常識となってきている社会情勢において、特に男性の自立を促す意識改革と家事能力の向上を図ることが重要となっている。

家庭生活における男女参画が求められる一方、結婚観については概ね結婚した方がよく、結婚したら子どもを持つほうがよいとの意見が占められているとともに、出生率の低下原因を考えたとき、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」、「結婚しない人が増えた」、「子育てにお金がかかりすぎる」等の意見が多く、結婚及び子育てしやすい環境づくりを整えることが必要となっている。

【前回調査結果から】

出生率の低下原因に関して、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」、「結婚しない人が増えた」、「子育てにお金がかかりすぎる」の3項目が、前回調査と同様に上位を占めている。

一方、「出産・子育てに対する男性（夫）の理解・協力が足りず、女性（妻）の精神的・肉体的負担が大きい」の増加率が前回に比べて高くなっており、「男は仕事、女は家庭」の役割意識の低下は進んでいるものの、行動として反映されていない実態が伺える。



課題3 学校教育における男女平等教育

学校教育の場で男女平等意識を深めるのに大切なことは、「男女にかかわりなく、児童・生徒の個性や能力に応じた生徒指導、進路指導を行うこと」が最も多く、「学校生活全般において男女平等についての意識を高めること」、「互いの性を尊重しあうことや子どもを生み育てることの大切さを教えること」、「家庭科などを通じて、男女共に家庭生活に必要な知識・技術を教えること」が半数近くを占めており、ジェンダー意識を醸成させる男女平等教育の推進が求められている。

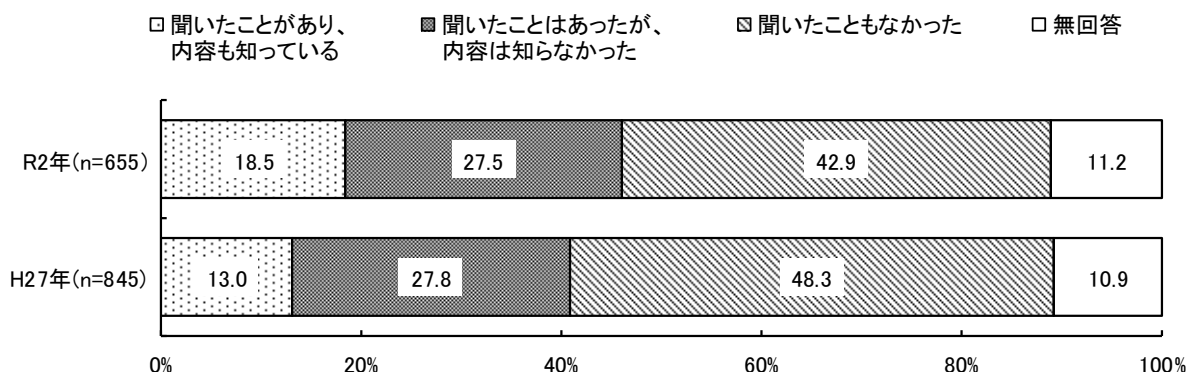
課題4 就労及びワーク・ライフ・バランスについて

女性が働き続けるために必要なことは、「保育所・介護施設の充実及び学童保育などのサポート体制の充実」が最も多く、次いで「結婚、出産、育児、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実」、「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及」、「女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力」、「育児休業・介護休業中の賃金等の充実」、「企業において昇進・賃金等の男女間格差の解消」、「男性の家事分担など固定的な性別役割意識の改革」などが40%以上で続いており、多岐にわたる要望がみられる。

男女ともに仕事を充実させたい一方で、家庭や地域活動など仕事以外の生活を大切にしたいとする「ワーク・ライフ・バランス」の考え方を持つ人が増えているが、まだ「ワーク・ライフ・バランス」について、聞いたこともない人も多い。

【前回調査結果から】

前回調査から「ワーク・ライフ・バランス」の認知度が増加していることを踏まえ、今後とも社会制度の充実や職場環境の見直しなどを含めた周知を図り、認知を高めることが必要である。

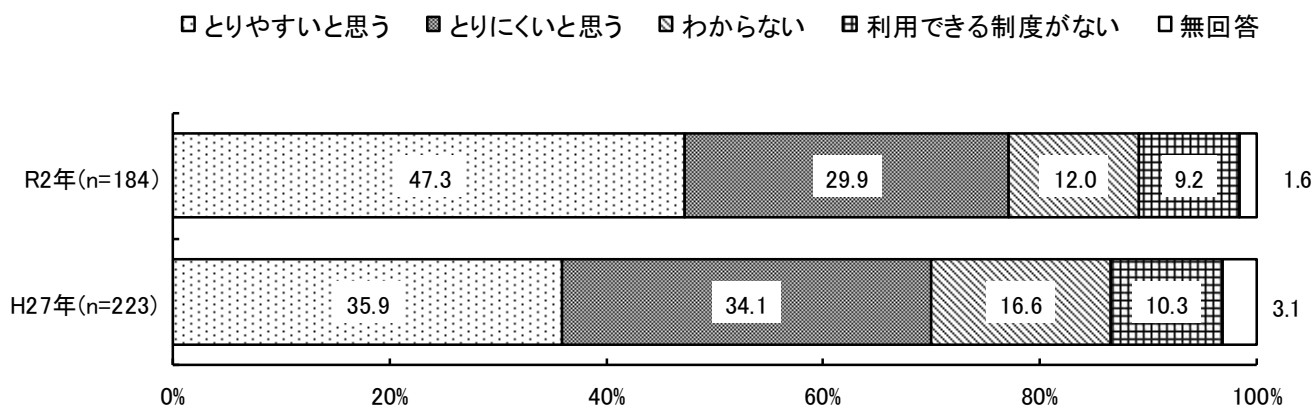


職場における環境としては、介護休業は「とりにくいと思う」が「とりやすいと思う」を上回り、育児休業は「とりやすいと思う」が「とりにくいと思う」を上回っている。

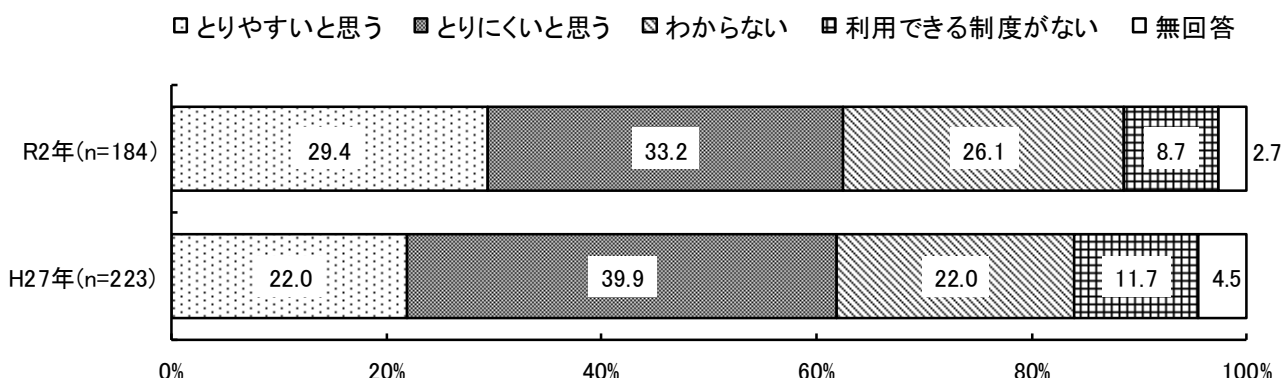
男性が育児休業・介護休業をとらない理由として、「職場での理解が得られないと思うから」、「女性がとるものだという意識が強いから」、「収入が減るから」、「取得後の職場復帰へ不安があるから」とあり、職場における男女共同参画を図ることが求められているため、事業所への意識改革の啓発・関係機関との連携推進により、男女が互いに協力して働き続けられる様々な環境整備が必要となっている。

【前回調査結果から】

育児休業に関し、「とりやすいと思う」の回答割合が前回調査と比べ大幅に増加し、「とりにくい」、「わからない」、「利用できる制度がない」との回答が、いずれも減少傾向にあることから、事業所・従業員双方の意識向上により、育児休業を取得しやすい環境づくりが進んでいることが伺える。



介護休業に関しては、「とりやすいと思う」が増加し、「とりにくいと思う」が減少していることから、社会的な理解が深まっていることが伺える一方、「わからない」との回答が増えていることから、介護休業の制度周知を含め、継続的な取得促進の取組が必要である。



課題5 男女間等あらゆる暴力の根絶について

配偶者や恋人などパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV）、デートDV）は、全ての項目において「まったくない」との回答が過半数を超えているが、「何度もされたことがある」、「されたことがある」と経験のある人が顕在しており、DV防止法により犯罪と明記されているように見過ごしてはならない行為であることから、男女とも人権尊重の意識を醸成し、特に被害の多い女性に対するあらゆる暴力の防止対策を継続的に進めることが求められる。

早急な対策としては、DVを受けたことがある人のうち「誰にも相談しなかった」が約半数を占め、また相談窓口の認知状況が「警察」以外に「わからない」との回答が多いことから、相談窓口の周知をきめ細かに図り、「警察」や専門機関等への相談がしやすい環境を整備するとともに、被害者へ充分な対応ができるように努めることが重要である。

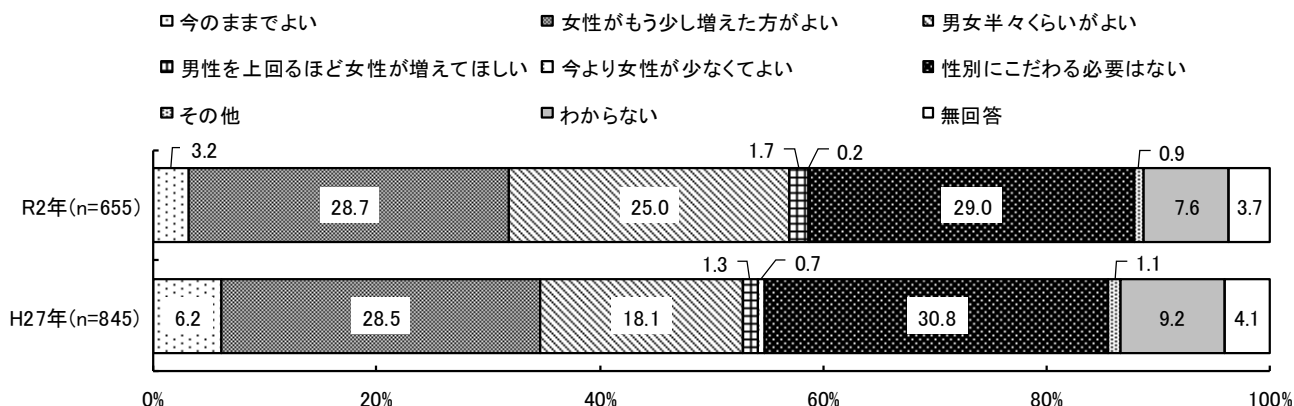
課題6 政策決定の場における男女共同参画の推進

男女共同参画社会の形成を図るためには、男女とも積極的な社会活動への参加が必要であり、政策や方針決定の場にも参画することが重要である。

市における政策方針を決定する過程への女性の参画について「性別にこだわる必要はない」との回答が最も多く、女性の参画を求める意見は突出していないが、「女性がもう少し増えた方がよい」や「男女半々くらいがよい」との意見もある。女性が政策方針を決定する過程への参画が増えた場合の社会への影響として「男性中心の考え方が変化する」、「行政への要望がきめ細かくなる」との回答から、政策決定の場への男女共同参画を進めることにより、社会における多様なニーズを反映した政策方針を決定することが求められています。

【前回調査結果から】

今後とも、政策決定の場における男女共同参画をいっそう推進するため、その先駆けとして審議会等における女性登用の比率向上を図ることが求められている。



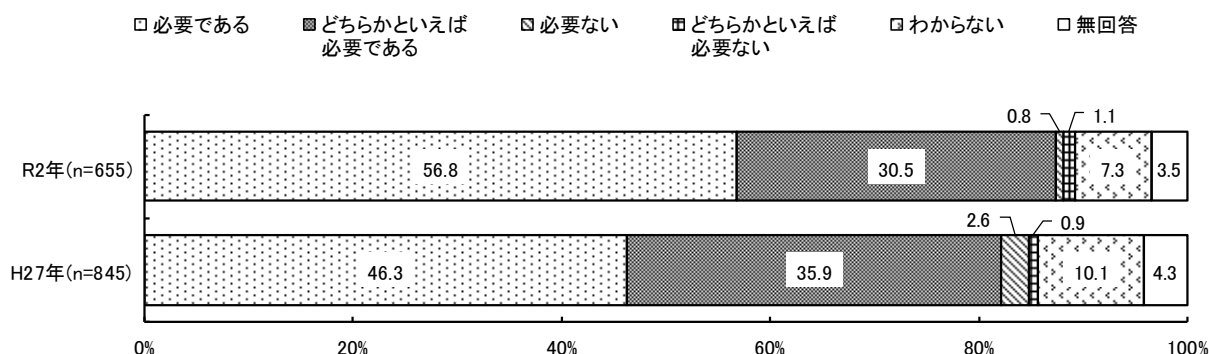
課題7 防災・災害対策の男女共同参画

防災・災害対策において、女性の視点に配慮した対応の必要性について「必要である」が最も多く、「どちらかといえば必要である」と合わせ8割を超える多くの人が“必要である”としている。

女性の視点で取り組むことは、「女性（妊産婦）や子育てのニーズに配慮した避難所の設置・運営体制」、「食料、飲料水、医薬品等物資の備えの充実や供給体制」の2点が特に必要なこととして望まれており、防災・災害対策に女性への配慮が求められる。

【前回調査結果から】

前回調査や今回の調査において、女性の視点に配慮した対応が「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせ8割を超える回答から、防災・災害対策における女性ニーズの認識が高いことが伺える。

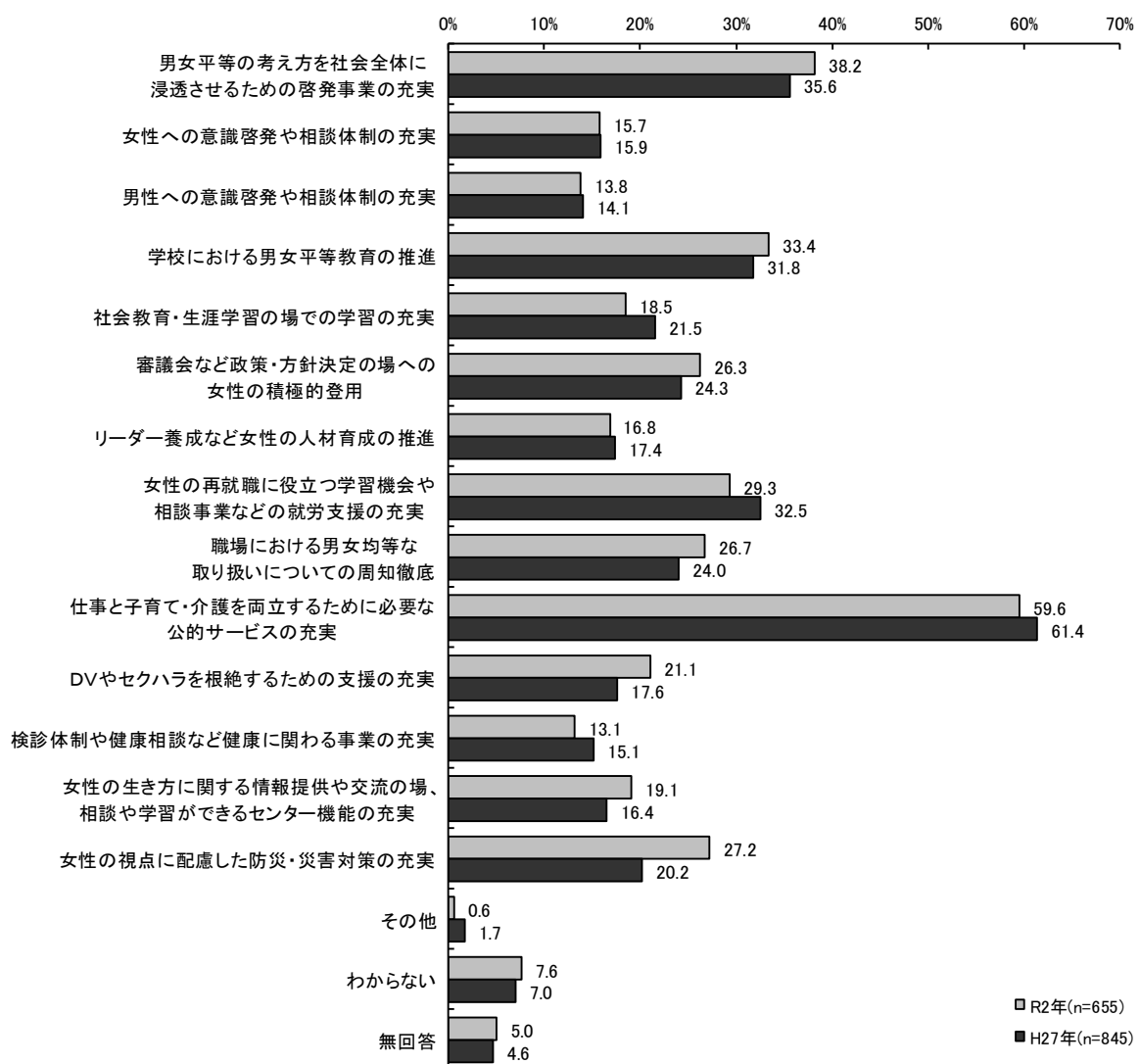


課題 8 市の取組

今後、男女共同参画社会を実現していくために、市が力を入れていくべきことは「仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」との意見が突出して多く、仕事と家庭の両立に対する取組への要望が顕著となっており、社会情勢の変化とともに地域にあった支援サービスを検討することが求められている。

その他、「男女平等の考え方を社会全体に浸透させるための啓発事業の充実」、「学校における男女平等教育の推進」、「女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実」の意見が多く、公的支援とともに社会全体の支援が得られるよう、あらゆる場面での男女平等の意識改革が必要である。

【前回調査結果から】



資料 調査票

あなたの声をお聞かせください

「男女共同参画に関する市民意識調査」 ご協力をお願い

※調査票の記入は20分程度です。

市民皆様には日頃より、市政に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止へのお力添えに、重ねて厚くお礼申し上げます。

鴨川市は、平成28年3月に「第2次鴨川市男女共同参画計画～^{みんな}男女が互いに思いやり、いきいきと活躍できる社会の実現に向けて～」を策定し、男女が互いにその人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指しています。

本年は、計画の最終年度となりますことから、新たな計画策定のため、市内の実状や市民の皆様のご意見などをお聞かせいただきたく、調査を実施いたします。

市内にお住まいの18歳以上の男女約2,000人を住民基本台帳より無作為に抽出し、調査票を送付させていただきました。ご記入は無記名で行っていただき、調査結果は統計的に処理をするため、個人の名前が公表されることはございません。

皆様にはご多用のところ、加えて新型コロナウイルス感染症の影響により大変な状況の中、誠に恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和2年8月

鴨川市長 亀田 郁夫

ご記入にあたってのお願い

1. 調査票は、封筒のあて名のご本人がご記入ください。（ご本人が記入できない場合は、ご家族の方などがご本人の意見を代筆していただいても結構です。）
2. 回答は、当てはまる項目の番号を○印で囲んでください。（複数選んでいただく設問もありますので、ご注意ください。）なお、回答の中で、「その他」を選ばれた場合には、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
3. 調査票は、令和2年8月1日現在で記入してください。
4. ご記入が済みました調査票は、記入もれがないかをご確認のうえ、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、9月4日（金）までに投函ください。

【この調査に関する問い合わせ先】

鴨川市経営企画部経営企画課 秘書広報係

〒296-8601 鴨川市横渚1450番地

電話：04-7093-7827 FAX：04-7093-7850

E-Mail：hisyo@city.kamogawa.lg.jp

はじめに、ご自身・ご家族のことについてお伺いします

問 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|------|------|-----------|
| 1 女性 | 2 男性 | 3 その他 () |
|------|------|-----------|

問 2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 18歳～29歳 | 4 50歳～59歳 |
| 2 30歳～39歳 | 5 60歳～69歳 |
| 3 40歳～49歳 | 6 70歳以上 |

問 3 あなたの就業形態を教えてください。勤め先での一時休業や産前・産後の休暇、育児休業、介護休業などで仕事を一時的に休んでいる方は、休業・休暇前の就業形態をお答えください。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1 事業主 (農林漁業・商工サービス業など) |
| 2 家族従業者 (農林漁業・商工サービス業など) |
| 3 自由業 (開業医・弁護士・芸術家など) |
| 4 管理職 (民間会社、団体、官公庁の課長級以上・大学の講師以上・学校の教頭以上) |
| 5 管理職以外の一般社員・職員 (勤務医・看護師、教員など) |
| 6 パートタイマー、アルバイト (フリーターを含む)、内職 |
| 7 派遣・契約社員 |
| 8 専業主婦・専業主夫 |
| 9 学生 |
| 10 無職 (年金生活者など) |
| 11 その他 (具体的に:) |

問 4 あなたは結婚されていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------|
| 1 結婚している | 3 未婚 |
| 2 未婚だが同居のパートナーがいる | 4 離別・死別 |

問 4-1 問 4 で「1」「2」のいずれかに○をつけた方にお伺いします。
共働きの状況を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1 自分だけが働いている | 3 共働きをしている |
| 2 配偶者・パートナーだけが働いている | 4 夫婦とも働いていない |

問 5 あなたの世帯構成は次のうちどれですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 ひとり暮らし | 4 親と子ども夫婦 (二世帯家族) |
| 2 夫婦のみ (一世帯家族) | 5 親と子どもと孫 (三世帯家族) |
| 3 親と未婚の子ども (核家族) | 6 その他 () |

問6 あなたには子どもがいらっしゃいますか。(○はあてはまるものすべて)

1 妊娠中である	5 短大・大学生・専門学校生
2 小学校入学前の子ども	6 社会人
3 小・中学生	7 いない
4 高校生	8 その他 ()

問7 あなたがお住まいの地域を教えてください。(○は1つ)

1 田原	5 大山	9 曾呂
2 西条	6 吉尾	10 太海
3 東条	7 主基	11 小湊
4 鴨川	8 江見	12 天津

男女平等と人権についてお伺いします

問8 あなたは現在、次のような場面で男女が平等になっていると思いますか。①～⑧の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。(○は各項目に1つずつ)

	1 優遇されている 男性が非常に	2 どちらかといえ ば男性が優遇さ れている	3 平等になっ ている	4 どちらかといえ ば女性が優遇さ れている	5 優遇されている 女性が非常に	6 わからない
①家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6
②職場の中で	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑤地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の面で	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念、慣習、しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体として	1	2	3	4	5	6

問9 今後、男女があらゆる分野で平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。(○は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1 | 女性の就業、社会進出を支援する施設やサービスの充実を図ること |
| 2 | 女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること |
| 3 | 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること |
| 4 | 家庭でのしつけから学校教育まで、子どもに対して一貫した男女平等教育をすること |
| 5 | 法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改めること |
| 6 | その他() |
| 7 | 特にない |

問10 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----------------|---|--------|
| 1 | そう思う | 4 | そう思わない |
| 2 | どちらかといえばそう思う | 5 | わからない |
| 3 | どちらかといえばそう思わない | | |

問11 テレビや新聞、雑誌等における性・暴力表現についてどのようにお考えですか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ |
| 2 | 女性のイメージや男性のイメージについて、かたよった表現をしている |
| 3 | 性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない |
| 4 | 社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている |
| 5 | 女性に対する犯罪を助長している |
| 6 | その他() |
| 7 | 特に問題はない |

問12 あなたが女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてですか(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|----|-----------------------|
| 1 | 配偶者・パートナーからの暴力 |
| 2 | セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ) |
| 3 | ストーカー行為 |
| 4 | 売春・買春・援助交際 |
| 5 | 痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪 |
| 6 | 容姿を競うコンテストの開催 |
| 7 | 風俗営業 |
| 8 | ヌード写真やポルノ雑誌など |
| 9 | その他() |
| 10 | 特にない |

家庭・子育て・介護についてお伺いします

〔※問13は結婚している方、もしくは未婚だが同居のパートナーがいる方のみお答えください。〕

問 13 実際^にあなたの家庭では家事や育児、介護などは、夫婦（男女）のどちらが分担していますか。①～⑫の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○は各項目に1つずつ）

	1 主に夫 (男性)	2 夫婦(男女) がおおむね 同じ	3 主に妻 (女性)	4 主にその 他の人	5 該 当 事 項 な し
①食事の支度	1	2	3	4	5
②食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5
③掃除	1	2	3	4	5
④洗濯	1	2	3	4	5
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	5
⑥日常の買い物	1	2	3	4	5
⑦日常の家計の管理	1	2	3	4	5
⑧高額な商品購入の決定	1	2	3	4	5
⑨預貯金など財産の管理	1	2	3	4	5
⑩育児（現在、または過去に）	1	2	3	4	5
⑪町内会や自治会への出席	1	2	3	4	5
⑫高齢者・病人などの世話（現在、または過去に）	1	2	3	4	5

問 13-1 問 13 の①から⑫までの仕事のうち、もっと自分が分担してもよいと思うものがあれば、3つまで選んで、次の記入欄に数字をご記入ください。

記 入 欄				
-------	--	--	--	--

問 13-2 問 13 の①から⑫までの仕事のうち、もっと配偶者又はパートナーに分担して欲しいと思うものがあれば、3つまで選んで、次の記入欄に数字をご記入ください。

記 入 欄				
-------	--	--	--	--

問 14 あなたは、結婚・離婚についてどのようにお考えですか。①～⑩の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○は各項目に1つずつ）

	1 そう思う	2 どちらかという とそう思う	3 どちらかといえ ばそう思わない	4 そう思わない	5 どちらともい えない
①女性も男性も結婚した方がよい	1	2	3	4	5
②結婚する、しないは、個人の自由であるから、どちらでもよい	1	2	3	4	5
③結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい	1	2	3	4	5
④結婚と性的関係は別である	1	2	3	4	5
⑤結婚したら子どもを持つ方がよい	1	2	3	4	5
⑥子どもを産み育てるのに、戸籍の上で結婚しているかどうかは関係ない	1	2	3	4	5
⑦夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい	1	2	3	4	5
⑧結婚をした以上、離婚すべきではない	1	2	3	4	5
⑨結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
⑩一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である	1	2	3	4	5

問 15 あなたは、出生率が低下している原因は何だと思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものをお選びください。（○は3つまで）

1	子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない
2	子育てにお金がかかりすぎる
3	結婚しない人が増えた
4	子どもより仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた
5	女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した
6	楽をしたい、子育てが面倒という人が増えた
7	出産・子育てに対する男性（夫）の理解・協力が足りず、女性（妻）の精神的・肉体的負担が大きい
8	その他（ ）
9	わからない

学校教育についてお伺いします

問 16 あなたは、学校教育の場で男女平等の意識を深めるために、どのようなことが大切だと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

- 1 学校生活全般において男女平等についての意識を高めること
- 2 家庭科などを通じて、男女共に家庭生活に必要な知識・技術を教えること
- 3 男女にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた生徒指導、進路指導を行うこと
- 4 互いの性を尊重しあうことや子どもを産み育てることの大切さを教えること
- 5 性別によって役割や順番（名簿や座席など）を固定しないこと
- 6 女性の校長や教頭を増やすこと
- 7 校長や教頭、職員などに対して、男女平等についての研修を行うこと
- 8 その他（)
- 9 わからない

就労についてお伺いします

問 17 あなたは女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。次の中からあなたの考えに最も近いものをお選びください。（〇は1つ）

- 1 女性は職業を持たない方がよい
- 2 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 3 子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 4 結婚や出産にかかわらず職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業（パート）を持つ方がよい
- 6 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業（常勤）を持つ方がよい
- 7 その他（)
- 8 わからない

問 18 女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。現在、働いていない方は、過去の経験やイメージでも結構ですのでお答えください。（〇はあてはまるものすべて）

- | | | |
|----|---|---|
| 1 | 企業において昇進・賃金等の男女間格差の解消 | |
| 2 | 保育所・介護施設の充実及び学童保育などのサポート体制の充実 | |
| 3 | 結婚、出産、育児、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実 | |
| 4 | 企業における女性の管理職等への登用の推進 | |
| 5 | 育児休業 ^{※1} ・介護休業 ^{※2} 中の賃金等の充実 | |
| 6 | 仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及 | |
| 7 | 総労働時間の短縮 | |
| 8 | フレックスタイム制 ^{※3} の導入 | |
| 9 | パートタイマーなど、非正規職員の労働条件を改善すること | |
| 10 | 在宅勤務など多様な働き方の推進 | |
| 11 | 女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力 | |
| 12 | 女性自身の自覚と意欲の向上 | |
| 13 | 男性の家事の分担など固定的な性別役割意識 ^{※4} の改革 | |
| 14 | 企業の意識の変化 | |
| 15 | その他（ | ） |
| 16 | わからない | |

- ※1 **育児休業**：労働者が原則として1歳に満たない子どもを養育するために取得する休業をいいます。また、一定の事情がある場合は、子どもが1歳6か月に達する日（再延長で2歳に達する日）までの間、育児休業することができます。
- ※2 **介護休業**：負傷、疾病又は身体上もしくは精神上の障害により、2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態にある対象家族を、労働者本人が介護するための休業をいいます。
- ※3 **フレックスタイム制**：1日の所定労働時間の長さを固定的に決めずに、1か月以内の一定期間の総労働時間をあらかじめ決めておき、その範囲内で労働者が各自の始業・終業時刻を自主的に決定して働く制度のことをいいます。
- ※4 **固定的な性別役割意識**：例えば「男は仕事、女は家庭」「男性は主要業務、女性は補助的な業務」というように、性別を理由として役割を固定化してしまう考え方や意識をいいます。

〔※ 問 19 は、会社などにお勤めの方にうかがいます。自営業、パート、アルバイト等は除きます。〕

問 19 あなたの職場では、あなたが育児休業や介護休業をとる必要が生じた場合、休業をとりやすい環境にあると思いますか。（○は各項目に1つずつ）

	1 とりやすいと思う	2 とりにくいと思う	3 わからない	4 ない 利用できる制度が
①育児休業	1	2	3	4
②介護休業	1	2	3	4

問 20 育児休業や介護休業をとる男性が少ない状況にありますか、その理由は何だと思えますか。（○はあてはまるものすべて）

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 女性がとるものだという意識が強いから
2 女性の方が育児や介護に向いていると思うから
3 職場での理解が得られないと思うから
4 昇進や昇給に影響するおそれがあるから
5 収入が減るから
6 仕事の量や責任が大きいから
7 取得後の職場復帰へ不安があるから
8 その他（
9 わからない |

 |
|---|----------------------------------|

問 21 あなたはワーク・ライフ・バランス（WLB）※1 について知っていますか。（○は1つ）

- | |
|---|
| 1 聞いたことがあり、内容も知っている
2 聞いたことはあったが、内容は知らなかった
3 聞いたこともなかった |
|---|

※1 **ワーク・ライフ・バランス（WLB）**：仕事と生活の調和。個人が仕事上の責任を果たしつつ、結婚や育児をはじめとする家族形成のほか、介護やキャリア形成、地域活動への参加など、ライフステージに応じた多様なライフスタイルを選択・実現できるようになること。

男女間の暴力についてお伺いします

- ※1 **ドメスティック・バイオレンス (DV)**: 夫や恋人などからの暴力、略してDVといわれます。パートナーの女性を殴る・蹴るなどの身体的暴力のほかに、生活費を渡さない経済的暴力、大事なものを壊す、不快な言動をするなどの心理的暴力、無理矢理性交渉に及ぶ性的暴力など、さまざまな形があります。
- ※2 **デートDV**: 婚姻関係にない恋人や元恋人、交際中、交際していたなどの親密な関係の相手からの暴力のことをいい、日本における造語です。

問 22 配偶者や恋人などパートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV)※1、デートDV※2)が社会問題になっていますが、次の①～⑧の項目について、それぞれ当てはまる番号をお選びください。(○は各項目1つずつ)

	1	2	3
	あ る	さ れ た こ と が あ る	ま っ た く な い
①なぐる、ける、引きずり回すなどの暴力をふるわれる	1	2	3
②大声でどなられる	1	2	3
③何を言っても無視され続ける	1	2	3
④携帯電話やメールのチェック、外出や人付き合いなどを制限される	1	2	3
⑤嫌がっているのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しない	1	2	3
⑥見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1	2	3
⑦「誰のおかげで食べていけると思っているんだ」「甲斐性なし」「おまえはバカだ」などとののしられる	1	2	3
⑧給料を取り上げたり、生活費を渡さないなど経済的に圧迫される	1	2	3

問 22-1 問 22 の①から⑧のいずれかで「1」もしくは「2」に○をつけた方にお伺いします。
そのとき、あなたは誰に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

1 配偶者以外の家族	8 千葉県女性サポートセンター
2 親類	9 民生委員・人権擁護委員
3 友人・知人	10 医師、カウンセラー
4 警察	11 家庭裁判所、弁護士
5 鴨川市市民相談室(市役所1階)	12 民間の支援団体
6 鴨川市福祉総合相談センター(ふれあいセンター1階)	13 その他()
7 安房健康福祉センター(安房保健所)	14 誰にも相談しなかった

↓
問 22-2 へ

問 22-2 問 22-1 で「14 誰にも相談しなかった」とお答えの方にお伺いします。
相談しなかったのはなぜですか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|----|--|
| 1 | どこ(誰)に相談して良いのかわからなかった |
| 2 | 恥ずかしくて誰にも言えなかった |
| 3 | 相談しても無駄(解決につながらない)だと思った |
| 4 | 周囲の人がDVを信じてくれないと思った |
| 5 | 相談したことがわかると仕返しにもっとひどい暴力を受けると思った |
| 6 | 自分(被害者)さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思った |
| 7 | 他人を巻き込みたくなかった |
| 8 | 子どもに危害が及ぶと思った |
| 9 | 自分(被害者)にも悪いところがあると思った |
| 10 | 相談するほどではないと思った |
| 11 | そのこと(暴力)について、思い出したくなかった |
| 12 | 以前は優しかったので、いつか変わってくれると思った |
| 13 | 相手が反省する時があり、「この人には私がいないとだめなんだ」と思ってしまった |
| 14 | その他() |
| 15 | わからない |

問 23 配偶者や恋人などパートナーからの暴力に関する相談窓口を知っていますか。
(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 | 警察 |
| 2 | 鴨川市市民相談室(市役所1階) |
| 3 | 鴨川市福祉総合相談センター(ふれあいセンター1階) |
| 4 | 安房健康福祉センター(安房保健所) |
| 5 | 千葉県女性サポートセンター |
| 6 | 民生委員・人権擁護委員 |
| 7 | 民間の支援団体(NPO法人等) |
| 8 | その他() |
| 9 | わからない |

問 24 配偶者や恋人などパートナーからの暴力について、今後行政に対してどのような対応を望みますか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 | 警察による対応の充実 |
| 2 | 緊急一時避難所(シェルター)の確保 |
| 3 | 相談体制の連携充実 |
| 4 | 相談機関等の周知 |
| 5 | 配偶者暴力相談支援センターの整備 |
| 6 | 被害者の自立のための経済的支援 |
| 7 | 講演会の開催や広報誌等による暴力防止の意識啓発 |
| 8 | その他() |
| 9 | わからない |

政策決定の場における男女共同参画について伺います

問 25 鴨川市では、平成 31 年 4 月 1 日現在、審議会等における女性委員の比率は 20.4%です。今後の鴨川市における政策方針を決定する過程への女性の参画について、あなたはどのようになっていくことがよいと思いますか。（〇は 1 つ）

- | | | |
|---|-------------------|---|
| 1 | 今のままでよい | |
| 2 | 女性がもう少し増えた方がよい | |
| 3 | 男女半々くらいがよい | |
| 4 | 男性を上回るほど女性が増えてほしい | |
| 5 | 今より女性が少なくてよい | |
| 6 | 性別にこだわる必要はない | |
| 7 | その他（ | ） |
| 8 | わからない | |

問 26 女性の議員や審議会委員が増加し、政策方針等を決定する過程への女性の参画が増えると、社会はどのように変わるとお考えですか。（〇は 2 つまで）

- | | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 男性中心の考え方が変化する | |
| 2 | 行政への要望がきめ細くなる | |
| 3 | より平等な社会になる | |
| 4 | 政治が身近なものになる | |
| 5 | 何も変わらない | |
| 6 | 社会にとっては好ましくない | |
| 7 | その他（ | ） |
| 8 | わからない | |

防災・災害対策についてお伺いします

問 27 あなたは、防災・災害復興対策に、女性の視点に配慮した対応が必要だと思いませんか。（〇は一つ）

- | | |
|---|---------------|
| 1 | 必要である |
| 2 | どちらかといえば必要である |
| 3 | 必要ない |
| 4 | どちらかといえば必要ない |
| 5 | わからない |

問 28 防災・災害復興対策（災害発生時における避難場所での生活を想定）で女性の視点に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。（〇はあてはまるものすべて）

- | | | |
|---|---------------------------------|---|
| 1 | 女性（妊産婦）や子育てのニーズに配慮した避難所の設置・運営体制 | |
| 2 | 食料、飲料水、医薬品等物資の備えの充実や供給体制 | |
| 3 | 被災者の相談受付体制 | |
| 4 | 救急医療体制 | |
| 5 | 特になし | |
| 6 | その他（ | ） |
| 7 | わからない | |

市の取り組みについてお伺いします

問 29 男女共同参画社会を実現していくために、今後鴨川市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

- 1 男女平等の考え方を社会全体に浸透させるための啓発事業の充実
- 2 女性への意識啓発や相談体制の充実
- 3 男性への意識啓発や相談体制の充実
- 4 学校における男女平等教育の推進
- 5 社会教育・生涯学習の場での学習の充実
- 6 審議会など政策・方針決定の場への女性の積極的登用
- 7 リーダー養成など女性の人材育成の推進
- 8 女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実
- 9 職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底
- 10 仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実
- 11 DVやセクハラを根絶するための支援の充実
- 12 検診体制や健康相談など健康に関わる事業の充実
- 13 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談や学習ができるセンター機能の充実
- 14 女性の視点に配慮した防災・災害対策の充実
- 15 その他（）
- 16 わからない

問 30 男女共同参画社会を実現していくまちづくりについて、ご意見・ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、何でも結構ですので自由に記入してください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

ご多用のところ、調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。
お手数ですが、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、9月4日(金)までに
投函してください。

男女共同参画に関する市民意識調査集計等結果報告書

令和4年3月 発行

千葉県鴨川市経営企画部経営企画課
〒296-8601 千葉県鴨川市横渚1450
TEL 04-7093-7827